

令和 2 年度
授 業 概 要
(シラバス)



東北生活文化大学短期大学部

シラバス項目の内容

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 学位授与の方針との関連：次のページを参照ください。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
自習 事前学修	授業時間外の予習について記載しています。
自習 事後学修	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数の1／3をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。
教科書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。
参考書	参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。

大分類	中分類	小分類	科目番号	レベル	学年
A	1	a	01	1	1

大分類：学科をあらわします。

A・・・食物栄養学専攻
B・・・子ども生活専攻
K・・・共通教養

中分類：科目の区分

1・・・学科共通教養科目
2・・・基幹科目
3・・・学科専攻科目

小分類：科目群

学位授与の方針との関連

食物栄養学専攻

<知識・理解>

1. 基礎的な学習能力・知識と社会人としての豊かな教養を身につけること。
2. 家庭と社会との関りを理解できること。
3. 栄養士に必要な専門知識・技術と、食分野の幅広い知識を身につけること。

<汎用的技能>

4. 栄養士として指導力を発揮できる実践力・コミュニケーション能力を身につけること。

<態度・志向性>

5. 基準や法令を遵守し、安全でおいしい食事を提供するための倫理観・責任感をもつこと。

<総合的な学習経験と創造的思考力>

6. 実習・演習・講義などを通して獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立し、主体的に行動できる能力を身につけること。

子ども生活専攻

<知識・理解>

1. 基礎的な学習能力・知識と社会人としての豊かな教養を身につけること。
2. 家庭と社会との関りを理解できること。
3. 保育士と幼稚園教諭に必要な専門知識・技術と保育に関する幅広い知識を身につけること。

<汎用的技能>

4. 保育の現場で自ら課題の解決に取り組むことができる実践力・コミュニケーション能力を身につけること。

<態度・志向性>

5. 保育者として子どもの安全や健全な成長にかかわることへの倫理観・責任感をもつこと。

<総合的な学習経験と創造的思考力>

6. 実習・演習・講義などを通して獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立し、主体的に行動できる能力を身につけること。

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈食物栄養学専攻〉

科目名	担当者	科目名	担当者
解剖生理学	曾根 正彦	調理学実習Ⅲ	済渡 久美
病理学	曾根 正彦	給食管理学	益田 裕司
食品衛生学	黒川 優子	給食管理基礎演習Ⅰ	益田 裕司
食品衛生学実験Ⅰ	黒川 優子	給食管理基礎演習Ⅱ	益田 裕司
食品衛生学実験Ⅱ	黒川 優子	給食管理実習Ⅰ	益田 裕司
微生物学	黒川 優子	給食管理実習Ⅱ	益田 裕司
臨床栄養学概論	高橋 文	給食管理実習Ⅲ (給食運営に係る校外実習)	益田 裕司
臨床栄養学各論	高橋 文	栄養士基礎演習	益田 裕司
臨床栄養学実習	益田 裕司	食文化論	深澤 律子
ライフステージ栄養学実習Ⅰ	木下 ゆり	特別演習	曾根 正彦・益田 裕司・黒川 優子
栄養指導論Ⅰ	木下 ゆり	テーブルコーディネートⅠ (テーブルマナーを含む)	小林 知恵子
栄養指導論Ⅱ	木下 ゆり	テーブルコーディネートⅡ	小林 知恵子
栄養指導論実習	木下 ゆり	フードエンタテインメント演習	堀江 志帆 他

〈子ども生活専攻〉

科目名	担当者	科目名	担当者
子ども家庭福祉論	米川 純子	保育内容(表現Ⅰ)	横山 美喜子 佐藤 和貴
地域福祉論	米川 純子	保育内容(表現Ⅱ)	横山 美喜子 佐藤 和貴
子ども家庭支援論	浅野 咲子	教育・保育方法論	岡崎 善治
社会的養護Ⅰ	米川 純子	保育内容の指導法	高橋 恵美
保育者論	岡崎 善治	保育の実技と演習	高橋 恵美 岡崎 善治
子ども家庭支援の心理学	米川 純子	児童文化Ⅰ	安藤 倫子
教育・保育相談	米川 純子	児童文化Ⅱ	横山 美喜子
子どもの保健	千葉 明子	乳児保育Ⅰ	大窪 裕喜恵
子どもの食と栄養Ⅰ	菊地 香保里	乳児保育Ⅱ	大窪 裕喜恵
子どもの食と栄養Ⅱ	菊地 香保里	子どもの健康と安全	岩佐 あけみ
教育課程論	山崎 敦子	特別支援教育	岡崎 善治
保育の計画と評価	高橋 恵美	社会的養護Ⅱ	米川 純子
保育内容総論	高橋 恵美	音楽Ⅰ	佐藤 和貴
保育内容(環境Ⅰ)	高橋 恵美	音楽Ⅱ	佐藤 和貴
保育内容(環境Ⅱ)	高橋 恵美 岡崎 善治	造形Ⅰ	横山 美喜子
保育内容(言葉Ⅰ)	佐藤 深雪	造形Ⅱ	横山 美喜子
保育内容(言葉Ⅱ)	佐藤 深雪	ピアノⅠ	佐藤 和貴
ピアノⅡ	佐藤 和貴	保育実習指導Ⅰ	佐藤 深雪 他
ピアノⅢ	佐藤 和貴	保育実習指導Ⅱ	米川 純子 他
ピアノⅣ	佐藤 和貴	教育実習指導	高橋 恵美 他

令和2年度

目 次

生活文化学科共通教養科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象専攻・年	担当者	頁
K-1-a-01-1	生物と生命倫理	前期	食専・子専1	堀江 佐知子	1
K-1-a-02-1	地球環境学	後期	食専・子専2	黒川 優子	2
K-1-b-01-1	消費生活と経済	後期	食専・子専2	舩谷 謙二	3
B-1-b-03-1	日本国憲法	後期	子専1	横田 尚昌	4
K-1-b-03-1	日本国憲法	前期	食専2	横田 尚昌	5
K-1-c-01-1	文化史	後期	食専・子専2	庄司 一平	6
K-1-c-02-1	心理学	前期	食専・子専1	植松 公威	7
K-1-c-03-1	健康管理学	前期	食専・子専2	土屋 葉子	8
K-1-c-04-1	健康スポーツⅠ	前期	食専・子専1	土屋 葉子	9
K-1-c-05-1	健康スポーツⅡ	後期	食専1	土屋 葉子	10
	健康スポーツⅡ	後期	子専1	土屋 葉子	11
K-1-d-01-1	日本語基礎	後期	食専・子専1	佐藤 深雪	12
K-1-d-02-1	国語表現法	後期	子専1・食専2	佐藤 深雪	13
A-1-d-03-1	英語Ⅰ	後期	食専1	佐藤 恵	14
B-1-d-03-1	英語Ⅰ	前期	子専1	佐藤 恵	15
B-1-d-04-1	英語Ⅱ	後期	子専1	佐藤 恵	16
A-1-d-05-1	情報処理Ⅰ	前期	食専1	松尾 広	17
B-1-d-05-1	情報処理Ⅰ	前期	子専1	松尾 広	18
A-1-d-06-1	情報処理Ⅱ	後期	食専1	松尾 広	19
B-1-d-06-1	情報処理Ⅱ	後期	子専1	松尾 広	20
A-1-e-01-1	スタディスキルズ	前期	食専1	食物栄養学専攻教員全員	21
B-1-e-01-1	スタディスキルズ	前期	子専1	子ども生活専攻教員全員	22
A-1-e-02-3	キャリアアップセミナー	後期	食専1	食物栄養学専攻教員全員	23
B-1-e-02-3	キャリアアップセミナー	後期	子専1	子ども生活専攻教員全員	24
A-1-e-03-3	キャリアサポートセミナーⅠ	通年	食専1のみ	佐藤 淳一 他 教職員	25 26
A-1-e-04-3	キャリアサポートセミナーⅡ	前期	食専2のみ	佐藤 淳一 他 教職員	27

生活文化学科基幹科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象専攻・年	担当者	頁
K-2-a-01-1	生活文化概論	前期	食専1	伊藤 常久	28
	生活文化概論	前期	子専1	伊藤 常久	29
K-2-a-02-1	生活文化各論	後期	食・子1	生活文化学科教員全員	30

食物栄養学専攻専攻科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	担当者	頁
A-3-a-01-2-2	健康づくりとレクリエーション	後期	伊藤 常久	31
A-3-a-02-1-1	有機化学	前期	菅野 修一	32
A-3-a-03-1-2	統計学	前期	池田 展敏	33
A-3-a-04-1-1	数学基礎演習	前期	池田 展敏	34
A-3-a-05-2-2	栄養情報処理演習Ⅰ	前期	池田 展敏	35
A-3-a-06-2-2	栄養情報処理演習Ⅱ	後期	池田 展敏	36
A-3-a-07-2-2	学校・地域の安全安心 (防災及び救急処置を含む。)	後期	伊藤 常久	37
A-4-b-01-2-2	社会福祉論	後期	伊藤 常久	38
A-4-b-02-2-2	公衆衛生学	前期	伊藤 常久	39
A-4-b-03-2-1	健康管理概論	後期	伊藤 常久	40
A-4-c-01-2-1	解剖生理学	後期	曾根 正彦	41
A-4-c-02-2-2	運動生理学	後期	川俣 幸一	42
A-4-c-03-2-1	生化学	後期	鈴木 裕行	43
A-4-c-04-2-2	病理学	前期	曾根 正彦	44
A-4-d-01-2-1	食品学	前期	永沼 孝子	45
A-4-d-02-2-2	食品機能学	後期	永沼 孝子	46
A-4-d-03-2-1	食品学実験Ⅰ	前期	永沼 孝子	47
A-4-d-04-2-1	食品学実験Ⅱ	後期	永沼 孝子	48
A-4-d-05-2-2	食品衛生学	前期	黒川 優子	49
A-4-d-06-2-2	食品衛生学実験Ⅰ	前期	黒川 優子	50
A-4-d-07-2-2	食品衛生学実験Ⅱ	後期	黒川 優子	51
A-4-d-08-2-1	微生物学	前期	黒川 優子	52
A-4-e-01-2-1	栄養学Ⅰ	前期	永沼 孝子	53
A-4-e-02-2-1	栄養学Ⅱ	後期	永沼 孝子	54
A-4-e-03-2-2	栄養学実験	後期	永沼 孝子	55
A-4-e-04-2-1	ライフステージ栄養学	後期	永沼 孝子	56
A-4-e-05-2-1	ライフステージ栄養学実習Ⅰ	後期	木下 ゆり	57
A-4-e-06-2-2	ライフステージ栄養学実習Ⅱ	前期	川俣 幸一	58
A-4-e-07-2-2	臨床栄養学概論	前期	高橋 文	59
A-4-e-08-2-2	臨床栄養学各論	後期	高橋 文	60
A-4-e-09-2-2	臨床栄養学実習	後期	益田 裕司	61
A-4-f-01-2-1	栄養指導論Ⅰ	後期	木下 ゆり	62
A-4-f-02-2-2	栄養指導論Ⅱ	前期	木下 ゆり	63
A-4-f-03-2-2	栄養指導論実習	前期	木下 ゆり	64
A-4-f-04-2-2	公衆栄養学	後期	栗山 孝雄	65
A-4-g-01-2-1	調理科学論	前期	宮地 洋子	66
A-4-g-02-2-1	調理学実習Ⅰ	前期	宮地 洋子	67
A-4-g-03-2-1	調理学実習Ⅱ	後期	宮地 洋子	68
A-4-g-04-2-2	調理学実習Ⅲ	前期	濟渡 久美	69
A-4-g-05-2-1	給食管理学	前期	益田 裕司	70
A-4-g-06-2-1	給食管理基礎演習Ⅰ	後期	益田 裕司	71
A-4-g-07-2-2	給食管理基礎演習Ⅱ	前期	益田 裕司	72
A-4-g-08-2-1	給食管理実習Ⅰ	前期	益田 裕司	73
A-4-g-09-2-2	給食管理実習Ⅱ	前期	益田 裕司	74
A-4-g-10-2-2	給食管理実習Ⅲ(給食運営に係る校外実習)	前期	益田 裕司	75
A-4-g-11-2-1	栄養士基礎演習	後期	益田 裕司	76
A-5-a-01-2-2	食文化論	後期	深澤 律子	77
A-5-a-02-3-1	食生活支援論	前期	松尾 広・池田 展敏・黒川 優子	78
A-5-a-04-3-2	特別演習	前期	永沼 孝子・曾根 正彦・鈴木 裕行・黒川 優子・益田 裕司	79
A-5-a-05-2-1	テーブルコーディネートⅠ (テーブルマナーを含む。)	前期	小林 知恵子	80
A-5-a-06-2-1	テーブルコーディネートⅡ	後期	小林 知恵子	81
A-5-a-07-2-2	フードマネジメント	前期	堀田 宗徳	82
A-5-a-08-3-2	フードエンタテイメント演習	後期	池田 展敏・堀江 志穂	83
A-5-a-09-2-2	コンピュータサイエンス概論	後期	池田 展敏	84

子ども生活専攻専攻科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	担当者	頁
B-3-a-01-2-1	保育原理	前期	山沢 智樹	85
B-3-a-02-2-1	教育原理	前期	山沢 智樹	86
B-3-a-03-2-1	子ども家庭福祉論	前期	米川 純子	87
B-3-a-04-2-1	社会福祉論	前期	大瀬戸 美紀	88
B-3-a-05-2-2	地域福祉論	後期	米川 純子	89
B-3-a-06-2-2	子ども家庭支援論	後期	浅野 咲子	90
B-3-a-07-2-1	社会的養護Ⅰ	後期	大瀬戸 美紀・米川 純子	91
B-3-a-08-2-2	保育者論	後期	岡崎 善治	92
B-3-a-09-2-2	教育・保育制度論	後期	山沢 智樹	93
B-3-b-01-2-1	発達心理学	後期	三浦 主博	94
B-3-b-02-2-2	子ども理解の理論と方法	前期	三浦 主博	95
B-3-b-03-2-2	教育心理学	後期	植松 公威	96
B-3-b-04-2-2	子ども家庭支援の心理学	後期	米川 純子	97
B-3-b-05-2-2	教育・保育相談	前期	米川 純子	98
B-3-b-06-2-1	子どもの保健	前期	千葉 明子	99
B-3-b-07-2-2	子どもの食と栄養Ⅰ	前期	菊地 香保里	100
B-3-b-08-2-2	子どもの食と栄養Ⅱ	後期	菊地 香保里	101
B-3-c-01-2-2	教育課程論	前期	山崎 敦子・山沢 智樹	102
B-3-c-02-2-1	保育の計画と評価	後期	高橋 恵美	103
B-3-c-03-2-1	保育内容総論	前期	高橋 恵美	104
B-3-c-04-2-1	保育内容(健康Ⅰ)	前期	土屋 葉子	105
B-3-c-05-2-2	保育内容(健康Ⅱ)	後期	土屋 葉子	106
B-3-c-06-2-1	保育内容(人間関係Ⅰ)	前期	大瀬戸 美紀	107
B-3-c-07-2-2	保育内容(人間関係Ⅱ)	後期	大瀬戸 美紀	108
B-3-c-08-2-1	保育内容(環境Ⅰ)	後期	高橋 恵美	109
B-3-c-09-2-2	保育内容(環境Ⅱ)	前期	高橋 恵美・岡崎 善治	110
B-3-c-10-2-1	保育内容(言葉Ⅰ)	後期	佐藤 深雪	111
B-3-c-11-2-2	保育内容(言葉Ⅱ)	前期	佐藤 深雪	112
B-3-c-12-2-1	保育内容(表現Ⅰ)	後期	横山 美喜子・佐藤 和貴	113
B-3-c-13-2-2	保育内容(表現Ⅱ)	後期	横山 美喜子・佐藤 和貴	114
B-3-c-14-2-1	教育・保育方法論	前期	岡崎 善治・松尾 広	115
B-3-c-15-2-2	保育内容の指導法	前期	高橋 恵美	116
B-3-c-16-2-2	保育の実技と演習	前期	高橋 恵美・岡崎 善治	117
B-3-c-17-2-1	児童文化Ⅰ	後期	安藤 倫子	118
B-3-d-02-2-2	児童文化Ⅱ	前期	横山 美喜子	119
B-3-c-19-2-1	乳児保育Ⅰ	前期	大窪 裕喜恵	120
B-3-c-20-2-1	乳児保育Ⅱ	後期	大窪 裕喜恵	121
B-3-c-21-2-1	子どもの健康と安全	後期	岩佐 あけみ	122
B-3-c-20-2-2	障害児保育	前期	大瀬戸 美紀	123
B-3-c-21-2-2	特別支援教育	後期	岡崎 善治	124
B-3-c-22-2-2	社会的養護Ⅱ	前期	大瀬戸 美紀・米川 純子	125
B-3-c-23-2-2	子育て支援	後期	大瀬戸 美紀	126
B-3-c-26-2-1	音楽Ⅰ	前期	佐藤 和貴	127
B-3-c-27-2-1	音楽Ⅱ	後期	佐藤 和貴	128
B-3-c-32-2-1	造形Ⅰ	前期	横山 美喜子	129
B-3-c-33-2-1	造形Ⅱ	後期	横山 美喜子	130
B-3-c-34-2-1	体育Ⅰ	後期	土屋 葉子	131
B-3-d-11-2-2	体育Ⅱ	前期	土屋 葉子	132
B-3-c-28-2-1	ピアノⅠ	前期	佐藤和貴・阿部玲子・渡辺 恵・大友詠里子 ・阿部陽子	133
B-3-c-29-2-1	ピアノⅡ	後期	佐藤和貴・阿部玲子・渡辺 恵・大友詠里子 ・阿部陽子	134
B-3-d-19-2-2	ピアノⅢ	前期	佐藤和貴・阿部玲子・渡辺 恵・大友詠里子 ・阿部陽子	135
B-3-d-20-2-2	ピアノⅣ	後期	佐藤和貴・阿部玲子・渡辺 恵・大友詠里子 ・阿部陽子	136
B-3-d-01-2-1	保育実習指導Ⅰ	通年	佐藤深雪・佐藤和貴・高橋恵美・大瀬戸美紀・米川純子・山沢智樹 他	137 138
B-3-e-02-2-2	保育実習指導Ⅱ	通年	佐藤深雪・佐藤和貴・高橋恵美・大瀬戸美紀・米川純子・山沢智樹 他	139
B-3-e-01-2-1	教育実習(事前)指導(1年次)	通年	横山美喜子・土屋葉子・岡崎善治 他	140
B-3-e-03-2-2	教育実習(事前事後)指導(2年次)	通年	横山美喜子・岡崎善治・高橋恵美・三浦主博 他子ども生活専攻教員	141
B-3-e-04-3-2	保育・教職実践演習(幼稚園)	後期	高橋恵美・山崎敦子・三浦主博	142

生活文化学科共通教養科目

授業科目名		生物と生命倫理				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	堀江 佐知子		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	食専・子専1年			
授業の概要													
本講義は、生命の誕生から生物の一種として、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目標とし講義を行う。 生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。本講義では、地球上で生命が受け継がれてきた道筋を知る講義であり、細胞内の分子のようなマイクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで、さまざまな生命現象を学んでいく講義である。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。								○					
学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。										食			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 講義内容および進め方や評価方法の説明						生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。							
2. 原始地球の誕生						地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
3. 地球と生命の誕生と進化						生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
4. 魚の進化						魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
5. 植物の進化						植物の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
6. 哺乳類の進化						哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
7. 鳥の進化						鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
8. 昆虫の進化						昆虫の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
9. 人類の進化						人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
10. ヒトの設計図，遺伝子						遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
11. 心臓・血管						心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
12. 骨と筋肉						骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
13. 免疫						免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
14. 脳と心						脳について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。							
15. 講義のまとめ						講義内容をまとめる。							
16. 試験						試験対策を行う。							
履修上の注意													
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。													
成績評価方法・基準													
課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。													
教科書 授業前にプリントを配布する。													
参考書 なし													
備考													
質問等については、講義の終了時に受付ける。													

授業科目名		地球環境学				単位（授業時間＋自習時間）				2 (30+60)			
担当者	黒川 裕子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専・子専 2 年				
授業の概要													
日本各地で公害問題が多発した 1960～1970 年代の高度経済成長期から約半世紀が経過した今日では、法的な規制、汚染物質の浄化技術の発達、そして人々の環境に関する意識の向上のため、見た目の環境はかなり良くなったが、地球温暖化をはじめ、地球レベルで対策を講じなければならない課題も少なくない。したがって、環境問題に関する基礎的な知識を習得し、「環境を保全、修復するために何をすべきか」について理解を深めることが大切であり、これまでに取り組んできた調査・研究の成果を説明しながら講義を進める。													
授業の目標(到達目標)								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
環境に関する基礎的知識を身に付ける。								○	○				
環境との関わり方の大切さについて理解を深める。								○	○				
環境問題に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。								○	○				
環境に関する基礎的知識を身に付ける。								○	○				
授業計画の内容						事前・事後学修の内容							
1. 人間活動と環境とのかかわり						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
2. 環境変化に伴う異変						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
3. 化学物質汚染研究の基礎						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
4. 大気汚染						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
5. 水質汚染						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
6. 土壌汚染						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
7. 化学物質による汚染						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
8. 放射能汚染						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
9. 汚染物質の毒性と生体内での代謝						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
10. 内分泌攪乱物質						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
11. アセスメント手法						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
12. 飲料水と食品に関する今後の課題						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
13. ごみと廃棄物						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
14. エネルギー資源と環境問題						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
15. 環境活動の実践と環境倫理						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
履修上の注意													
日頃から環境に関心・興味を持つように心がけ、新聞、テレビ、インターネット、書籍等で環境に関する情報について調べておく。													
成績評価方法・基準													
・授業への取り組み（授業への参加状況およびミニットペーパーの評価等で総合的に判断する）（30％）、調査とレポートへの取り組み（30％）、試験（40％） ・提出された課題については、後日、添削して返却する。													
教科書 〔環境科学入門 第2版－地球と人類の未来のために〕〔川合真一郎・張野宏也・山本義和〕〔化学同人〕〔2,300 円〕													
参考書 ・〔川合真一郎〕〔環境ホルモンと水生生物〕〔成山堂書店〕〔1,600 円〕 ・〔沈黙の春〕〔レイチェル・カーソン著、青樹繁一訳〕〔新潮社〕〔766 円〕 ・〔新装版 苦海浄土（くがいじょうど） わが水俣病〕〔石牟礼道子〕〔講談社〕〔690 円〕 ・〔森は海の恋人〕〔畠山重篤〕〔文芸春秋〕〔640 円〕													
備考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		消費生活と経済				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	舩谷 謙二		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専・子専 2			
授業の概要													
われわれが享受している豊かな消費生活は「大量生産・大量販売・大量消費システム」による高度経済成長から、今日の「経済活動のグローバル化」に至る経済成長によってもたらされた。しかし、その過程では消費生活を脅かす欠陥商品・不当表示・契約トラブルなど多様な問題もあった。 この授業では、われわれの消費生活を背後で支える経済のメカニズムや、その発展の歩みを概観するとともに、さまざまな「消費者問題」の発生と対処について教授する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
(1) 経済活動の基礎的メカニズムが理解できる。								○	○				
(2) 消費生活が経済社会の発展と共に変容してきたことが理解できる。								○	○				
(3) 消費者問題の内容と対処法が理解できる。								○	○				
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション：授業の進め方、授業概要の確認など						シラバスを精読して授業に臨む。							
2. 経済発展と消費生活の変容（1970 年代まで）						レポートを作成して次回提出する。							
3. 経済発展と消費生活の変容（1980 年代から）						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
4. 消費生活のメカニズム：需要と供給の世界（最適消費の理論）						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
5. 消費生活のメカニズム：需要と供給の世界（雇用と物価）						レポートを作成して次回提出する。							
6. 理念としての消費者と現実の消費者（消費者主権）						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
7. 消費者問題の概要（1）消費者保護基本法の基本視角						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
8. 消費者問題の概要（2）PL 法から消費者基本法へ						レポートを作成して次回提出する。							
9. クレジット社会の消費者問題						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
10. 情報化社会の諸費者問題						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
11. 高齢社会の消費者問題						レポートを作成して次回提出する。							
12. 企業・消費者・行政						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
13. 消費者保護から自立支援へ						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
14. 消費者政策と消費者教育						レポートを作成して次回提出する。							
15. 補足と授業のまとめ						授業でのキーワードを辞書で調べる。							
履修上の注意													
テレビや新聞で日々の経済の動きや消費者問題の動向について継続的にチェックしておくこと。 ※ 初回授業には必ず出席すること。													
成績評価方法・基準													
授業内で提出するミニットペーパー（75％）・5 回の課題レポート（25％）で評価する。なお、レポートについては授業中に、ミニットペーパーについては次回授業でフィードバックする。													
教科書 プリントを配布する。													
参考書 授業中に適宜指示する。													
備 考													
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。													

授業科目名		日本国憲法			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	横田 尚昌	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専 1 年			
授業の概要												
憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。							○					
憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。							○					
憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。							○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）					近代立憲主義の基本原理が日本国憲法のなかにどのように生きているのかを確認する。							
2. 天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）					日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）							
3. 選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）					選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。							
4. 国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）					国家とは、「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。							
5. 内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）					政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。							
6. 裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）					裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。							
7. 地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）					地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。							
8. 人権とは（1789 年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）					そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。							
9. 人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）					憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する							
10. 幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）					幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。							
11. 内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）					思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する							
12. 表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）					表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。							
13. 経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）					職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。							
14. 生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）					福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかに保障されているのか、またその限界について把握する。							
15. 参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）					参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。							
履修上の注意												
身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。												
成績評価方法・基準												
平常点 4 0 %（平常点は、授業時間中にふさわしくない態度をとっていないか、また、必ず予告して行う小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート 6 0 %（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。												
教科書 特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）												
参考書 授業中に指示する。												
備 考												
オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の 14:00 過ぎから 4 校時開始時刻前までの間とする。												

授業科目名		日本国憲法			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	横田 尚昌	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要												
憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。							○					
憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。							○					
憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。							○					
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）					近代立憲主義の基本原則が日本国憲法のなかにどのように生きているのかを確認する。							
2. 天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）					日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）							
3.選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）					選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。							
4. 国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）					国家とは、「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。							
5.内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）					政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。							
6. 裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）					裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。							
7. 地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）					地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。							
8. 人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）					そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。							
9. 人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）					憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する							
10. 幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）					幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。							
11. 内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）					思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する							
12. 表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）					表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。							
13. 経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）					職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。							
14. 生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）					福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかに保障されているのか、またその限界について把握する。							
15. 参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）					参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。							
履修上の注意												
身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。												
成績評価方法・基準												
平常点40％（平常点は、授業時間中にふさわしくない態度をとっていないか、また、必ず予告して行う小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。												
教科書 特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）												
参考書 授業中に指示する。												
備 考												
5 オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。												

授業科目名		文化史			単位（総授業時間＋自習時間）					2(30+60)			
担当者	庄司 一平	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専・子専2年				
授業の概要													
わたしたちの時間は、普段の暮らしという日常と、まつりやイベントという非日常で成り立っている。非日常的な行事や儀礼の多くは、季節の切り替わり（春／夏／秋／冬）や年齢の節目（おとな／子ども）をつくりだし、生活や人生にメリハリを与える「年中行事」と「人生儀礼」である。この講義では、過去と現在における口頭伝承・民間習俗を手がかりに、さまざまな行事や儀礼の様式およびその歴史的・文化的背景、日本社会における暮らし方・生き方をめぐる諸問題について考える。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
日本の民俗文化に関する幅広い教養を身につける								○					
日本の年中行事・人生儀礼とその文化的背景について、意欲的に調べ説明することができる											○	○	○
日本社会における暮らし方・生き方について、主体的に考え議論ことができる											○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）								
1. イントロダクション					生活・人生と時間								
2. 季節と暦の民俗文化					さまざまな四季区分・暦								
3. 春と夏の民俗文化					春・夏のまつりと行事								
4. 秋と冬の民俗文化					秋・冬のまつりと行事								
5. 年齢と人生の民俗文化					年齢という制度・規範、厄年								
6. 誕生の民俗文化					出産、名づけ、成育儀礼								
7. 子どもの民俗文化					遊びと学び、通過儀礼								
8. 若者の民俗文化					成年式と「一人前」								
9. おとなの民俗文化					恋愛と結婚、性と再生産								
10. 老の民俗文化					超高齢社会とシニア、ポックリ信仰								
11. 病の民俗文化					健康法、民間療法と代替医療								
12. 医の民俗文化					医療化・キュアとケア、病気なおし								
13. 死の民俗文化					死別と悲嘆、葬送墓制								
14. 死後の民俗文化					死後観念、死者供養								
15. まとめ					全体の振り返り								
履修上の注意：マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。													
成績評価方法・基準：①授業への参加度・理解度（ミニットペーパー）[50%]、②レポート [50%] により総合的に評価する。授業中に適宜振り返りを行う。													
教科書：使用しない。プリントを配布する。													
参考書：[暮らしの中の民俗学 1～3（吉川弘文館、2003 年）][新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）][各 2,600 円＋税] その他授業中に適宜紹介する。													
備考：質問等は授業終了時に受け付ける。													

授業科目名		心理学				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）					
担当者	植松 公威		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	食専・子専1年					
授業の概要															
心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究の特色、とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について、実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として、行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析学などを取り上げ、それぞれの理論を説明する。また、記憶の実験を実際に体験することを通して記憶のメカニズムについて考えさせる。															
授業の到達目標						学位授与の方針との関連									
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	
						1 条件操作的な実験による仮説検証がこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。	○								
						2 行動主義心理学、社会的学習理論、精神分析学の各理論の人物名とキーワードを理解する。	○								
3 記憶のメカニズムについて感覚的記憶、短期記憶、長期記憶の関係を理解し、説明できるようになる。						○									
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）									
1. ガイダンス（教授内容と教育目標）						あらかじめシラバスを熟読すること。									
2. 条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話など－						資料を熟読し、要点をまとめること。									
3. 心理学の目標と研究のプロセス						資料やノートを復習し、要点をまとめること。									
4. 説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果						実験の結果を理解し、考察ついてまとめること。									
5. 認知的不協和理論について						実験の結果を理解し、考察ついてまとめること。									
6. 現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）						資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
7. 現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）						資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
8. 現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）						資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
9. 現代の心理学の背景④ 精神分析学（フロイトの理論）						資料とノートを復習し、要点をまとめること。									
10. 精神分析学における自我防衛のメカニズム						資料を熟読し、専門用語を理解すること。									
11. 自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説						資料を熟読し、練習問題に取り組むこと。									
12. まとめの小テスト						あらかじめ復習してテストに臨むこと。									
13. 記憶の実験－系列位置曲線と系列位置効果－						実験結果の考察を考え、レポートすること。									
14. 記憶のしくみ－感覚的記憶・短期記憶・長期記憶－						ノートを見直し、専門用語を理解すること。									
15. エビングハウスの忘却曲線について						資料とノートを見直し、感想をまとまること。									
16. 試験						試験対策の学習をすること。									
履修上の注意															
毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。															
成績評価方法・基準															
レポート課題 20％、試験 80％。															
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。															
各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う予定である。															
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。															
教科書 授業前に資料（プリント）を配布する。															
参考書 授業の中で適宜、紹介する。															
備考															
質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。															

授業科目名		健康管理学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)		
担当者	土屋 葉子	必・選	選択	形態	講義	学期	前期	対象	食専・子専 2 年			
授業の概要												
「健康」。それを守ることは人間にとって非常に重要な課題である。世界でも有数の長寿国となったこの日本で、心身ともに健康な状態で生活していくために、本講義では、まず自身の健康に興味を持ち、将来にわたって健康でより良い生活を送ることができる能力や知識を身につけ、実践できる力を養っていく。 さらに、現代社会で問題とされる様々な健康についての課題を共に考え、今後の自身及び周囲の健康保持に役立てることができるよう具体的に指導する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
自身の健康について興味を持つことができる。							○	○				
健康を守る事のできる知識、能力を身につける。							○	○	○ 子			○ 子
将来にわたって、健康でより良い生活を送ることができる実践力を身につける。							○	○				○ 子
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.健康の概念					本講義の学習内容について確認する。							
2.青年期の発育と発達①身体的特性					次時学習についての関連情報を図書館等で収集する（毎時）。							
3.青年期の発育と発達②呼吸・循環機能の発達					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
4.性の科学 ○性とは					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
5. ○男性・女性の生理①女性のライフサイクル					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
6. ○男性・女性の生理①男性のライフサイクル					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
7. ○結婚・妊娠					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
8. ○妊娠・出産					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
9. ○性行為感染症					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
10. ○性行為感染症（AIDS について）					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
11. ○避妊					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
12.更年期障害 について					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
13.健康管理○ライフステージ別の健康管理（前思春期・思春期）					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
14.健康管理○ライフステージ別の健康管理（成熟期・更年期）					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
15.健康管理○ライフステージ別の健康管理（老年期）・まとめ					学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
16.試験					試験対策を行う。							
履修上の注意												
初回ガイダンスで説明する履修上の注意（授業には積極的に参加すること等）を遵守すること。												
成績評価方法・基準												
授業への参加状況（70%）、及び試験（30%）により総合的に評価する。 提出課題等については、返却し、解説を行う。												
教科書 授業中にプリントを配布する。												
参考書 その都度、指示する。												
備考 質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。												

授業科目名		健康スポーツ I				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	土屋 葉子		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	食専・子専 1 年			
授業の概要													
生涯スポーツという事が近年盛んに謳われており、また、体力の低下が叫ばれている現代、最終学府としての体育の授業は、卒業後の健康を考える上で大変重要な役割を担っていると考えます。本講義ではスポーツ・各種運動を通じ、運動を日常のものにするべく基礎技術の実習を行うとともに、運動の必要性、健康のあり方を見直し、将来に向けての身体作りの一歩とする。また、自然の中での運動の楽しさ、魅力についても体感し、今後に役立てていけるように指導する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
運動の楽しさを体感し、日常生活に取り入れることができる。								○			○		○
自身の体力を維持できる知識、能力を身に付ける。								○				○ 子	○
自然と親しみ、その中で運動を楽しむことができる。								○			○	○ 子	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.ガイダンス						毎日少しでも歩くことを心がける（毎時）。							
2.新体力テスト						新体力テストの内容を理解する。							
3.新体力テスト（シャトルラン）						新体力テストの内容を理解する。							
4.自然散策（台原森林公園）						体力作り、維持に努める。							
5.球技（バレーボール・バスケットボール他）						体育祭に向けてクラスで準備をする。							
6.球技（バレーボール・バスケットボール他）						体育祭に向けてクラスで準備をする。							
7.大縄跳び（8 の字跳び・全員跳び）						体力作り、維持に努める。							
8.インディアカ①基礎練習 2 人組						インディアカのルールについて調べる。							
9.インディアカ②基礎練習 グループ分け						体力作り、維持に努める。							
10.インディアカ③基礎練習 サーブ練習						体力作り、維持に努める。							
11.インディアカ④ゲーム 総当たり 1 回目						体力作り、維持に努める。							
12.インディアカ⑤ゲーム 総当たり 2 回目						体力作り、維持に努める。							
13.インディアカ⑥ゲーム 総当たり 3 回目						体力作り、維持に努める。							
14.自然散策（台原森林公園）						体力作り、維持に努める。							
15.新体力テスト（シャトルラン）						自らの体力・健康を振り返り、後期までの課題を持つ。							
履修上の注意													
毎回、授業開始後に 10 分間走を行うので、遅刻は授業最初に行う準備体操前までとする。また遅刻は 2 回で 1 回の欠席とする。													
初回のガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。													
成績評価方法・基準													
受講態度・平常点 90％（授業への参加状況及び取り組み姿勢等で総合的に判断する）、レポート 10％により総合的に評価する。提出課題等については、返却し、解説を行う。													
教科書 授業中にプリントを配布する。													
参考書 その都度、指示する。													
備 考 毎回 10 分間走を行う。 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		健康スポーツⅡ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	土屋 葉子		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
本講義では、健康スポーツⅠの演習をふまえ、さらに自身の健康に興味を持ち、将来役立てる事の出来る運動の技術の習得を目指すとともに、運動の楽しさを体感し、日常生活で実践できる具体的な方法を学習する。また、四季を感じながら、自然の中での運動の楽しさ、魅力についても体感し、今後に役立てていけるように考えていき、生涯、自身の体力を維持できる知識、能力を身に付け、実践することができるよう具体的に考えていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
自身の体力を維持できる実践力を身につける。								○			○		○
自然と親しみ、その中での運動を日常のものにすることができる。								○					○
運動の楽しさを体感し、日常生活で実践することができる。								○			○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.ガイダンス・新体力テスト（シャトルラン）						毎日少しでも歩くことを心がける（毎時）。							
2.大縄跳び（8の字・全員跳び）						体力作り、維持に努める。							
3.ドッジボール						体力作り、維持に努める。							
4.ソフトボール①基礎練習キャッチボール(1)						ソフトボールのルールについて調べる。							
5.ソフトボール②基礎練習キャッチボール(2)						体力作り、維持に努める。							
6.ソフトボール③打撃練習(1)						体力作り、維持に努める。							
7.ソフトボール④打撃練習(2)						体力作り、維持に努める。							
8.ソフトボール⑤打撃練習(3)						体力作り、維持に努める。							
9.ソフトボール⑥ゲーム						体力作り、維持に努める。							
10.二人三脚（クラス全員）						体力作り、維持に努める。							
11.ダブルダッチ①基本の跳び方						ダブルダッチの理解に努める。							
12.ダブルダッチ②応用編						体力作り、維持に努める。							
13.ミニ運動会						体力作り、維持に努める。							
14.台原森林公園						体力作り、維持に努める。							
15.新体力テスト（シャトルラン）						体力・健康について振り返り、今後の健康維持への目標を持つ。							
履修上の注意													
毎回、授業開始後に10分間走を行うので、遅刻は授業最初に行う準備体操前までとする。また遅刻は2回で1回の欠席とする。													
成績評価方法・基準													
受講態度・平常点90％（授業への参加状況及び取り組み姿勢等で総合的に判断する）、レポート10％により総合的に評価する。提出課題等については、返却し、解説を行う。													
教科書 授業中にプリントを配布する。													
参考書 その都度、指示する。													
備考 毎回10分間走を行う。 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		健康スポーツⅡ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)		
担当者	土屋 葉子	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
本講義では、健康スポーツⅠの演習をふまえ、さらに自身の健康に興味を持ち、将来役立てる事の出来る運動の技術の習得を目指すとともに、運動の楽しさを体感し、日常生活で実践できる具体的な方法を学習する。また、四季を感じながら、自然の中での運動の楽しさ、魅力についても体感し、今後に役立てていけるように考えていき、生涯自身の体力を維持できる知識、能力を身に付け、実践することができるよう具体的に考えていく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
自身の体力を維持できる実践力を身につける。							○			○		○
自然と親しみ、その中での運動を日常のものとすることができる。							○				○	○
運動の楽しさを体感し、日常生活で実践することができる。							○			○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1.ガイダンス・新体力テスト（シャトルラン）						毎日少しでも歩くことを心がける（毎時）。						
2.身体運動（ダンス・アンパンマン体操）						体力作り、維持に努める。						
3.身体運動（ダンス・アンパンマン体操）						体力作り、維持に努める。						
4.身体運動（ダンス・アンパンマン体操）						体力作り、維持に努める。						
5.大縄跳び（8の字・全員跳び）						体力作り、維持に努める。						
6.ソフトボール①基礎練習キャッチボール(1)						ソフトボールのルールについて調べる。						
7.ソフトボール②基礎練習キャッチボール(2)						体力作り、維持に努める。						
8.ソフトボール③打撃練習(1)						体力作り、維持に努める。						
9.ソフトボール④打撃練習(2)						体力作り、維持に努める。						
10.ソフトボール⑤打撃練習(3)						体力作り、維持に努める。						
11.ソフトボール⑥ゲーム						体力作り、維持に努める。						
12.二人三脚（クラス全員）						体力作り、維持に努める。						
13.ダブルダッチ						ダブルダッチの理解に努める。						
14.台原森林公園						体力作り、維持に努める。						
15.新体力テスト（シャトルラン）						体力・健康について振り返り、今後の健康維持への目標を持つ。						
履修上の注意												
毎回、授業開始後に10分間走を行うので、遅刻は授業最初に行う準備体操前までとする。また遅刻は2回で1回の欠席とする。												
成績評価方法・基準												
受講態度・平常点90％（授業への参加状況及び取り組み姿勢等で総合的に判断する）、レポート10％により総合的に評価する。提出課題等については、返却し、解説を行う。												
教科書 授業中にプリントを配布する。												
参考書 その都度、指示する。												
備考 毎回10分間走を行う。 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。												

授業科目名		日本語基礎				単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)				
担当者	佐藤 深雪	必・選	選	形態	講義	学期・対象		食専 1(後期)・子専 1(前期)				
授業の概要												
本講義では、まず「日本語とはどういう言語か」その特徴を解説する。言葉集めや言葉遊びといった言語活動を実際に行い理解させる。次に、語から文のレベルにおける「基礎的文章表現スキル」について演習問題を通して理解させる。学んだスキルを活かして「200 字作文」を書く言語活動を行う。「200 字作文」の合評会を行い推敲する。スキルの理解、作文（活用）、相互評価、推敲という文章作成の過程を通して、社会人として要求される日本語運用能力を身に付けることを目指す。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
日本語の特徴、文章表現技術についての基礎的な知識を得る。							○			○		
学生あるいは社会人として要求される日本語運用能力を習得する。							○			○		
自己評価・相互評価に意欲的に取り組み推敲する習慣を身に付ける。							○			○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション：授業の概要と目的，課題の説明 「言葉」の意義と機能 言葉の働きについて						資料「日本語の魅力」を読んでくる						
2. 日本語の特徴について 「日本語の魅力」を読む						同音異義語、多義語を集める						
3. これまでの文章表現について振り返る 文の書き方①						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
4. 200 字作文を書く（自己紹介）文の書き方②						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
5. 200 字作文を書く（大好物）文の書き方③						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
6. 200 字作文を書く（人物）文の書き方④						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
7. 200 字作文を書く（風景）文の書き方⑤						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
8. 200 字作文を書く（ある日の出来事）文の書き方⑥						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
9. 推敲と合評会 推敲する						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
10. 推敲と合評会 推敲して書き直す						推敲して書き直す						
11. 「時事評論文」を書く 構想 主張 アウトライン						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
12. 「時事評論文」を書く						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
13. 推敲と合評会 推敲する						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
14. 推敲と合評会 推敲して書き直す						推敲して書き直す						
15 文章表現学習を振り返る						自分の文章表現を振り返りまとめる						
履修上の注意												
授業の中で課せられた作文は、時間内に書き終わらない場合、次回までの宿題とする。 食物栄養学専攻は、2 年次後期に開講される「国語表現法」を続けて履修することが望ましい。												
成績評価方法・基準												
全 8 作の課題作文と合評会の取り組み状況の評価する。提出課題については、授業の中で適宜フィードバックする。200 字作文（10 点× 5）評論文（10 点）振り返り作文（10 点×2）合評会（10 点× 2）												
教科書 授業でワークシートを配布する。												
参考書 〔二百字作文練習〕〔金子泰子著〕〔溪水社〕〔1 8 0 0 円〕												
備 考 質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）あるいは、学習支援センター（予約制）で受け付ける。												

授業科目名		国語表現法				単位（総授業時間＋自習時間）		2(30+60)				
担当者	佐藤深雪		必・選	選	形態	講義	学期・対象	子専1（後期）、食専2（前期）				
授業の概要												
本講義では、パラグラフライティング、及び文章全体の構成について理解を深め、実用的な文章を書く技術を習得させる。授業計画2～6回では、設定した目標スキルに関する演習問題を解き、毎回、学習したスキルを活かして小論文を書く活動を行う。その後、応用として、800字程度の意見文や自己PR・エントリーシートを書く活動を実施する。互いの文章を読みあい相互評価する合評会の時間を設け、「評価シート」に基づいた適切な批評文が書けるよう指導する。自己評価・相互評価を基に推敲する習慣を身に付けさせることをねらいとしている。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
学生あるいは社会人として要求される実用的な文章表現の基礎を習得する。							○			○		
実社会で活用できるコミュニケーション能力を総合的に身に付ける。										○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. 授業の概要と目的，課題の説明						自分の文章表現に関わる課題について書く						
2. ①パラグラフの組み立て方						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
3. ②トピック文を生かして書く						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
4. ③必要十分なサポート文を書く						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
5. ④主張・データ・論拠						課題に対する論点を考え書き出し提出						
6. ⑤事実と意見を書き分ける						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
7. 「意見文を書く」⑥論点						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
8. 「意見文を書く」⑦要約・引用						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
9. 合評会 ⑧批評文の書き方						合評会に向け事前に読んでくる						
10. 推敲と合評会 推敲して書き直す						推敲して書き直す						
11. 推敲と合評会 推敲して書き直す						推敲して書き直す						
12. 自己PR・エントリーシートを書く						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
13. 自己PR・エントリーシートを書く						授業で課せられた作文を仕上げて提出						
14. 推敲と合評会 推敲して書き直す						推敲して書き直す						
15. 文章表現学習を振り返る						自分の文章表現について振り返りまとめる						
履修上の注意												
授業の中で課せられた作文は、時間内に書き終わらない場合、次回までの宿題とする。課題作文は全て評価の対象となるので必ず提出すること。												
成績評価方法・基準												
課題作文と合評会の取り組み状況を評価する。提出課題については、授業の中で適宜フィードバックする。課題作文（10点×5）意見文・自己PR・エントリーシート（10点×2）合評会（15点×2）												
教科書 授業でワークシートを配布する。												
参考書 講義の中で適宜紹介する												
備考 質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）あるいは、学習支援センター（予約制）で受け付ける。												

授業科目名		英語 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	佐藤 恵		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
世界の食文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を解説しながら、英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と食に関する語彙力を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身につけさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。								○		○			
身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取ることができる。								○	○				
食分野に関する英語表現を身につける。								○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						学習内容について確認する。							
2. USA: S'more (Reading)						スモアについて読み、ノートをまとめる。							
3. USA: S'more (Exercises)						ノートを復習し、練習問題を解く。							
4. Ethiopia and Eritrea: Coffee (Reading)						コーヒーについて読み、ノートをまとめる。							
5. Ethiopia and Eritrea: Coffee (Exercises)						ノートを復習し、練習問題を解く。							
6. France: <i>Pied de Cochon</i> (Reading)						豚足料理について読み、ノートをまとめる。							
7. France: <i>Pied de Cochon</i> (Exercises)						ノートを復習し、練習問題を解く。							
8. Italy: Pasta (Reading)						パスタについて読み、ノートをまとめる。							
9. Italy: Pasta (Exercises)						ノートを復習し、練習問題を解く。							
10. Sweden: <i>Surströmming</i> (Reading)						発酵ニシンについて読み、ノートをまとめる。							
11. Sweden: <i>Surströmming</i> (Exercises)						ノートを復習し、練習問題を解く。							
12. UK: Pudding (Reading)						プディングについて読み、ノートをまとめる。							
13. UK: Christmas Pudding (Reading)						X マスプディングについて読み、ノートをまとめる。							
14. UK: Christmas Pudding (Exercises)						ノートを復習し、練習問題を解く。							
15. まとめ						ノートや小テストを見て前期の学習内容を振り返る。							
16. 期末試験						総復習して臨む。							
履修上の注意													
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
平常点 40％（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。）学期末試験 60％ 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。													
教科書 [World Cuisine] [Tim Wharton 他] [英宝社] [1,900 円]													
参考書 なし													
備考													
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		英語 I			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	佐藤 恵		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
保育の英語を扱ったテキストを用い、園生活の様々な場面が出てくるストーリーを追いながら、保育現場で必要とされる英語表現を取り上げる。保育園の通常の日や季節ごとに異なる行事について解説し、視聴覚教材を活用しながら理解を深めさせる。本文読解、短文表現の作文、リスニング問題等を通じて、英語での園行事の説明の仕方や園児・保護者への対応力を養うと同時に、日常生活で役立つ基礎的な英語力の向上を図る。英語 I では1章～8章を取り上げる。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。								○		○			
身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取って話すことができる。								○	○				
保育分野に関する英語表現を身につける。								○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						前期の学習内容について確認する。							
2. 挨拶と自己紹介						英語で自己紹介するのに必要な表現を覚える。							
3. アルファベット						各アルファベットで始まる単語を確認し、表作成する。							
4. 入学前英語課題復習						入学前課題の e-learning を復習する。							
5. 新学期・園の人々・園舎						テキスト1章を読んで解き、ノートをまとめる。							
6. 登園・家族						テキスト2章を読んで解き、ノートをまとめる。							
7. 室内あそび・欠席の連絡						テキスト3章を読んで解き、ノートをまとめる。							
8. 外あそび・遊具						テキスト4章を読んで解き、ノートをまとめる。							
9. 伝承童謡						英語圏の伝承童謡について学び、感想等をまとめる。							
10. 園庭・けんか						テキスト5章を読んで解き、ノートをまとめる。							
11. 文法①（動詞）						動詞の用法について復習する。							
12. 昼食・献立表						テキスト6章を読んで解き、ノートをまとめる。							
13. 着替え・おはなし						テキスト7章を読んで解き、ノートをまとめる。							
14. トイレ・お昼寝						テキスト8章を読んで解き、ノートをまとめる。							
15. まとめ						ノートや小テストを見て、前期の学習内容を振り返る。							
16. 期末試験						総復習して試験に臨む。							
履修上の注意													
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
平常点 40％（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。）学期末試験 60％ 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。													
教科書〔新・保育の英語〕〔森田和子〕〔三修社〕〔1,900 円〕													
参考書 なし													
備 考													
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		英語Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)				
担当者	佐藤 恵		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専１年			
授業の概要													
保育の英語を扱ったテキストを用い、園生活の様々な場面が出てくるストーリーを追いながら、保育現場で必要とされる英語表現を取り上げる。保育園の通常の日や季節ごとに異なる行事について解説し、視聴覚教材を活用しながら理解を深めさせる。本文読解、短文表現の作文、リスニング問題等を通じて、英語での園行事の説明の仕方や園児・保護者への対応力を養うと同時に、日常生活で役立つ基礎的な英語力の向上を図る。 英語Ⅱでは９章～17章を取り上げる。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。								○		○			
身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取って話すことができる。								○	○				
保育分野に関する英語表現を身につける。								○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
１． ガイダンス						後期の学習内容について確認する。							
２． 病気・身体の名称						テキスト９章を読んで解き、ノートをまとめる							
３． 感情・緊急連絡						テキスト１０章を読んで解き、ノートをまとめる							
４． 文法②（文の種類）						文の種類について復習する。							
５． 行事の案内状・電話連絡						テキスト１１章を読んで解き、ノートをまとめる。							
６． 園行事① 遠足・運動会						遠足や運動会に関する英語表現を学び、復習する。							
７． 運動・動作						テキスト１２章を読んで解き、ノートをまとめる。							
８． 散歩(1)・地図						テキスト１３章を読んで解き、ノートをまとめる。							
９． 散歩(2)・交通						テキスト１４章を読んで解き、ノートをまとめる							
10. お絵かき・お手紙						テキスト１５章を読んで解き、ノートをまとめる。							
11. 文法③（前置詞）						前置詞の用法について復習する。							
12. 園行事③ クリスマス						クリスマス行事に関する英語表現を学び、復習する。							
13. 雪の日・工作						テキスト１６章を読んで解き、ノートをまとめる。							
14. 降園・お知らせ						テキスト１７章を読んで解き、ノートをまとめる。							
15. まとめ						ノートや小テストを見て、前期の学習内容を振り返る。							
16. 期末試験						総復習して試験に臨む。							
履修上の注意													
テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
平常点 40％（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。） 学期末試験 60％ 毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。													
教科書〔新・保育の英語〕〔森田和子〕〔三修社〕〔1,900 円〕													
参考書 なし													
備 考													
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		情報処理 I				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	松尾 広		必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	食専 1 年			
授業の概要													
Word、Excel、PowerPoint の操作を中心として、データの集計・加工、グラフ作成、画像の操作とレイアウト、インターネットでの情報収集を行い、それらを組み合わせてレポートなどの体裁の整った文書の作成、栄養指導の媒体作成やプレゼンテーションができるように、基本的な利用法を中心に解説する。ビジネス文書やプレゼンテーションの体裁を整えるのに必要な操作方法が身につくように、例題と練習問題で反復して練習を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
一般的なビジネス文書の作成ができるようになる。								○					
データの集計・加工とグラフ作成ができるようになる。								○					
プレゼンテーションのためのシンプルなスライドを作成できるようになる。								○					
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						前期の学習内容を確認する。							
2. Word による文書作成（インデント・タブ・行ぞろえ）						社内文書・社外文書の様式を理解する。							
3. Word による文書作成（練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
4. Word による文書作成（表）						表の操作について理解する。							
5. Word による文書作成（表、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
6. Word による文書作成（図）						図の挿入、編集方法について理解する。							
7. Word による文書作成（図、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
8. Excel による表計算（計算式・関数）						計算式の表現方法を理解する。							
9. Excel による表計算（計算式・関数）						操作の流れを確認し、反復する。							
10. Excel による表計算（関数、練習問題）						関数の利用方法を理解する。							
11. Excel による表計算（グラフ）						グラフの特徴と作図方法を理解する。							
12. Excel による表計算（グラフ、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
13. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（基本操作）						操作の流れを確認し、反復する。							
14. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（レイアウト）						操作の流れを確認し、反復する。							
15. 演習内容のまとめ、まとめの課題（Word、Excel）						前期の学習内容を振り返る。							
履修上の注意													
つまずいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。													
成績評価方法・基準													
受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、まとめの課題 60%													
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。													
教科書 〔実践ドリルで学ぶ Office 活用術〕〔noa 出版〕〔1,300 円〕													
参考書 特になし													
備 考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		情報処理 I				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	松尾 広		必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
Word、Excel、PowerPoint の操作を中心として、データの集計・加工、グラフ作成、画像の操作とレイアウト、インターネットでの情報収集を行い、それらを組み合わせてレポートなどの体裁の整った文書の作成、視聴覚教材の作成やプレゼンテーションができるよう、基本的な利用法を中心に解説する。ビジネス文書やプレゼンテーションの体裁を整えるのに必要な操作方法が身につくように、例題と練習問題で反復して練習を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
一般的なビジネス文書の作成ができるようになる。								○					
データの集計・加工とグラフ作成ができるようになる。								○					
プレゼンテーションのためのシンプルなスライドを作成できるようになる。								○					
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						前期の学習内容を確認する。							
2. Word による文書作成（インデント・タブ・行ぞろえ）						社内文書・社外文書の様式を理解する。							
3. Word による文書作成（練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
4. Word による文書作成（表）						表の操作について理解する。							
5. Word による文書作成（表、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
6. Word による文書作成（図）						図の挿入、編集方法について理解する。							
7. Word による文書作成（図、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
8. Excel による表計算（計算式・関数）						計算式の表現方法を理解する。							
9. Excel による表計算（計算式・関数）						操作の流れを確認し、反復する。							
10. Excel による表計算（関数、練習問題）						関数の利用方法を理解する。							
11. Excel による表計算（グラフ）						グラフの特徴と作図方法を理解する。							
12. Excel による表計算（グラフ、練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
13. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（基本操作）						操作の流れを確認し、反復する。							
14. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（レイアウト）						操作の流れを確認し、反復する。							
15. 演習内容のまとめ、まとめの課題（Word、Excel）						前期の学習内容を振り返る。							
履修上の注意													
つまづいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。													
成績評価方法・基準													
受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、まとめの課題 60%													
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。													
教科書〔実践ドリルで学ぶ Office 活用術〕〔noa 出版〕〔1,300 円〕													
参考書 特になし													
備 考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		情報処理Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	松尾 広		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	食専１年			
授業の概要													
情報処理Ⅰに引き続き、Word、Excel、PowerPoint の操作と応用について解説する。アプリケーション間の連携、特に Word と Excel の連携について、いくつかのコピーアンドペーストの方法の違いと特徴を示し、文書作成時に適切な方法を選択できるように練習を行う。さらに Excel をデータベースとして利用する方法、Word と連携する差し込み印刷の練習を行う。また、PowerPoint では視覚的効果を利用法と説得型プレゼンテーションのためのストーリー構成法について解説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
Word、Excel、PowerPoint などを適切に組み合わせて体裁が整った文書・プレゼンテーションを作成できる。								○					
プレゼンテーションのストーリーを組み立てられるようになる。								○					
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
１．ガイダンス						後期の学習内容について確認する。							
２．Excel による表計算（データベース）						データベースの構成方法を理解する。							
３．Excel による表計算（データベース練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
４．Excel による表計算（ピボットテーブル）						ピボットテーブルの操作を理解する。							
５．Excel による表計算（ピボットテーブル練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
６．Word と Excel の連携（コピーアンドペーストの応用）						操作の流れを確認し、反復する。							
７．Word と Excel の連携（差し込み印刷）						差し込み印刷の仕組みを理解する。							
８．Word による文書作成（応用）						ヘッダー・フッターの利用方法を理解する。							
９．PowerPoint によるプレゼンテーション作成（応用）						操作の流れを確認し、反復する。							
10. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（練習問題 1）						操作の流れを確認し、反復する。							
11. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（練習問題 2）						操作の流れを確認し、反復する。							
12. 説得型プレゼンテーションの構成法						ストーリーの構成法を理解する。							
13. まとめの課題（PowerPoint）						後期の学習内容を振り返る。							
14. まとめの課題（Word）						後期の学習内容を振り返る。							
15. まとめの課題（Excel）						後期の学習内容を振り返る。							
履修上の注意													
つまずいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。													
成績評価方法・基準													
受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、まとめの課題 60%													
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。													
教科書（情報処理Ⅰの教科書と同じ）													
参考書 なし													
備考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		情報処理Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	松尾 広		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	子専１年			
授業の概要													
情報処理Ⅰに引き続き、Word、Excel、PowerPoint の操作と応用について解説する。アプリケーション間の連携、特に Word と Excel の連携について、いくつかのコピーアンドペーストの方法の違いと特徴を示し、文書作成時に適切な方法を選択できるように練習を行う。さらに Excel をデータベースとして利用する方法、Word と連携する差し込み印刷の練習を行う。また、PowerPoint では視覚的効果を利用法と説得型プレゼンテーションのためのストーリー構成法について解説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
Word、Excel、PowerPoint などを適切に組み合わせて体裁が整った文書・プレゼンテーションを作成できる。								○					
プレゼンテーションのストーリーを組み立てられるようになる。								○					
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
１．ガイダンス						後期の学習内容について確認する。							
２．Excel による表計算（データベース）						データベースの構成方法を理解する。							
３．Excel による表計算（データベース練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
４．Excel による表計算（ピボットテーブル）						ピボットテーブルの操作を理解する。							
５．Excel による表計算（ピボットテーブル練習問題）						操作の流れを確認し、反復する。							
６．Word と Excel の連携（コピーアンドペーストの応用）						操作の流れを確認し、反復する。							
７．Word と Excel の連携（差し込み印刷）						差し込み印刷の仕組みを理解する。							
８．Word による文書作成（応用）						ヘッダー・フッターの利用方法を理解する。							
９．PowerPoint によるプレゼンテーション作成（応用）						操作の流れを確認し、反復する。							
10. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（練習問題 1）						操作の流れを確認し、反復する。							
11. PowerPoint によるプレゼンテーション作成（練習問題 2）						操作の流れを確認し、反復する。							
12. 説得型プレゼンテーションの構成法						ストーリーの構成法を理解する。							
13. まとめの課題（PowerPoint）						後期の学習内容を振り返る。							
14. まとめの課題（Word）						後期の学習内容を振り返る。							
15. まとめの課題（Excel）						後期の学習内容を振り返る。							
履修上の注意													
つまずいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。													
成績評価方法・基準													
受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、まとめの課題 60%													
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。													
教科書（情報処理Ⅰの教科書と同じ）													
参考書 なし													
備考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		スタディスキルズ			単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	食物栄養学専攻教員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	食専１年			
授業の概要												
高校生活から短大生活へのスムーズな移行を促す「初年次教育」が主な内容である。例えば、「学内生活に関する事項（学内ルールや目標設定）」「本学の歴史」「施設活用」「ノートのとり方やレポートの出し方など学習方法」について授業を行う。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講する上で必要な基礎学力向上を目指すほか、実習に対する態度やお礼状の書き方など、専門科目を学ぶ上での常識も学んでいく。また、短大の学修と将来を関係づけ、学習意欲の向上を目指す。												
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
本学の歴史を理解する。							○					
学内における生活上の常識や学内施設使用の仕方を理解する。							○					○
常識的な主要５科目の基礎学力を身につける。							○					
一般的な学習方法（ノート等）や学科・専攻の学習目的を理解する。							○			○		○
授業計画の内容					事前・事後学修の内容							
１．ガイダンスおよび短大生活におけるマナー（１年担任、土屋・池田）					配布プリントの復習							
２．学習目標の設定（学習ポートフォリオの記入）（池田、１年生担任）					配布プリントの復習、学修ポートフォリオの記入の完了							
３．短大における学修について（学長による講話）					配布プリントの復習							
４．学習方法に関するアドバイス（基本的な学習方法と態度、ノート、レポート等）（松尾、他）					配布プリントの復習							
５．e-learning（国語）の復習（池田、他）					配布プリントの復習、e-learningの予習・復習							
６．e-learning（国語）に関連した漢字等の学習（池田、他）					配布プリントの復習、e-learningの予習・復習							
７．e-learning（数学）の復習（池田、他）※「７，８，９」は並行して行う。					配布プリントの復習、宿題の提出							
８．図書館の利用の仕方（特に検索の方法について）（図書館司書、１年生担任、他）※「７，８，９」は並行して行う。					図書館の利用方法を確認し、積極的に活用する。							
９．本学の歴史を知る（資料室・顕彰館等の見学）（松尾、黒川、佐藤、永沼、益田）※「７，８，９」は並行して行う。					学園の歴史について感想等の記入を行う。							
１０．学習方法に関するアドバイス（講義・演習・実習の特性、スケジュール管理等）（池田、永沼、黒川）					配布プリントの復習							
１１．e-learning（英語）の復習（佐藤、他）					配布プリントの復習、宿題の提出							
１２．入学前課題の総復習（松尾、他）					配布プリントの復習、e-learningの復習							
１３．専門科目を学ぶ上での最低限の目標など（永沼、黒川、他）					配布プリントの復習							
１４．お礼状・手紙・服装・みだしなみに関する説明（益田、他）					配布プリントの復習							
１５．短大生活と就職活動、時事問題、各種アンケート（１年生担任、他）					配布プリントの復習							
履修上の注意：												
配られた資料はファイルに閉じて整理すること。入学前 e-learning を使用することがあるのでログイン方法等は忘れないこと。提出物は期限通り提出すること。												
成績評価方法・基準：提出物の提出状況とその内容（100%）。提出物は後日添削して返却する。												
教科書 毎回資料を配布する。												
参考書 e-learning の教材												
備考：												
質問等については、授業終了時あるいは担当者のオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。												

授業科目名		スタディスキルズ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	子ども生活専攻教員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
大学における初年次教育（導入教育・リメディアル教育等）を行う授業であり、本学（三島学園・東北生活文化大学）の歴史や施設の利用法を知った上で、マナーなどの生活面も含めた短大生としての学習方法（ノートの取り方、レポートの作成、資料の収集方法など）について学ぶ。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講する上で必要な基礎学力の向上と共に、短大における学習がどのように将来（2年次の実習や就職後の仕事）と結びつくのか、話し合いや発表等を通して考える。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
各科目の理解に不可欠な基礎学力を身に付ける。							○			○		○
学内施設利用の仕方を理解する。							○					
学科・専攻の学習目的や学習方法を理解する。							○					
学内における生活上の基本的マナーを身に付け、将来につなげる。							○	○		○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス [1年担任・土屋・池田 他]					前期の学習内容について確認する。							
2. 学修ポートフォリオの記入 [1年担任・池田 他]					ポートフォリオに記入し、学習の計画を立てる。							
3. 短大における学習について（学長講話）[佐藤学長]					講話の内容をまとめて感想等を記入する。							
4. 学習方法に関するアドバイス （授業形態の特性、学外実習とその準備について） [松尾 他]					大学における学習方法について確認する。							
5. 入学前課題（国語：前半）の復習① [佐藤深・大瀬戸 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
6. 入学前課題（国語：後半）の復習② [横山・山沢 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
7. 図書館の利用の仕方（検索の方法等）[図書館司書・佐藤和他]					図書館の利用方法を確認し、積極的に活用する。							
8. 本学の歴史を知る（資料室・顕彰館の見学） [土屋・大瀬戸 他]					学園の歴史についての感想等を記入する。							
9. 入学前課題（数学）の復習 [池田・岡崎 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
10. 一般教養①（文章表現）[佐藤深・土屋 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
11. 一般教養②（漢 字）[高橋・米川 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
12. 一般教養③（地 理）[大瀬戸・佐藤和 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
13. 一般教養④（ことわざ）[横山・佐藤深 他]					自分で解けなかった問題の復習を行う。							
14. 短大生活と就職活動 [就職支援センター・佐藤深 他]					授業内容を基に、就職活動への見通しを立てる。							
15. まとめと後期への課題 [1年担任 他]					前期の学修を振り返り、夏休みの課題に取り組む。							
履修上の注意												
配布資料はファイルに閉じて整理する。												
入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。提出物は期限通り提出する。												
成績評価方法・基準												
受講態度・授業への参加状況（50％）提出物の提出状況・内容（50％）												
提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書 事前に必要なプリントを配布する。												
参考書 授業内で指示する。												
備 考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		キャリアアップセミナー			単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	食物栄養学専攻教員	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	食専１年			
授業の概要												
社会人基礎力の基本となる「一歩踏み出す（行動する）力」「チームワーク」「考える力」を身につけるための手法について学ぶ授業を行う。考える力の手段としては「コンセプトマップ」「ピラミッドストラクチャ」「クリティカルシンキング」を、チームワークや行動する力としては「ブレインストーミング」「プレゼンの準備と練習」「電話対応演習（ロールプレイ）」などの演習を行う。就職活動で必要となる自己分析や履歴書の作成なども行う。												
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
コミュニケーション能力を身につけること。							○					○
チームで問題解決をするための能力を修得する。							○					○
論理的思考や一歩を踏み出す力を身につける。							○					○
就職活動をスムーズにスタートできるため準備を完了すること。							○					○
授業計画の内容					事前・事後学修の内容							
１．ガイダンス（社会人基礎力とは何か）と学習ポートフォリオ記入（池田、１年生担任）					配布プリントの復習。学修ポートフォリオの記入の完了。							
２．コンセプトマップとは何か。（池田）					コンセプトマップの完成と復習							
３．コンセプトマップの活用法（池田）					コンセプトマップの完成と復習							
４．説明と質問の発想方法 5W1H の活用法とピラミッドストラクチャ、クリティカルシンキング（池田）					ピラミッドストラクチャの完成と復習							
５．ブレインストーミング① 「ブレインストーミングとは何か」「テーマ設定」（松尾、池田）					配布プリントの復習。							
６．ブレインストーミング② 「ブレインストーミングとK J 法の実践」（松尾、池田、黒川、佐藤、永沼、益田）					配布プリントの復習。発表用紙の作成							
７．ブレインストーミング③ 発表準備（同上）					配布プリントの復習。発表準備							
８．プレゼンテーション演習① 前半グループの発表（同上）					プレゼンテーションの感想の提出							
９．プレゼンテーション演習② 後半グループの発表（同上）					プレゼンテーションの感想の提出							
10．履歴書、添え状、封筒の常識（池田、黒川、佐藤）※12 と並行					履歴書雛型、添え状、封筒の提出							
11．エントリーシートを書くための自己PR作成（池田、黒川、佐藤）※13 と並行					自己PR の構想用紙の提出							
12．言葉の使い方と電話対応の基本（松尾、永沼、益田）					配布プリントの復習。感想提出							
13．電話対応の練習（実践的な例）（松尾、永沼、益田）					配布プリントの復習。感想提出							
14．喫煙リスク等、職場における健康管理（外部講師による）					配布プリントの復習。感想提出							
15．就職活動に関するアドバイスと授業のまとめ（池田、１年生担任）					配布プリントの復習。							
履修上の注意：												
配られた資料はファイルに閉じて整理すること。提出物は期限通り提出すること。												
成績評価方法・基準：												
提出物の提出状況とその内容（80％）。小テスト（20％）提出物は後日添削して返却する。												
教科書 毎回資料を配布する。												
参考書 ビジネスマナー教本（配布予定）												
備 考 質問等については、授業終了時あるいは担当者のオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。												

授業科目名		キャリアアップセミナー			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	子ども生活専攻教員	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
前期開講のスタディスキルズ（初年次教育）の授業を引き継ぎ、短大での学生生活、2年次に予定されている保育実習（保育所・施設）及び教育実習（幼稚園）、就職後の仕事に必要なスキル（基本的なマナー、文章作成、一般教養など）について、保育・教育実習指導の授業と連動しながら学習する。また、就職活動の方法や必要な知識等についても学び、卒業後の社会生活におけるキャリアについて話し合いや発表等を通して考え、具体的なイメージをもてるようにしていく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
学生・社会人としてのマナーや一般教養を学ぶ。							○	○		○		○
2年次の実習や就職後に必要となる知識や技能について学ぶ。							○			○		○
就職活動について知識を獲得し、卒業後のキャリア形成について考える。							○	○		○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション [1年担任 他]					後期の学習内容について確認する。							
2. 挨拶と言葉遣い [土屋・佐藤深・岡崎 他]					学習内容を確認し、日々実践できるようにする。							
3. 服装と礼儀作法 [土屋・大瀬戸・佐藤和 他]					学習内容を確認し、日々実践できるようにする。							
4. 食事のマナー [土屋・高橋・米川 他]					学習内容を確認し、日々実践できるようにする。							
5. 掃除の仕方 [土屋・横山・山沢 他]					学習内容を確認し、日々実践できるようにする。							
6. キャリア教育①（保育者セミナー） [就職支援センター 他]					学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。							
7. 手紙の書き方 [1年担任・佐藤深 他]					学習内容を確認し、日々実践できるようにする。							
8. キャリア教育②（ファッション講座） [就職支援センター 他]					学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。							
9. 履歴書・実習生調書の書き方①（説明） [佐藤深・土屋]					学習内容を確認し、2年次の実習や就職活動に活かすことが出来るようにする。							
10. 履歴書・実習生調書の書き方②（記入） [佐藤深・土屋]												
11. キャリア教育③（就職情報等の活用） [就職支援センター 他]					学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。							
12. 面接・自己PRの仕方①（説明と原稿作成） [佐藤深・土屋 他]					作成した原稿を基に、自己PRの練習を行う。							
13. 面接・自己PRの仕方②（実際の練習） [全教員]					面接練習を振り返り、自分の課題を明確にする。							
14. キャリア教育④（公務員試験等） [針生・就職支援センター 他]					学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。							
15. キャリア教育⑤（2年就職内定者報告会） [2年担任]					学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。							
履修上の注意												
配布資料はファイルに閉じて整理する。入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。 提出物は期限通り提出する。												
成績評価方法・基準												
受講態度・授業への参加状況（50％）提出物の提出状況・内容（50％） 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書 事前に必要なプリントを配布する。												
参考書 授業内で指示する。												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		キャリアサポートセミナーⅠ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)				
担当者	佐藤淳一ほか教職員		必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	食専１年			
授業の概要													
インターンシップが採用選考のプロセスに組込まれ、年々早期化が進行している現在の就職活動では、早い段階から活動を開始し、幅広い視野に立ち活動しながら将来の進路を考え決定する力を身に付ける必要がある。そこで、幅広い視野と判断力を養うため、ライフプランニングの基本的な考え方、情報収集力、分析力、論理的思考力等の基礎知識と、ツールを活用した業界・企業研究法、SPI、エントリーシートの書き方、面接、ビジネスマナー等の実践的な知識・スキルを教え、学生のより良い進路選択が実現出来るよう指導していく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
① 幅広い視野で進路を考え、選択決定する力を身に付ける								○					
② 自分の考え・意見を分かり易く文章や言葉で表現する力を身に付ける								○					
③ 就職試験に合格する力を身に付ける													○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.就活準備スタートアップセミナー（授業がイデックス・就活の進め方等）						これからやるべきことを理解すること							
2.これからの生き方・働き方を考えるセミナー						変化の時代におけるライフプランを考えること							
3.進路選択を考えるセミナー（将来を見据えた進路選択の有り方）						幅広い視野で自身の進路選択を考えること							
4.情報の読み方セミナー（情報収集と分析）						世の中の動きを論理的思考力で理解すること							
5.自己分析セミナー（性格テストを活用した自己分析）						自分の強み・興味関心を理解すること							
6.業界・企業研究セミナー（業界地図と就職四季報の活用法）						進路選択の幅を広げる手法を理解すること							
7.インターンシップセミナー（映像で理解するインターンシップの内容）						インターンシップ＝採用選考の現状を理解すること							
8.インターンシップ用エントリーシート対策セミナー						インターンシップに積極的に参加すること							
9.データセキュリティセミナー						就活前に情報を守る基礎を身に付けること							
10.SPI ミニテスト&非言語基礎セミナー						SPIの問題形式と必要な対策を理解すること							
11. SPI 非言語対策基礎編①（割合・損益計算）注１						配布するテキストを繰返し復習し、限られた時間内で非言語問題を解く実力を身に付けること 注１：理解度に応じて柔軟に対応する							
12. SPI 非言語対策基礎編②（速さ・確率）注１													
13. SPI 非言語対策応用編①（推論・グラフの領域）注１													
14. SPI 非言語対策応用編②（数表・比率）注１													
15.ビジネスマナーセミナー ～就活は第一印象で決まる～						学んだことを忘れずに実践し身に付けること							
履修上の注意													
学んだことを繰返し復習や普段の生活の中で実践し確実に身に付けるようにすること ミニットペーパーを活用して論理的思考力を身に付けるよう心掛けること また、授業のほかに開催するセミナーにも積極的に参加して実力向上を図ること													
成績評価方法・基準													
ミニットペーパーによる授業内容の理解（80％）授業態度（20％）													
教科書 授業の際に資料を配布する													
参考書 会社四季報業界地図 東洋経済新報社 1,300 円（税別） 就職四季報 総合版又は女子版 東洋経済新報社 1,900 円（税別）													
備考													
質問、相談等はオフィスアワー以外でも常時受け付ける。													

授業科目名		キャリアサポートセミナーⅠ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)				
担当者	佐藤淳一ほか教職員		必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	食専１年			
授業の概要													
インターンシップが採用選考のプロセスに組込まれ、年々早期化が進行している現在の就職活動では、早い段階から活動を開始し、幅広い視野に立ち活動しながら将来の進路を考え決定する力を身に付ける必要がある。そこで、幅広い視野と判断力を養うため、ライフプランニングの基本的な考え方、情報収集力、分析力、論理的思考力等の基礎知識と、ツールを活用した業界・企業研究法、SPI、エントリーシートの書き方、面接、ビジネスマナー等の実践的な知識・スキルを教え、学生のより良い進路選択が実現出来るよう指導していく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
① 幅広い視野で進路を考え、選択決定する力を身に付ける								○					
② 自分の考え・意見を分かり易く文章や言葉で表現する力を身に付ける								○					
③ 就職試験に合格する力を身に付ける													○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
16.SPI 模擬試験						弱点を把握し今後の勉強に活かすこと							
17.楽しく学ぶ小論文対策セミナー①						様々な問題に対する考えや意見を分かり易い文章で表現出来るようにすること							
18.楽しく学ぶ小論文対策セミナー②													
19.SPI 模擬試験振り返りセミナー（頻出問題の再確認）						頻出問題を確実に得点出来るようにすること							
20.就活準備中間レビュー（自己PRの土台づくり）						面接・ESで必ず訊かれる自己PRを完成させること							
21.プレゼンテーションセミナー（プレゼンの基礎）						学んだことを普段から実践して身に付けること							
22.就活本番用エントリーシート対策セミナー①						自分自身の興味・関心・強みと企業の求める人材像とを重ね合わせてエントリーシートを作成できるようにすること							
23.就活本番用エントリーシート対策セミナー②													
24.就活本番用エントリーシート対策セミナー③													
25.面接試験対策セミナー①（集団面接ワーク）						ロールプレイを通じ面接試験を突破するための実践力を身に付けること							
26.面接試験対策セミナー②（個人面接ワーク）													
27.人事担当者セミナー						人事担当者の話を聴き企業研究の参考にすること							
28.労働法基礎セミナー（労働法の基礎と求人票の見方）						働く者の権利と義務を理解すること							
29.振り返りセミナー（就活の流れとこれからやるべきこと）						就活でやるべきことを実践すること							
30.内定者報告会						内定に至るプロセスを理解すること							
履修上の注意													
学んだことを繰り返しの復習や普段の生活の中で実践し確実に身に付けるようにすること													
ミニットペーパーを活用して論理的思考力を身に付けるよう心掛けること													
また、授業のほかに開催するセミナーにも積極的に参加して実力向上を図ること													
成績評価方法・基準													
ミニットペーパーによる授業内容の理解（80％）授業態度（20％）													
教科書 授業の際に資料を配布する													
参考書 会社四季報業界地図 東洋経済新報社 1,300 円（税別） 就職四季報 総合版又は女子版 東洋経済新報社 1,900 円（税別）													
備考													
質問、相談等はオフィスアワー以外でも常時受け付ける。													

授業科目名		キャリアサポートセミナーⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)				
担当者	佐藤淳一ほか教職員			必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	食専2年		
授業の概要													
2年生に進級した直後の4月1日時点における企業の採用活動と全国的な学生の就職活動状況を説明し、現状を理解させる。その上で、学生の採用選考がスムーズに進捗するよう面接等の就職試験の頻出問題である時事問題を絡めた実践的な小論文対策セミナーと、エントリーシート・履歴書の復習セミナーを実施する。また、企業を学内にお呼びして会社説明会兼一次選考会の実施等学生の手間と時間の省いた実践的な内容で就職活動をサポートしていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
① 現在の就職環境を理解すること								○					
② 小論文やE S・履歴書に対応する文章力を身に付けること										○			
③ 学内会社説明会に参加し企業を見る目を養うこと												○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.就職環境セミナー（企業及び学生の動向）						就職環境を理解した上で活動すること							
2.小論文対策セミナー実践編①						決められた時間内で小論文を書けるようにすること							
3.小論文対策セミナー実践編②													
4.E S・履歴書復習セミナー①						自分の強みと企業の求める人材像をマッチン							
5.E S・履歴書復習セミナー②						グさせたE Sを完成できるようにすること							
6.学内単独会社説明会（会社名は後日発表）						直接企業の人事担当者から、会社の業績・仕事の内容・教育制度・キャリアプラン・給与、休日、労働時間、福利厚生等の労働条件・選考方法等の話を聴き、企業を見る目を養うこと							
7. //													
8. //													
9. //													
10. //													
11. //													
12. //													
13. //													
14. //													
15. //													
履修上の注意													
自ら選択した進路実現のため、授業で学んだことを実際の就職活動で繰返し実践すること													
成績評価方法・基準													
ミニットペーパーによる授業内容の理解（80％）授業態度（20％）													
教科書 授業の際に資料を配布する													
参考書 なし													
備考													
質問、相談等はオフィスアワー以外でも常時受け付ける。													

生活文化学科基幹科目

授業科目名		生活文化概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	伊藤 常久		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専 1 年			
授業概要													
衣食住を中心とした生活と文化との関わりとその全体像である生活文化への理解を深める試みとして、生活主体とそれを取り巻く生活事象について説明しながら、地域性や時代背景による生活文化の多様性―思想や思考、技術等について紹介する。私たちにとって「生活文化とは何か」について、食との関わりに着目し、主体的に考えて想像できるよう解説する。この講義は「概論」であり、のちの「生活文化各論」にて生活文化をより深く理解するための枠組みとしての概説を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
生活文化の概念や考え方について理解する。								○	○				
生活文化の諸相を把握する知識を身につける。								○	○				
生活文化の向上のために自分たちが果たすべき役割について理解する。								○	○				
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス：授業の説明、アンケート						配布プリントの復習							
2. 生活文化とは						用語の事前確認・配布資料の復習							
3. 生活文化の関連領域（家政学や生活学との関わり）						用語の事前確認・配布資料の復習							
4. 生活と文化（福祉、健康、安全、幸福など）						用語の事前確認・配布資料の復習							
5. 生活史（江戸時代の生活、生活と職業）						用語の事前確認・配布資料の復習							
6. 生活史（明治、大正時代の生活）						用語の事前確認・配布資料の復習							
7. 生活史（昭和から現在までの生活）						用語の事前確認・配布資料の復習							
8. 生活文化とジェンダー、家族、小テスト						用語の事前確認・小テストに向けた復習							
9. 生活文化と保育、子育て						用語の事前確認・配布資料の復習							
10. 生活文化と食の歴史						用語の事前確認・配布資料の復習							
11. 生活文化と食生活の課題						用語の事前確認・配布資料の復習							
12. 生活文化と衣、ファッション						用語の事前確認・配布資料の復習							
13. 生活文化と住環境						用語の事前確認・配布資料の復習							
14. 生活文化と芸術						用語の事前確認・配布資料の復習							
15. 生活文化と情報、まとめ、授業評価アンケート						配布資料の復習・講義内容の振り返り							
16. 試験						筆記試験に向けた復習							
履修上の注意													
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。													
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。													
成績評価方法・基準													
・期末試験（70％）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度（30％）。													
・試験については解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。													
教科書 資料を準備するので事前に配布する。													
参考書〔生活文化論〕〔佐々木啓、他編著〕〔朝倉書店〕〔3,024 円〕													
備 考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		生活文化概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2 (30＋60)		
担当者	伊藤常久	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業概要												
衣食住を中心とした生活と文化との関わりとその全体像である生活文化への理解を深める試みとして、生活主体とそれを取り巻く生活事象について説明しながら、地域性や時代背景による生活文化の多様性一思想や思考、技術等について紹介する。私たちにとって「生活文化とは何か」について、保育との関わりに着目し、主体的に考えて想像できるよう解説する。この講義は「概論」であり、のちの「生活文化各論」にて生活文化をより深く理解するための枠組みとしての概説を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
生活文化の概念や考え方について理解する。							○	○				
生活文化の諸相を把握する知識を身につける。							○	○				
生活文化の向上のために自分たちが果たすべき役割について理解する。							○	○				
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス：授業の説明、アンケート						配布プリントの復習						
2. 生活文化とは						用語の事前確認及び配布資料の復習						
3. 生活文化の関連領域（家政学や生活学との関わり）						用語の事前確認及び配布資料の復習						
4. 生活と文化（福祉、健康、安全、幸福など）						用語の事前確認及び配布資料の復習						
5. 生活史（江戸時代の生活、生活と職業）						用語の事前確認及び配布資料の復習						
6. 生活史（明治、大正時代の生活）						用語の事前確認及び配布資料の復習						
7. 生活史（昭和から現在までの生活）						用語の事前確認及び配布資料の復習						
8. 生活文化とジェンダー、家族、小テスト						用語の事前確認及び小テストに向けた復習						
9. 生活文化と保育の歴史						用語の事前確認及び配布資料の復習						
10. 生活文化と子育ての課題						用語の事前確認及び配布資料の復習						
11. 生活文化と食、栄養						用語の事前確認及び配布資料の復習						
12. 生活文化と衣、ファッション						用語の事前確認及び配布資料の復習						
13. 生活文化と住環境						用語の事前確認及び配布資料の復習						
14. 生活文化と芸術						用語の事前確認及び配布資料の復習						
15. 生活文化と情報、まとめ、授業評価アンケート						配布資料の復習及び講義内容の振り返り						
16. 試験						筆記試験に向けた復習						
履修上の注意												
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。												
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。												
成績評価方法・基準												
・期末試験（70%）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度（30%）。												
・試験については解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。												
教科書 資料を準備するので事前に配布する。												
参考書〔生活文化論〕〔佐々木啓、他編著〕〔朝倉書店〕〔3,024円〕												
備 考												
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。												
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		生活文化各論				単位（授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	短大教員	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専１年				
授業の概要													
生活文化学科では、食や保育の分野は人々の生活文化の重要な要素であり、その理解のためには生活文化を広く理解することが必要であると考えている。前期の生活文化概論では、歴史的な経過に伴い、生活・文化が、伝統的な家政学からさまざまな分野に発展し広がっている様子が解説された。本講義では、短期大学に所属する教員の専門分野や教育分野という視点から、多岐にわたる生活文化を考察する。テーマごとに、生活文化と自分との関わりについて自ら考え、作文を提出する。													
授業の目標(到達目標)								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
生活文化を広い視点からとらえるための知識を身につける。								○	○				
多様な生活文化の知識を自分たちの生活に関係づけて考えることができるようになる。								○	○				
生活文化の向上のために、将来果たすべき役割について、自ら考えることができるようになる。								○	○				
授業計画の内容						事前・事後学修の内容							
１．ガイダンス（松尾）授業の位置づけ、授業の進め方、テーマ案内など）						配布プリントの復習。							
２．情報社会におけるセキュリティーについて（松尾）						配布プリントの復習。作文の提出							
３．生と性（土屋）						配布プリントの復習。作文の提出							
４．栄養補給ルートとＱＯＬの関係（益田）						配布プリントの復習。作文の提出							
５．生活文化と社会福祉（大瀬戸）						配布プリントの復習。作文の提出							
６．海と生活文化（黒川）						配布プリントの復習。作文の提出							
７．食べ物の情報と本当の食の安全（永沼）						配布プリントの復習。作文の提出							
８．言語文化と生活（佐藤深）						配布プリントの復習。作文の提出							
９．研究倫理と生活文化（池田）						配布プリントを復習し倫理に気をつける。作文提出							
１０．音楽と生活文化（佐藤和）						配布プリントの復習。作文の提出							
１１．英国の生活文化と伝承童謡（佐藤恵）						配布プリントの復習。作文の提出							
１２．生活の中の美術（横山）						配布プリントの復習。作文の提出							
１３．生活と文化（子どもとの関わり）（岡崎、高橋、米川）						配布プリントの復習。作文の提出							
１４．生活と文化（子どもとの関わり）（岡崎、高橋、米川）						配布プリントの復習。作文の提出							
１５．振り返り・・・自分と生活文化（まとめの作文）（池田）						過去の配布プリントをファイルに整理する							
履修上の注意：													
原則、生活文化概論を履修しておくこと。配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。講義の順番は変更されることがある。													
成績評価方法・基準													
各回の作文内容（90％）とファイル提出（10％）。作文は添削して返却する。													
教科書 毎回資料を配布する。													
参考書 なし													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。													

食物栄養学専攻専攻目

授業科目名		健康づくりとレクリエーション				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）			
担当者	伊藤 常久		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要													
レクリエーションは単なる余暇活動の手段としてだけでなく、人間関係、生きがい、健康等を高めるといった効果が期待できる。この授業では、レクリエーションに関する基礎理論を理解すると共に、コミュニケーションゲームやダンス等、健康づくりに向けた集団によるレクリエーション演習を行う。また、人（個人、あるいは集団）と場、そして対象等に応じた健康づくりにつながるレクリエーションとそれを支援する技術について演習・解説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
レクリエーションの目的や概念を理解する。											○	○	
健康づくりにつながるレクリエーションの技術を修得する。											○	○	
コミュニケーションを促進する方法を身につける。											○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス、レクリエーションとは						配布プリントの復習と次回の内容の熟読							
2. コミュニケーション・ワーク：アイスブレイキングの意義						配布プリントの復習と次回の内容の熟読							
3. コミュニケーション・ワーク：アイスブレイキングのプログラミング						配布プリントの復習と次回の内容の熟読							
4. コミュニケーション・ワーク：ホスピタリティとその示し方						配布プリントの復習と次回の内容の熟読							
5. 目的に応じたレクリエーション・ワーク：アクティビティとは						配布プリントの復習と次回の内容の熟読							
6. 目的に応じたレクリエーション・ワーク：アクティビティの提供						配布プリントの復習と次回の内容の熟読							
7. 目的に応じたレクリエーション・ワーク：健康増進のアクティビティ						配布プリントの復習と次回の内容の熟読							
8. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク：指導実習（相互指導）						実習内容と指導方法の復習と次回の内容の熟読							
9. 対象にあわせたレクリエーション・ワーク：基本技術						技術習得に向けた復習と次回の内容の熟読							
10. 対象にあわせたレクリエーション・ワーク：段階的アレンジ						配布プリントの復習と次回の内容の熟読							
11. 素材とアクティビティの活用：チャレンジ・ザ・ゲーム						自分で実施・指導するための復習							
12. 素材とアクティビティの活用：フライングディスク						自分で実施・指導するための復習							
13. 素材とアクティビティの活用：ラダーゲッター						自分で実施・指導するための復習							
14. 素材とアクティビティの活用：ウォークラリー						自分で実施・指導するための復習							
15. レクリエーション活動と評価、まとめ、授業評価アンケート						レポートでの振り返り							
履修上の注意													
・実際に体験することがレクリエーションでは重要であり、毎回扱う内容も異なる。出席だけでなく、積極性・主体性を重んじる。内容により、活動しやすい服装での参加を指示することがある。													
成績評価方法・基準													
・受講態度：授業への参加・取組状況（50%）、レクリエーション活動の課題（発表）（50%）。 ・課題については、授業中にフィードバックする。 ・授業計画の内容に合わせて、事前にルーブリック（評価基準）を提示する。													
教科書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。													
参考書〔レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～〕〔公益財団法人日本レクリエーション協会編〕〔公益財団法人日本レクリエーション協会〕〔2,160 円〕													
備 考													
・受講人数等の都合により、授業計画の順番及び内容等を一部変更することがある。 ・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		有機化学				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	菅野 修一		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
身の回りのあらゆる場面に存在する有機化合物を分子レベルで理解するため、物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合の仕組みを知ることには重点を置く。ここでは有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。一方、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
有機化合物を分子式として理解出来るようになる。								○		○			○
食品を有機化合物として理解出来るようになる。								○		○			○
授業計画の内容							自習（事前・事後学修の内容）						
1. 栄養学における有機化学の重要性の認識について							教科書指定ページの熟読。						
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素							課題を指定。						
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス							教科書指定ページの熟読。						
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手							課題を指定。						
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習							講義ノートの総まとめ（1回目）。						
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用							課題を指定。						
7. 分子式、組成式、次性式、有機化合物の異性体							教科書指定ページの熟読。						
8. 中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造							課題を指定。						
9. 炭素の二重結合、三重結合、分かち書きの分子式							教科書指定ページの熟読。						
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質							講義ノートの総まとめ（2回目）。						
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子体							教科書指定ページの熟読。						
12. 非共有電子体、配位結合、金属結合、不対電子							課題を指定。						
13. メタン分子、軌道電子昇位、混成軌道、σ結合、π結合							教科書指定ページの熟読。						
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基							課題を指定。						
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名							講義ノートの総まとめ（3回目）。						
履修上の注意													
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。													
成績評価方法・基準													
毎回行う小テスト 30％・課題レポート 30％、試験 40％を総合的に評価する。小テストは毎回添削。													
教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]													
参考書 必要に応じてプリントを配布する。													
備 考													
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。													

授業科目名		統計学				単位（授業時間＋自習時間）				2 (30+60)			
担当者	池田 展敏		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	食専 2 年			
授業の概要													
前半では、集団の性質を大局的にとらえるための記述統計（度数分布、代表値、散布度、特に標準偏差、相関係数など）の初歩的事項について解説し、簡単な例で計算練習する。中盤では、統計学の応用のために不可欠な確率と確率分布（正規分布、t 分布、カイ二乗分布など）について説明する。後半では、推定や検定など推測統計の考え方について説明する。実際の統計処理にはコンピュータが欠かせないので、エクセル等を用いた実習も行う。知識を憶えるだけでなく自らの頭で考える努力を重視する。													
授業の目標(到達目標)								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
平均、標準偏差、相関係数などの意味と定義を理解し、その計算ができるようになる。								○					
パソコンで統計データを整理できるようになる。								○		○			
就職試験に出題されるような、簡単な確率や数え上げの問題が解けるようになること。								○					
統計学で使われる確率分布の種類について理解し、区間推定に応用できる。								○					
統計的検定の考え方を理解できる。								○		○			
授業計画の内容						事前・事後学修の内容							
1. 序章：ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）						教科書のガイダンスの章を読むこと。							
2. 1 章：資料の整理（データと度数分布）						教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。							
3. 1 章：資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）						教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。							
4. 1 章：資料の整理（散布度、偏差、分散）						教科書該当ページを読む。計算例の確認。							
5. 1 章：資料の整理（標準偏差、データの標準化）						教科書該当ページを読む。計算例の確認。							
6. 1 章：資料の整理（散布図、共分散、相関係数）						教科書該当ページを読む。散布図、計算例の確認。							
7. 2 章：確率（統計的確率と数学的確率、コイン投げの例）						教科書該当ページを読む。							
8. 2 章：確率（順列や組み合わせなどの場合の数と確率）						教科書該当ページを読む。計算例の確認。							
9. 2 章：確率（確率変数、確率分布）						該当ページを読む。1・2 章提出課題に取り組む。							
10. エクセル演習：身体データとコイン投げデータの解析						1 章の全体復習。エクセル課題を仕上げ印刷する。							
11. 2 章：確率（確率変数の平均値の定義、確率分布の例）						教科書該当ページを読む。ノートの復習							
12. 2 章：確率（分布表の使い方、%点）						教科書該当ページを読む。確率分布表の使い方確認。							
13. 3 章：なぜ正規分布が必要か。						教科書該当ページを読む。ノートの復習。							
14. 4 章：区間推定に関する演習						教科書該当ページを読む。プリントの復習。							
15. 5 章：検定に関する演習						教科書該当ページを読む。2~5 章の課題の提出。							
16. 試験						提出課題を復習して臨むこと。							
履修上の注意													
電卓が必要な時があるので持参すること。													
成績評価方法・基準													
期末テスト（50%）。問題レポート（35%）。エクセル演習レポート（15%） レポートは後日添削して返却する。試験は試験後に解答例を配布する。													
教科書 指示します。（必要な資料は毎回プリントで配布します）													
参考書 なし													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。													

授業科目名		数学基礎演習				単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	池田 展敏		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
本演習では、算数の概念や中学数学などの非常に基本的な考え方に立ち返りながら、日常生活や、栄養・調理、統計学に役に立つ計算能力が身につくよう演習を行う。具体的には次のような項目について演習を行い、それぞれ小テストで確認する。「数量感覚」「式と計算」「いろいろな単位」「方程式」「濃度」「場合の数・順列・組み合わせ」「図形」「グラフの意味と描画」「比例と一次関数」「数列」「指数関数」。これらを個別の問題としてだけでなく、共通する考え方に重点をおき授業を行う。													
授業の目標(到達目標)								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
基本的な計算能力（図形も含む）を身につける。								○		○			
比例の考え方を理解し、栄養価計算などに応用できる。								○		○			
日常生活や理科実験に数学を応用できる。								○		○			
授業計画の内容						事前・事後学修の内容							
1. ガイダンスと栄養価計算の基本例題						配布プリントの復習。							
2. 式と計算（四則演算と計算規則、式の展開など）						配布プリントの復習。							
3. 数量感覚（数直線とたし算・かけ算）の演習						それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。							
4. 分数と割合の計算						小テストの復習。配布プリントの復習。							
5. 基本的な単位						配布プリントの復習。							
6. 濃度、速度、エネルギーなど、いろいろな単位						それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。							
7. 化学等への応用(密度)						配布プリントの復習。							
8. 化学等への応用(モル濃度)						それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。							
9. 一次方程式、連立一次方程式						配布プリントの復習。							
10. 比例とグラフ						配布プリントの復習。							
11. 数列						それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。							
12. 数列とグラフ（2次関数、指数関数などのいろいろな関数）						配布プリントの復習。							
13. 2次関数とグラフ図形（直角三角形と合同）						配布プリントの復習。							
14. 順列と組み合わせいろいろな場合の数						それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。							
15. 総合問題						配布プリントの復習。							
履修上の注意													
問題プリントが多数あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくる。電卓を使う時があるので用意しておくこと。													
成績評価方法・基準													
ノート提出・提出物の提出状況（45%）、小テスト（55%）。小テストはすべて後日添削して返却する。													
教科書 パワーポイントの資料を配布する。演習問題を配布する。													
参考書 なし													
備 考													
小テストの日程は授業進度に合わせるので、その都度アナウンスします。提出課題の一部として入学前 e-learning を活用する予定。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。													

授業科目名		栄養情報処理演習Ⅰ				単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)		
担当者	池田 展敏	必・選	選	形態	演習	学期	通年（前期）	対象	食専２年			
授業の概要												
本演習では、食の分野で業務上必要となる各種文書（食品表示、チケット、商品シール、メニュー表、レシピ表など）の作成・印刷を行う。この際、「画像の活用」に注目して授業を行う。次に、食生活に関する調査を題材にして、アンケート用紙の作成と集計作業の演習を行う。この際、エクセルの各種関数を活用し、度数の集計などの単純集計から、散布図やクロス表集計を使った解析まで、データ処理の演習を行っていく。												
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
「word」の表の挿入を活用し、画像やレシピ表のレイアウトができる。							○		○			○
専用ソフトを使い、チケットやシールなどの印刷ができるようになる。							○		○			○
アンケート調査の一連の流れ（調査計画、用紙作成、結果集計、表・グラフの活用、統計処理）を理解する。							○		○			○
授業計画の内容						事前・事後学修の内容						
１．授業の内容、進め方、画像情報入力の確認						配布プリントの復習。						
２．表と画像を活用したレシピ表の作成						配布プリントの復習。						
３．別メニューを同一レイアウトで作成						配布プリントの復習。レシピ表の提出。						
４．シール・チケット作成ソフトの使い方と注意点						配布プリントの復習。						
５．シールの作成と印刷						配布プリントの復習。シールの印刷と提出。						
６．チケットの作成と印刷						配布プリントの復習。チケットの印刷と提出。						
７．食品表示とメニュー表作成および注意点・印刷						配布プリントの復習。印刷。						
８．統計調査の目的、方法。アンケート用紙の作成						配布プリントの復習。アンケート用紙案の提出。						
９．アンケート結果の集計						配布プリントの復習。						
10．アンケート結果の集計の続き						配布プリントの復習。集計を終わらせる。						
11．統計調査のデータ解析（度数分布）						配布プリントの復習。課題を終わらせる。						
12．統計調査のデータ解析（散布図）						配布プリントの復習。課題を終わらせる。						
13．統計調査のデータ解析（クロス表集計）						配布プリントの復習。課題を終わらせる。						
14．統計調査のデータ解析（検定）						配布プリントの復習。調査のレポート作成。						
15．提出物の総チェック						配布プリントの復習。						
履修上の注意												
配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくる。授業で終わらない課題は、各自で時間外に行うこと。												
成績評価方法・基準												
提出物（100%）。印刷された提出物は後日添削して返却する。また、返却時に講評を行う												
教科書 パワーポイントの資料を配布する。												
参考書 なし												
備考：												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。												

授業科目名		栄養情報処理演習Ⅱ				単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	池田 展敏	必・選	選	形態	演習	学期	通年（後期）	対象	食専2年				
授業の概要													
前期の栄養情報処理演習Ⅰにひきつづき、PCを使った演習を行っていく。エクセルの演習では、ドロップダウンやvlookup関数の活用例（メニューのレパートリー忘備録、年齢・性別・活動レベルに合わせた摂取基準表示）について演習を行う。次に、エクセル栄養君の使い方について学習・演習し、栄養価成績表の見方について学習する。最後に、ウェブページの基本（HTML言語）について学び、給食便りを模したウェブページの作成を行う。業務上役に立つであろう「ピボットテーブル」や「差し込み印刷」の演習も行う。													
授業の目標(到達目標)								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
ドロップダウンやvlookup関数の意味を理解し、エクセルで活用できる。								○		○			○
エクセルを活用し、栄養価計算の情報処理ができるようになる。								○		○			○
ウェブページの基本を理解し、食のコンテンツが作れる。								○		○			○
授業計画の内容						事前・事後学修の内容							
1. 栄養情報処理演習Ⅰの総括と次の課題						配布プリントの復習。							
2. エクセル（ドロップダウン）の演習						配布プリントの復習。							
3. エクセル（vlookup）の演習						配布プリントの復習。演習課題の提出。							
4. レーダーチャートの基本						配布プリントの復習。演習課題の提出。							
5. エクセル栄養君の使い方の学習						配布プリントの復習。							
6. エクセル栄養君（メニューの入力と成績表の見方）						配布プリントの復習。チケットの印刷と提出。							
7. エクセル栄養君（一日分のメニュー入力）						配布プリントの復習。							
8. エクセル栄養君（対象者による成績表の結果の違い）						配布プリントの復習。栄養価成績表の解釈と印刷。							
9. ウェブページの基本						配布プリントの復習。							
10. ウェブページ（リンクや写真活用）						配布プリントの復習。							
11. ウェブページ（表の活用）						配布プリントの復習。							
12. ウェブページの仕上げに向けた作業						配布プリントの復習。給食便りの内容を考えておく。							
13. 給食便りとしてのコンテンツを考える						配布プリントの復習。ウェブページを仕上げ提出。							
14. ピボットテーブルの演習						配布プリントの復習。							
15. 提出物の総チェックと差し込み印刷の応用						配布プリントの復習。							
履修上の注意：													
原則、栄養情報処理演習Ⅰを履修しておくこと。配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。													
成績評価方法・基準													
提出物（100%）。印刷物は確認し、返却時に講評を行う。													
教科書 パワーポイントの資料を配布する。													
参考書 〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1,800円〕													
備考：													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。													

授業科目名		学校・地域の安全安心（防災及び救急処置を含む）			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	伊藤 常久		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要													
子どもの命と安全に関わる課題とその対策には、幼稚園や保育所、学校における専門職（養護教諭や保育士、保健体育科教員）のみならず、地域全体で取り組む必要があるものが少なくない。この授業では、配慮すべき健康問題や安全上の課題等について取り上げ、学校や地域における保健・安全の意義について説明する。また、自然災害に対する防災・減災にも触れながら、学校生活や地域生活において子どもの安全・安心を守るための考え方と取り組みについて論述する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
学校や地域における保健と安全に関する活動を理解する。								○			○		○
生命と健康、安全・安心を守るための基本的な考え方について理解する。								○			○		○
生活における安全・安心を高めるための力を身につける。								○			○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
2. 学校・地域とは、安全安心の意義						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
3. 学校や地域等での事故や災害に関する法・制度						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
4. 学校や地域における事故と現状						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
5. 安全教育と事故予防						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
6. 救護方法：救急処置の理論と実践（止血法、搬送法）						技術習得に向けた復習							
7. 救護方法：心肺蘇生法の理論と実践						技術習得に向けた復習							
8. 学校や地域における災害と現状						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
9. 阪神淡路大震災・東日本大震災・近年の自然災害と教訓						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
10. 災害時の人の心理・行動						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
11. 災害情報システム						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
12. 防災教育						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
13. 防災対策：自助の意義、耐震化・安否確認・食料等の備蓄						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
14. 防災対策：共助の意義、学校と地域の避難所						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
15. まとめ、授業評価アンケート						配布プリントの復習と講義内容の振り返り							
16. 試験						筆記試験に向けた復習							
履修上の注意													
・遅刻・欠席はしないこと。													
・学習の内容はマスメディアを通じて報道されることも多いので、普段から関心を持つこと。													
成績評価方法・基準													
・期末試験（50%）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度・ミニットペーパー（50%）。													
・ミニットペーパーについては、次の授業内でフィードバックを行う。													
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。													
教科書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。													
参考書 〔子どもの命は守られたのか〕〔数見隆生編著〕〔かもがわ出版〕〔1,836 円〕													
備 考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		社会福祉論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	伊藤 常久		必・選	栄（必）	形態	講義	学期	後期	対象	食専２年			
授業の概要													
国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化社会を生きる社会人として、我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）と現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
社会福祉の理念や概念について理解する。									○	○			
社会福祉に関連する法・制度を理解する。									○	○			
社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。									○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
１．ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
２．日本における社会福祉の歴史と発展						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
３．諸外国における社会福祉の歴史と制度（イギリス等）						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
４．諸外国における社会福祉の歴史と制度（アメリカ）						VTRの内容をまとめ、感想と共に次回提出							
５．社会福祉のニーズとは						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
６．社会福祉に携わる専門職						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
７．ボランティア						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
８．社会福祉援助技術						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
９．障害者福祉①概念とその歴史						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
10．障害者福祉②身体障害者補助犬法						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
11．高齢者福祉						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
12．児童福祉						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
13．子どもの権利条約						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
14．貧困問題と社会福祉						配布プリントの復習とミニットペーパーの提出							
15．これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート						配布プリントの復習と講義内容の振り返り							
16．試験						筆記試験に向けた復習							
履修上の注意													
・遅刻・欠席はしないこと。													
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。													
成績評価方法・基準													
・期末試験（70％）、受講態度：主としてミニットペーパーの提出状況より判断する（30％）。													
・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。													
・試験は問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。													
教科書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。													
参考書 〔新版 社会福祉概論〕〔金子光一編著〕〔建帛社〕〔2,484 円〕													
備 考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		公衆衛生学				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）	
担当者	伊藤 常久	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年		
授業概要											
生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学では、主に公衆衛生の概念や歴史といった概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について概説する。また、医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生との関係、そして各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状等も合わせて説明する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
公衆衛生の概念や歴史について理解する。								○	○		
ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動を理解する。								○	○		
公衆衛生の状況や課題を把握する力を身につける。								○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス、公衆衛生概要：健康の概念					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
2. 公衆衛生概要：公衆衛生の概念と歴史					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
3. 主要疾患の疫学と予防対策：生活習慣病の概念					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
4. 主要疾患の疫学と予防対策：主要部位のがん、その他					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
5. 公衆衛生に関する統計資料：保健統計					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
6. 公衆衛生に関する統計資料：人口動態統計、その他					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
7. 健康・疾病の測定と評価：疫学の概念					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
8. 健康・疾病の測定と評価：疫学の応用					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
9. 環境と健康：生態系と人間生活					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
10. 環境と健康：環境汚染と健康					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
11. 国民健康づくり対策					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
12. 学校保健					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
13. 母子保健					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
14. 産業保健					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
15. 高齢者保健、まとめ、授業評価アンケート					教科書の復習とミニットペーパーの提出						
16. 試験					筆記試験に向けた復習						
履修上の注意											
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。											
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。											
成績評価方法・基準											
・期末試験（70%）、受講態度：主としてミニットペーパーの提出状況より判断する（30%）。											
・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。											
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。											
教科書〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024 円〕											
参考書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。											
備 考											
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。											
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。											

授業科目名		健康管理概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	伊藤 常久		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専 1 年			
授業概要													
日本は世界でも有数の長寿国となっているが、これまでに我が国の疾病構造は感染症から生活習慣病、そして老人性の退行疾患と大きく変化・推移してきた。この講義では、単に長寿ではなく、元気に長生きするためにはどのような健康管理が必要であるのか、現在と将来の健康維持に向けた健康管理のあり方とその重要性について解説する。特に健康づくりの柱とされている運動・栄養・休養を中心に心身の健康保持・増進に加え、社会的な健康も合わせて取り上げて説明する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
健康管理の目的や概念について理解する。								○		○			
健康の保持・増進のための方法について理解する。								○		○			
健康状態を把握する力を身につける。								○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス、						配布プリントの復習							
2. 健康とは（定義・歴史）						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
3. 日本の人口構造と平均寿命の変遷						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
4. 高齢化と少子化社会と健康						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
5. 現代の健康状態と疾病						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
6. ライフスタイル、生活習慣の現状と課題						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
7. メタボリックシンドロームと予防						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
8. 健康を支えるからだの仕組み、小テスト（前半分）						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
9. 体脂肪、BMI、基礎代謝と健康						小テスト結果の確認及び次回の内容の事前確認							
10. 栄養と健康						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
11. 運動・体力と健康						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
12. ストレス・休養と健康						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
13. 加齢・老化と健康						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
14. 社会関係資本と健康						配布プリントの復習及び次回の内容の事前確認							
15. まとめ、授業評価アンケート						配布プリントの復習と講義内容の振り返り							
16. 試験						筆記試験に向けた復習							
履修上の注意													
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。													
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、受講態度は基本的に評価外とする。													
成績評価方法・基準													
・期末試験（70％）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度（30％）。													
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。													
教科書 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。													
参考書〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024 円〕													
備 考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		解剖生理学			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	曾根 正彦	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要												
栄養にかかわる職業に就くためには、正常なからだの「しくみ」について学び理解しておく必要がある。からだの「しくみ」を構造面からアプローチする学問が解剖学であり、機能面からアプローチする学問が生理学である。からだの構造と機能は密接に関わっているので解剖学と生理学とを関連づけながら、健康と栄養の知識を修得することを目指す。この授業では、臨床医としての経験から医療現場での事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。またアクティブ・ラーニングとして、共同学習は授業で得た知識をグループごとに学習し、学習成果の発表を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。									○			
・人体の「しくみ」を構造面と機能面から体系的に理解できるようになる。									○			
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。									○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション、人体構造、共同学習グループ分け					第1章をよく読み、不明点は質問							
2. 運動器、共同学習テーマ選択（第1回）					第3章をよく読み、不明点は質問。							
3. 呼吸器、共同学習					第4章をよく読み、不明点は質問。							
4. 循環器、共同学習					第5章をよく読み、不明点は質問。							
5. 消化器総論・消化管、共同学習					第6章をよく読み、不明点は質問。							
6. 消化器と栄養（肝臓と門脈）、共同学習					第6章をよく読み、不明点は質問。							
7. 腎・泌尿器、共同学習					第7章をよく読み、不明点は質問。							
8. 共同学習 1回目のプレゼンテーション					発表準備と発表後の評価。							
9. 神経系、共同学習テーマ選択（第2回）					第8章をよく読み、不明点は質問。							
10. 感覚器、共同学習					第9章をよく読み、不明点は質問。							
11. 内分泌、共同学習					第10章をよく読み、不明点は質問。							
12. 血液など、共同学習					第11章をよく読み、不明点は質問。							
13. 生殖器、共同学習					第12章をよく読み、不明点は質問。							
14. 細胞の構造と機能、共同学習					第2章をよく読み、不明点は質問。							
15. 共同学習 2回目のプレゼンテーション					発表準備と発表後の評価。							
16. 筆記試験					講義の復習および誤答箇所の事後学修							
履修上の注意												
解剖生理学の学習には生物学の知識が必要なので、事前に生物学を復習しておくことが望ましい。授業は教科書に沿って進める。また共同学習はテーマ内容を各自よく学習すること。												
成績評価方法・基準												
期末試験（60％程度）、共同学習発表（30％程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10％程度）で評価する。レポート・試験等についてフィードバックを行う。												
教科書 〔解剖生理学〕〔林 洋 監修〕〔じほう〕〔2,000 円（税別）〕												
参考書 「無し」												
備考 都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。 質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。												

授業科目名		運動生理学			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）		
担当者	川俣 幸一	必・選	栄（必）	形態	講義	学期	後期	対象	食専2年		
授業の概要											
本授業では、運動に伴う生理的な諸現象について学習すると共に、現代人の多くが罹患する可能性がある各種生活習慣病の予防及び要介護予防等に必要な運動処方を作成するための基礎的知識について教授する。そして、対象者（運動実施者）の身体的特性等に応じた適切な運動処方を作成できるまでの能力を身につけさせる。加えて受講者個々人に対しても、自分に合った運動やスポーツを積極的・継続的に実践していく人材に成長していけるよう指導する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
「運動生理学」についての基礎的知識を理解する									○		
運動と健康・体力との関連性に関する認識を理解する。									○		
科学的・合理的な運動処方を作成できる能力を身につける。										○	
今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。											○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 概論／暑熱環境①（気温・汗）					復習、及び次回の予習						
2. 暑熱環境②（水分補給）					同上						
3. 運動とエネルギー代謝					同上						
4. 呼吸循環器系と持久力①（理論）					同上						
5. 呼吸循環器系と持久力②（実際）					同上						
6. 骨格筋の種類と筋力①（理論）					同上						
7. 骨格筋の種類と筋力②（実際）					同上						
8. 前半のまとめ回					ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと						
9. 健康づくりのための身体活動基準 2013					復習、及び次回の予習						
10. スポーツと栄養学①（理論）					同上						
11. スポーツと栄養学②（実際）					同上						
12. 糖尿病の運動療法					同上						
13. ライフステージ別の運動①（幼児期～成人期）					同上						
14. ライフステージ別の運動②（高齢期）					同上						
15. 後半のまとめ回					ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと						
履修上の注意											
ライフステージ栄養学、生化学、解剖生理学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道德行為が判明した学生は受講態度が一律0点（0％）となるので、単位の認定を行うことがほぼ出来なくなります。											
成績評価方法・基準											
小テスト・・・60％ 受講態度・・・40％（履修上の注意を参照）											
教科書：適宜プリントを配布する											
参考書：なし											
備 考											
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。											

授業科目名		生化学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	鈴木裕行		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
化学とは生命現象をタンパク質・脂質・核酸などといった生体物質の性質・機能の観点から解析する学問で、栄養学を学ぶ上での基礎として人体の仕組みについて構造や機能を生化学的に理解することは必須である。この授業ではタンパク質・糖質・脂質の構造・化学的性質および生体での代謝をそれぞれの栄養素の代謝の関連をふまえて解説する。遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能、体内の調節機能と恒常性の維持についても述べる。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
生体を構成する各成分の種類と構造および化学的性質が説明できる										○			○
生体を構成する各成分の代謝および機能が説明できる										○			○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 生化学とは、細胞の構造、生体構成成分						教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㊶							
2. アミノ酸とは、アミノ酸の種類													
3. アミノ酸の性質、タンパク質とは													
4. 糖質とは、糖質の分類、単糖・オリゴ糖の種類と性質													
5. 多糖類の種類と性質、脂質とは、脂質の分類													
6. 脂肪酸の特徴と種類、複合脂質の種類と性質													
7. 誘導脂質酵素の種類と性質、酵素とは・酵素の分類・性質						㊶に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。							
8. [中間試験]、糖質の代謝：解糖系						㊶に加え、試験でできなかったところをよく復習する。							
9. 試験の解説、クエン酸回路													
10. 電子伝達系とエネルギー						教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。…㊶							
11. トリアシルグリセロールの代謝、脂肪酸のβ-酸化、													
12. リン脂質・コレステロールの代謝													
13. 体内でのアミノ酸の利用、尿素回路													
14. 核酸の種類・構造と機能						㊶に加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。							
15. [期末試験]、タンパク質の生合成						㊶に加え、試験でできなかったところをよく復習する。							
16. 試験の解説、個体の調節機能と恒常性													
履修上の注意													
内容の理解できないところがあれば放置せず、質問したり自分で調べたりして、疑問点の解消に努めること。													
成績評価方法・基準													
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（受講態度[居眠り・スマホいじり・私語は減点]・提出物）・・・10%													
教科書 わかりやすい生化学、林 寛 他、三共出版、2,400 円＋税													
参考書 無し													
備 考													
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。													

授業科目名		病理学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	曾根 正彦	必・選	栄（必）	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要												
病理学は医学全般を理解するために基本となる学問であり、栄養系の現場では疾病の全体像を把握する必要がある。授業では病因、循環障害、代謝異常、感染症、細胞の異常、免疫・アレルギー、炎症、腫瘍、先天異常、老化について、ヒトの病気の成り立ちに興味を持ちながら、体系立てて理解できることを目指す。この授業では、臨床医としての経験から医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。臨床環境の現状を含めて幅広く学習し、健康と栄養に関連する専門的な基礎知識を修得できるように講義を行う。またアクティブ・ラーニングとして、講義内容に関連した知識をグループで学習し、その成果を学期中に2回発表する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
・病理学の基本的知識を学び身につける。									○			
・ヒトの病気の成り立ちを体系的に理解できるようになる。									○			
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。									○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 病気と病理学（内因、外因） 共同学習グループ分け					病理の定義、診断・治療との関連を理解							
2. 循環器系の働き、共同学習テーマ選択					第4章Aをよく読み、不明点は質問							
3. 循環障害と主な疾患、共同学習					第4章BCをよく読み、不明点は質問							
4. 代謝異常（糖尿病）、共同学習					第5章A～Cをよく読み、不明点は質問							
5. 代謝異常（脂質・核酸・蛋白など）、共同学習					第5章D～Hをよく読み、不明点は質問							
6. 感染症の正体・原因、防御能など、共同学習					第7章をよく読み、不明点は質問							
7. 共同学習 1回目のグループ発表					グループで発表準備、発表後の評価							
8. 細胞の異常（構造と傷害、新陳代謝など）、共同学習					第2章をよく読み、不明点は質問							
9. 免疫（免疫の正体、免疫機構）、共同学習					第8章Aをよく読み、不明点は質問							
10. アレルギー、自己免疫疾患など、共同学習					第8章B～Fをよく読み、不明点は質問							
11. 炎症（炎症の正体、原因、基本病変）、共同学習					第9章ABをよく読み、不明点は質問							
12. 炎症（分類、全身反応）など、共同学習					第9章CDをよく読み、不明点は質問							
13. 腫瘍（癌の正体、分類、特性、診断）、共同学習					第10章A～Dをよく読み不明点は質問							
14. 共同学習 2回目のグループ発表					グループで発表準備、発表後の評価							
15. 腫瘍（治療など）、先天異常、老化など					第10章Eと第3章・第6章をよく読む							
16. 筆記試験					講義の復習および誤答箇所の事後学修							
履修上の注意												
以前に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習しておくことが望ましい 授業は教科書に沿って講義を進める。また共同学習はテーマ内容をよく学習すること。												
成績評価方法 ・基準												
期末試験（70％程度）、共同学習発表（20％程度）、ミニットペーパー提出等の受講状況（10％程度）で評価する。試験・レポート等についてはフィードバックを行う。												
教科書〔なるほどなっとく！病理学 改訂2版〕〔小林正伸 著〕〔南山堂〕〔2,200円＋税〕												
参考書「無し」												
備考 都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。 質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。												

授業科目名		食品学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	永沼 孝子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要												
栄養士としての実践に役立つ基礎を習得させることを目的として、本授業では、私たちの体を構成している様々な食品に含まれる栄養素の種類と組成について説明する。また食品を構成する各成分の化学的特性と相互作用、食品における役割についても解説する。併せて、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのかも解説し、食品学の分野が栄養学・調理学の分野とも関わっていることを理解できるように指導する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
・食品を構成する栄養素の化学的性質を理解する。									○			
・食品成分の栄養特性と物理特性について基礎的な知識を習得する。									○			
・おいしく栄養バランスのとれた食事内容を科学的に組み立てる力を身につける。									○		○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境					事前に教科書の第1章を読む。事後に教科書と資料を基にしてノートを整理する。							
2. 水分Ⅰ 水の構造と性質					教科書のほか、高校の教科書で原子・分子・物質の結合について復習しておく。							
3. 水分Ⅱ 水が食品中で果たす役割					教科書を読む。事後にノートを整理。							
4. 炭水化物Ⅰ 糖の種類と構造					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
5. 炭水化物Ⅱ 糖の性質、糖の反応性と炭水化物としての糖					事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。							
6. 脂質Ⅰ 脂肪酸の構造と性質					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
7. 脂質Ⅱ 油脂の酸化、脂質の栄養、小テスト(1)					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
8. 小テストの解説、タンパク質Ⅰ タンパク質の構造と構成アミノ酸					事前に教科書を読む。事後にノート整理。 小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。							
9. タンパク質Ⅱ タンパク質の性質と栄養価					事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書の練習問題を解く。							
10. 脂溶性ビタミン					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
11. 水溶性ビタミン					事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。							
12. ミネラル 小テスト（2）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書の練習問題を解く。							
13. 小テストの解説、食品の呈味成分、色素、香気成分					事前に教科書を読む。事後にノート整理。 小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。							
14. 食品の機能性成分、食品の物性とおいしさ					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
15. 1～14回のまとめ					教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。							
16. 試験					解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。							
履修上の注意												
正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問点については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。												
成績評価方法・基準 平常点（授業への参加状況 20%、小テスト 10%）の成績 30%， 学期末の試験 70%の割合で評価する。小テストについては採点の後、授業中に解説する。												
教科書 [新 食品・栄養科学シリーズ 食品学総論（第3版）] [化学同人] [2,600+税 円]												
参考書 特になし												
備考												
都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。												

授業科目名		食品機能学				単位（授業時間＋自習時間）				2 (30+60)		
担当者	永沼 孝子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要												
食品には、一次機能（栄養機能）、二次機能（感覚応答機能・嗜好性成分）の他に三次機能（生体調節機能）をも併せ持つものがある。三次機能を持つ食品成分は機能性成分と呼ばれ、非栄養素とされるものも多い。本授業では、各種食品が持つ三次機能について、その成分・構造・体内での吸収や動きについて解説する。また、現代の生活習慣に深く関わる成分について、その活性の発現機構についても解説する。併せて、食品機能に関する表示制度についても言及する。												
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
・食品に含まれる種々の成分と生体内での生理機能を理解する。									○			
・食品の機能性成分が生体の働き（消化器系や免疫系など）におよぼす機能を理解する。									○			
・食品の機能性成分を上手に利用して健康増進に寄与できる力を身につける。												○
授業計画の内容						事前・事後学修の内容						
1. 食品の機能とは何か。（概要説明）						配布された資料の復習とまとめ						
2. 現代における食生活と疾病						配布された資料の復習と独自の調査						
3. 食品機能の表示制度の解説・それについての見解を作文						課題整理						
4. 系統別生理機能Ⅰ 消化器系に機能する成分						配布された資料の復習とまとめ						
5. 系統別生理機能Ⅱ 循環器系に機能する成分						配布された資料の復習とまとめ						
6. 系統別生理機能Ⅲ 内分泌系・神経系に機能する成分						配布された資料の復習とまとめ						
7. 系統別生理機能Ⅳ(1) 免疫系の生理機能						配布された資料の復習とまとめ						
8. 系統別生理機能Ⅳ(2) 免疫系に機能する食品成分						配布された資料の復習とまとめ						
9. 系統別生理機能Ⅴ がん抑制に機能する成分						配布された資料のまとめ、課題整理						
10. 生体抗酸化物質と食品機能性成分						配布された資料のまとめ、課題整理						
11. 各自が興味を持った機能性を有する食品の紹介（映像を使ったプレゼンテーション）（アクティブラーニング）						発表準備と各発表の理解とまとめ						
12. おもな食品の機能性（植物性・動物性食品）						配布された資料の復習とまとめ						
13. 機能性食品の開発の現状についてのフリーディスカッション（アクティブラーニング）						独自調査による予習						
14. 課題：機能性成分を含む食品を利用した機能的な食事例Ⅰ（アクティブラーニング）						これまでの知識のまとめ。発表準備。						
15. 課題：機能性成分を含む食品を利用した機能的な食事例Ⅱ 14.で作成した献立の発表。映像を使ったプレゼンテーション（アクティブラーニング）						媒体を含むプレゼンテーションの準備。 発表後、アドバイスに基づき改善点の確認。						
履修上の注意												
正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。随時課題を出題するので、よく調べてレポートを作成し、締め切りに遅延のないように提出すること。												
成績評価方法・基準 平常点(授業への参加状況)の成績 40%, 課題の提出 20%, 各授業の発表内容 40%の割合で評価する。課題についてはその都度評価し、授業中に解説する。												
教科書 授業の開始時に独自作成の資料を配布する。												
参考書 なし												
備考 都合により授業計画の順番を変更することがある。質問については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		食品学実験Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋30）			
担当者	永沼 孝子		必・選	必	形態	実験	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
私たちの体は私たちが食べたものから成り立っている。その観点から、様々な食品に含まれる栄養成分の構成を知ことは非常に重要である。本授業では、食品に含まれる栄養素、特に三大栄養素である糖質、脂質、たんぱく質について「定性実験」を行い、その特性を解説する。また、これらを通して化学実験全般における基本手技、器具の扱い方、測定機器の使用手法、データのまとめ方、レポートの書き方を指導し、今後の実験に関する学習の基礎構築を目指す。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
・化学実験の基礎的理論と基礎技術を習得する。										○			○
・実験を通して食物の構造や化学的特性について理解する。										○			○
・「食品」を分子レベルで把握する思考力、食品および食生活に関して科学的視点から思考する力を身につける。										○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 実験の基礎Ⅰ（実験の心得、安全対策、実験ノートのとり方）						授業後に実験書を読み返し。実験に臨む準備を整える。							
2. 実験の基礎Ⅰ（数値の取り扱い、濃度計算法、実験器具の扱い方）						事前に実験書を読む。事後に復習。							
3. ジャガイモからデンプンの分離						事前に実験書を読む。事後にノート整理。							
4. デンプン粒の顕微鏡観察、ヨウ素反応						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。							
5. 糖の定性反応（呈色反応、還元反応）						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。							
6. タンパク質の定性反応Ⅰ（ビウレット反応、ニンヒドリン反応、硫化鉛反応）						事前に実験書を読む。事後にノート整理							
7. タンパク質の定性反応Ⅱ（薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の同定）						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。							
8. 脂質の定性反応（エステル、不飽和脂肪酸の定性、油脂の鮮度判定）						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。							
9. 油脂の物理的変化（乳化反応、相転移）						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。							
10. 食品の色に関する実験Ⅰ（酵素的褐変、アントシアンの色の変化）						事前に実験書を読む。事後にノート整理							
11. 食品の色に関する実験Ⅱ（非酵素的褐変）						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。							
12. 容量分析Ⅰ 中和滴定（1）中和滴定の原理解説、ビュレットの使い方実習						事前に実験書を読む。事後にノート整理							
13. 容量分析Ⅱ 中和滴定（2）食酢中の酢酸の定量（実験講義、標準溶液の作製と評定）						事前に実験書を読む。事後にノート整理							
14. 容量分析Ⅲ 中和滴定（3）食酢中の酢酸の定量（試料の測定、計算）						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成							
15. これまでの実験のまとめと濃度計算の演習						実験の総括と演習問題の復習							
履修上の注意 正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険を伴うことがあるので、事故のないように事前にテキストを読んで予習しておく。遅刻は3回で欠席1回とする。													
成績評価方法・基準 平常点（授業への参加状況、実験に対する態度・積極性）40%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて60%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーブリックに記載。レポートは必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を加える。													
教科書 [食品学総論実験・実験で学ぶ食品学] [江角彰彦著] [同文書院] [2,400円＋税] ＋授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）													
参考書 必要に応じて資料を配布する。（実験時配布）													
備考 都合により授業計画の順番を変更することがある。 質問については、実験中随時、またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		食品学実験Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋30）		
担当者	永沼 孝子	必・選	栄（必）	形態	実験	学期	後期	対象	食専1年		
授業の概要											
食品学実験Ⅰで習得した化学実験における基本的手技を応用に用いる。本授業では、日本食品成分表に記載されている食品中の栄養素の数値がどのようにして算出されるのかを知る目的で、水分、脂質、たんぱく質、灰分、リンの各成分を食品から抽出して、定量分析を行う。これらを通じて、食品成分表の数値の意味、食品試料の扱い方、化学実験における実験の原理を理解させるとともに実験器具の扱い方、測定機器の使用手法、データのまとめ方、レポートの書き方を指導する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
・食品に含まれる成分や栄養素の定量分析実験を通じて、分析化学、特に「定量分析」の基礎理論と基本操作を理解する。									○		○
・食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。									○		○
・食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているのか、実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。									○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1.食品中の一般栄養成分分析の説明、濃度計算小テスト					授業後に実験書を読み返す。計算問題の復習。						
2.食品中の水分の定量（常圧乾熱法）					事前に実験書を読む。事後に結果のまとめ・ノート整理・レポート作成。						
3.食品中の脂質の定量Ⅰ（ソクスレー法による脂質の抽出）					事前に実験書を読む。事後にノート整理。						
4.食品中の脂質の定量Ⅱ（ソクスレー法による脂質の抽出および乾燥、重量測定）					事前に実験書を読む。事後に結果のまとめ・ノート整理・レポート作成。						
5.食品中のタンパク質の定量Ⅰ タンパク質の酸分解					事前に実験書を読む。事後にノート整理・実験装置の確認。						
6.食品中のタンパク質の定量Ⅱ（ケルダール法による水蒸気蒸留のトレーニング）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・実験装置の確認。						
7.食品中のタンパク質の定量Ⅲ（ケルダール法による水蒸気蒸留と中和滴定-1）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・実験装置の確認。						
8.食品中のタンパク質の定量Ⅳ（ケルダール法による水蒸気蒸留と中和滴定-2,まとめ）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
9.食品中の灰分の定量（直接灰化法）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
10.食品中のミネラルの定量Ⅰ 灰化試料中のリンの定量（分光光度計の説明, 標準溶液の調製）					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
11.食品中のミネラルの定量Ⅱ 灰化試料中のリンの定量（検量線の作製）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
12.食品による味覚の変化					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
13.緑茶中のタンニンの定量Ⅰ（標準溶液の調製と検量線の作製）					事前に実験書を読む。事後にノート整理						
14.緑茶中のタンニンの定量Ⅱ（緑茶中のタンニン量の測定と算出）					事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成						
15. これまでの実験のまとめと濃度計算演習					実験の総括と演習問題の復習						
履修上の注意											
正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険を伴うことがあるので、事故のない様に事前にテキストを読んで予習しておく。遅刻は3回で欠席1回とする。											
成績評価方法・基準											
平常点（授業への参加状況、実験に対する態度・積極性）40%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて60%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーズリックに記載。レポートは必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を加える。											
教科書 [食品学総論実験・実験で学ぶ食品学-] [江角彰彦著] [同文書院] [2,400円＋税] ＋授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）（食品学実験Ⅰに同じ）											
参考書 必要に応じて資料を配布する。（実験時配布）											
備考 都合により授業計画の順番を変更することがある。 質問については、実験中随時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。											

授業科目名		食品衛生学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	黒川 優子		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要													
近年、食品の安全性について多くの問題が社会的に注目されており、消費者の関心も高まっている。ここでは食品の腐敗や食中毒、寄生虫とその疾患、食品添加物、さらに身の回りに存在する各種合成化学物質や重金属などによる食品や水の汚染が健康にどのような影響を及ぼすかについて学び、食品の安全性確保に関する法律と安全性確保のための具体的な方法を解説する。また、飲料水や食品に含まれる農薬などの合成化学物質の分析方法、天然および養殖魚介類における寄生虫の検査方法等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
食品の安全性を脅かすものについて学ぶ。										○	○	○	
食品の安全性確保に関する基礎知識を身につける。										○	○	○	
食品衛生に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。										○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 食品衛生とは、食品衛生と法規						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
2. 食品と微生物						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
3. 食品の変質とその防止						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
4. 食中毒の定義と概念、食中毒の発生状況						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
5. 細菌性食中毒① 感染侵入型食中毒・感染毒素型食中毒						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
6. 細菌性食中毒② 毒素型食中毒細菌						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
7. ウイルス性食中毒、マイコトキシン中毒						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
8. 自然毒による食中毒－動物性自然毒・植物性自然毒						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
9. 寄生虫とその疾患① 野菜・飲料水・魚介類からの感染						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
10. 寄生虫とその疾患② 食肉類等からの感染						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
11. 有害金属・動物用医薬品・飼料添加物による食品汚染						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
12. 農薬・その他の有害物質による食品汚染						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
13. 食品添加物の概念、安全性評価						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
14. おもな食品添加物の種類と特徴						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
15. 食品の器具・容器包装、食品衛生対策						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
16. 試験						授業内容を総復習して試験に臨むこと。							
履修上の注意													
他の食品に関する学科目と関連性が高いので、履修済みの科目をよく理解して講義に臨むこと。また、身近な食品に関する事項が多いので、日頃から食品に対して関心・興味を持つことが講義内容の理解につながる。													
成績評価方法・基準													
・授業への取り組み（30%）、調査とレポートへの取り組み（30%）、試験（40%） ・提出されたレポートは、後日、添削して返却する。													
教科書 ・〔エキスパート食品衛生学〕〔白石淳編〕〔化学同人〕〔2,700 円〕 ・必要に応じて資料を配布する。													
参考書 授業時間内に適宜、参考書を紹介する。													
備 考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		食品衛生学実験Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)		
担当者	黒川 優子	必・選	必	形態	実験	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要												
地球上のあらゆる生物は水なしに生きることはいできない。私たち人間も飲料水はもとより、調理や加工に水は欠かせない。我が国及び世界の国々においてかけがえのない水資源の現状がどのようなかをまず理解した上で、各家庭の水道水が、飲み水として適正かどうかについて、いくつかの水質項目を測定し、その安全性を確認する。また、空気中の細菌をはじめ、身の回りに多くの微生物が生息することを培地で培養して計数するとともに、細菌を染色し、顕微鏡観察する。さらに、細菌の培養法や成長曲線、簡易な細菌の鑑別法を学び、食中毒の原因となる細菌の検査法について基礎的な知識と技術を身につける。また、飲料水の水質調査、微生物の検査方法等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
食品に関する化学的および生物学的分析法の基礎的な技術を習得する。									○	○		○
食品の安全性確保の重要性を理解する。									○	○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 諸注意・概要説明・レポートの書き方・水道水サンプルの採取における注意事項・世界の水事情について					事後：授業内容の復習。							
2. 水道水の水質試験①：味・臭気・硬度・鉄					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
3. 水道水の水質試験②：硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素・塩素イオン					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
4. 水道水の水質試験③：有機物（過マンガン酸カリウム消費量）・pH					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
5. 水道水の水質試験④：残留塩素・一般細菌数					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
6. 水道水の水質試験⑤：レポート提出後の結果検討会 滅菌法・消毒法					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
7. 手洗いの科学的検証：正しい手洗い法の理解					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
8. 家庭用調理器具・食器の洗浄度検査：デンプン・タンパク質・油脂					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
9. 培地調製①					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。							
10. 環境微生物の観察①：細菌採取、培地調製②					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。							
11. 環境微生物の観察②：細菌の培地接種、培養法					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
12. 環境微生物の観察③：コロニーの肉眼的形状観察					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
13. 環境微生物の観察④：細菌の染色法					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。							
14. 環境微生物の観察⑤：細菌の顕微鏡観察					事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。							
15. まとめ					実験の総括。							
履修上の注意												
白衣を着用する。実験機材の取り扱いには十分注意を払う。実験後には手洗いを充分行う。実験結果、注意事項および実験中に気が付いたこと等を詳細に記録する。												
成績評価方法・基準												
・実験への取り組み（60%）、レポート（40%） ・提出されたレポートは、後日添削して返却する。												
教科書 〔食品衛生学実験〕〔杉山 章・岸本 満・和泉秀彦編〕〔みらい〕〔2,500 円〕												
参考書 なし												
備 考												
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		食品衛生学実験Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+45)		
担当者	黒川 優子	必・選	必	形態	実験	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要												
食品衛生学実験Ⅰで学んだことを踏まえ、食中毒や食品事故の要因となり、食品衛生管理上で重要である食品添加物、油脂性食品の変質判定、食品の鮮度判定、アレルゲンの検査・検出、家庭用調理器具・食器の洗剤の残留性、熱および消毒薬による殺菌効果、食品素材の抗菌性などについて学び、その検査法に関する基礎的な知識と技術を身につけるとともに、栄養士として必要な食品の衛生・安全、品質管理に対する見識を深め、食品の危害要因に対して、科学的かつ客観的な知識を得る。また、熱、消毒薬、食品成分が細菌の増殖におよぼす影響、食器・実験器具類の洗浄方法と洗浄剤の残留性の関係等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
食品に関する化学的および生物学的分析法の基礎的な技術を習得する。									○	○		○
食品の安全性確保の重要性を理解する。									○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. 概要説明・諸注意						事後：授業内容の復習。						
2. 試薬調製						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。						
3. 食品添加物試験①：発色剤（亜硝酸塩）						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
4. 油脂性食品の変質判定試験①：過酸化価（POV） 油脂性食品の変質判定試験②：酸価（AV）						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
5. 食品の鮮度測定試験①：魚介類の鮮度測定（K 値）						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
6. 食品添加物試験②：酸化防止剤						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
7. アレルギー様食中毒：ヒスタミン試験						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
8. 食品の鮮度測定試験②：野菜類の鮮度測定、臭気テスト						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
9. 熱による殺菌効果						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
10. 消毒薬による殺菌効果						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
11. 洗浄剤の残留試験						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
12. 施設見学						学んだことをまとめてレポートを作成する。						
13. 食品素材の抗菌試験						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
14. 五味識別テスト：甘味・塩味・酸味・苦味・旨味 加工食品の殺菌						事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。						
15. まとめ						実験の総括。						
履修上の注意												
白衣を着用する。実験機材の取り扱いには十分注意を払う。実験後には手洗いを充分行う。実験結果、注意事項および実験中に気が付いたこと等を詳細に記録する。												
成績評価方法・基準												
・実験への取り組み（60%）、レポート（40%） ・提出されたレポートは、後日、添削して返却する。												
教科書 〔食品衛生学実験〕〔杉山 章・岸本 満・和泉秀彦編〕〔みらい〕〔2,500 円〕												
参考書 なし												
備 考												
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		微生物学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	黒川 優子		必・選	栄（必）	形態	講義	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
私たちの身の回りには病原性の細菌やウイルスが存在し、日常の生活に有害な作用を示すが、その一方で、味噌、納豆、酒類など私たちの日常生活に役立つ微生物も少なくない。人間と微生物の関わりを理解するために、微生物の種類と特徴、微生物による疾患、微生物を用いた食品などについて学ぶ。さらに、病原性微生物の場合、感染および発症機構や免疫機構等についても理解を深める。また、環境中の微生物の単離方法、合成化学物質の微生物分解等、これまでの実務経験を反映させた講義を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
それぞれの微生物の特徴を習得する。										○		○	○
微生物と人間との関わり方を理解する。										○		○	○
微生物に関する分野で興味を持った内容について調べ、レポートを提出する。										○		○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 微生物学の歴史① 人間と微生物の関わり						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
2. 微生物学の歴史② 感染症と治療						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
3. 微生物学の基礎① 微生物の種類と性質						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
4. 微生物学の基礎② 原虫・寄生虫・真菌						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
5. 微生物学の基礎③ 細菌の大きさと性質・染色法						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
6. 微生物学の基礎④ 細菌の形・構造						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
7. 微生物学の基礎⑤ ウイルス・微生物の生理と代謝						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
8. 食品微生物学① 微生物と食品						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
9. 食品微生物学② 食品の腐敗・変敗と食品の保存						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
10. 食品微生物学③ 微生物を利用した食品						関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。							
11. 病原性微生物学① 細菌・真菌・ウイルス・原虫						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
12. 病原性微生物学② 新興感染症・再興感染症・抗生物質						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
13. 滅菌・消毒						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
14. 免疫学 免疫機構・免疫の種類・ワクチン・アレルギー						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
15. 微生物を利用したバイオテクノロジー						教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。							
16. 試験						授業内容を総復習して試験に臨むこと。							
履修上の注意													
微生物の理解には生物学の知識が必要となるので、高等学校での生物科目を復習して授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
・授業への取り組み（30%）、調査とレポートへの取り組み（30%）、試験（40%）													
・提出されたレポートは、後日、添削して返却する。													
教科書 ・[エキスパート微生物学] [小林秀光編] [化学同人] [2,500 円]													
・必要に応じて資料を配布する。													
参考書 授業時間内に適宜、参考書を紹介する。													
備 考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		栄養学Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)				
担当者	永沼 孝子		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
栄養学は、栄養士として社会で役立つために最も基本となる分野である。それを踏まえ、栄養学Ⅰではヒトにとっての栄養の意義、各栄養素の構造や性質について講義する。また、ヒトが環境に適応するために備わっている生体調節の仕組みや、消化器系の構造と基本的な機能が栄養素どう関わるかについて解説する。その基本知識に基づいて、三大栄養素（糖質、たんぱく質、脂質）の消化・吸収・代謝のしくみとそれらの生体内での機能について詳しく解説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
・ヒトが生きる上での栄養の意義について学ぶ。										○			○
・食品を構成する栄養素の性質と、生体内での働きについて理解する。										○			○
・健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する。										○			○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 栄養の概念（栄養とは何か。栄養の意義と目的、食品の栄養機能）						事前に教科書の第1章を読む。事後に教科書を見直してノートを整理する。							
2. 健康と栄養（食物の役割、病気の予防・治療と栄養）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
3. 摂食行動（食欲の調節、食事のタイミング）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
4. 消化器の構造と機能						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
5. 消化・吸収の機構（唾液腺、胃腺、膵臓、胆のう、小腸、膜消化、能動輸送、受動輸送）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
6. 糖質の栄養Ⅰ（糖質の消化・吸収機構、血糖値の調節）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
7. 糖質の栄養Ⅱ（糖の代謝と肝臓・筋肉・脂肪組織の役割）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
8. 糖質の栄養Ⅲ（糖質の代謝経路、内呼吸の役割）、小テスト(1)						事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
9. 小テストの解説、脂質の栄養Ⅰ（脂質の種類と構造、消化と吸収）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。							
10. 脂質の栄養Ⅱ（脂肪酸・コレステロールの代謝、脂質の体内移動）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
11. 脂質の栄養Ⅲ（脂質の代謝）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
12. たんぱく質の栄養Ⅰ（たんぱく質の構造、消化・吸収）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
13. たんぱく質の栄養Ⅱ（アミノ酸の体内利用、体たんぱく質の代謝）						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
14. たんぱく質の栄養Ⅲ（たんぱく質の栄養評価、他の栄養素との関係）、小テスト(2)						事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書の練習問題を解く。							
15. 小テストの解説、1～14回のまとめ						小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。							
16. 試験						解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。							
履修上の注意													
正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問点については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。													
成績評価方法・基準 平常点（授業への参加状況 20%、小テスト 10%）の成績 30%、学期末の試験 70%の割合で評価する。小テストについては採点の後、授業中に解説する。													
教科書													
[栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学第3版][田地 陽一 編][羊土社][2,800+税円]													
参考書 特になし													
備考 都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。													

授業科目名		栄養学Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	永沼 孝子		必・選	栄（必）	形態	講義	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
栄養学Ⅰに続いての講義となる。Ⅰで学んだ三大栄養素の消化吸収・代謝に加え、ビタミン、ミネラルなどの性質と、吸収機構・生理機能について講義する。また、生体における水分の役割、エネルギー代謝、遺伝と栄養、食事摂取基準の意味についても解説し、生体を取り入れた栄養素、非栄養成分が果たす役割とそれらの相互作用について理解させる。最終的には栄養学Ⅰで学んだことと併せて生体と栄養の関係を理解させ、栄養士として社会に貢献するための基礎力を培うことを目標とする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
・各栄養素および非栄養素の性質と生体内での働きについて理解する。										○			○
・健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する										○			○
・エネルギー代謝と栄養の関係を理解する。										○			
・生体を形づくる源となる遺伝子からたんぱく質への流れを理解する。										○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 三大栄養素についての小テスト(1)						前期で学んだ内容をよく復習しておく。							
2. 小テストの解説、ビタミンの栄養Ⅰ 脂溶性ビタミンの構造と栄養機能						事前に教科書を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。							
3. ビタミンの栄養Ⅱ 水溶性ビタミン（ビタミンB群）の構造と栄養機能						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
4. ビタミンの栄養Ⅲ 水溶性ビタミン（パントテン酸、葉酸、ビオチン、VC）の構造と栄養機能						事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
5. ミネラルの栄養Ⅰ 多量ミネラルの栄養機能						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
6. ミネラルの栄養Ⅱ 微量ミネラルの栄養機能 小テスト(2)						事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
7. 小テストの解説、水の栄養的意義Ⅰ 体内の水分の出納・脱水						事前に教科書を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。							
8. 水の栄養的意義Ⅱ 浮腫、電解質の役割						事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
9. エネルギー代謝Ⅰ エネルギー代謝の定義、食物エネルギー						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
10. エネルギー代謝Ⅱ エネルギー消費量、エネルギー消費量の測定法						事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
11. 遺伝と栄養Ⅰ 遺伝子と遺伝の仕組み、発現						事前に資料を読む。事後にノート整理。							
12. 遺伝と栄養Ⅱ（遺伝子と疾病：糖尿病、高血圧）、小テスト(3)						事前に資料を読む。事後にノート整理。							
13. 小テストの解説、非栄養素の生理機能（食物繊維、難消化性オリゴ糖、アルコール）						事前に資料を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。							
14. 運動と栄養						事前に資料を読む。事後にノート整理。							
15. 1～14回のまとめ						教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。							
16. 試験						解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。							
履修上の注意													
正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。													
成績評価方法・基準 平常点（授業への参加状況 20%、小テスト 10%）の成績 30%、学期末の試験 70%の割合で評価する。小テストについては採点の後、授業中に解説する。													
教科書													
〔栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学第3版〕〔田地 陽一 編〕〔羊土社〕〔2,800+税円〕													
参考書 特になし													
備考 都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。													

授業科目名		栄養学実験				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋30）		
担当者	永沼 孝子	必・選	栄（必）	形態	実験	学期	後期	対象	食物2年			
授業の概要												
栄養学の分野においては、食物と生体の相互関係を理解することが重要である。栄養学実験では、ヒトにおける生体成分の役割について解説し、測定法について実験する。また消化酵素の働き、栄養状態がヒトの健康に与える影響について理解を深めることを目的として、生体試料の扱い方、栄養素の消化実験、代謝実験、ビタミンの定量等の実験を行い、生体試料の扱い方について理論と実際を理解させる。また、レポートの課題を通してデータのまとめ方、および報告書の書き方について指導する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
- 生体試料の扱い方と生体成分の定量分析の基礎理論と基本操作を理解し、食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。 - 食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているか、実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。 - 実験結果のまとめおよび報告書作成を通して文章力を身につける。									○			○
									○			○
									○			○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. 栄養学実験と生体試料の取り扱い方の解説						授業後に実験書を読み返し。実験に臨む準備を整える。						
2. 酵素消化実験（アミラーゼの活性測定 I）糖標準溶液の調製と検量線の作製						事前に実験書を読む。事後にノート整理。						
3. 酵素消化実験（アミラーゼの活性測定 II）唾液中のアミラーゼ消化反応と産生糖の定量						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
4. 酵素消化実験（たんぱく質分解酵素の活性観察 I）ペプシンによるカゼイン消化力の肉眼的観察						事前に実験書を読む。事後にノート整理。						
5. 酵素消化実験（たんぱく質分解酵素の活性観察 I）食品に含まれるタンパク質消化力の肉眼的観察						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
6. ヒト血中成分の定量（血中たんぱく質の定量・I）検量線の作製						事前に実験書を読む。事後にノート整理。						
7. ヒト血中成分の定量（血中たんぱく質の定量・II）血中総たんぱく質およびアルブミンの定量						事前に実験書を読む。後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
8. ヒト血中成分の定量（血中脂質の定量・I）血漿中トリアシルグリセリドの定量						事前に実験書を読む。事後にノート整理。						
9. ヒト血中成分の定量（血漿中の脂質の定量・II）血漿中総コレステロールの定量						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
10. 食品中のビタミンCの測定 I 検量線の作成						事前に実験書を読む。事後にノート整理。						
11. 食品中のビタミンCの測定 II 大根中のビタミンCの定量						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
12. 施設見学（宮城県公衆衛生協会）						事前に見学の目的を確認。事後にレポート。						
13. 尿中の一般成分の検出、クレアチニンの定量						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
14. エネルギー代謝 I（測定原理、測定練習）						事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。						
15. エネルギー代謝 II（測定、計算）						実験の総括とテスト問題の復習						
履修上の注意 正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険な薬品等も扱うので、事故のないように事前にテキストを読んで予習しておく。遅刻は3回で欠席1回とする。												
成績評価方法・基準 平常点（授業への参加状況、実験に対する態度・積極性）40%、レポート・ノートの内容・小テストの成績を合わせて60%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーブリックに記載。レポートは必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を加える。												
教科書 授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）使用。初回の授業開始時に配布。												
参考書 必要に応じて資料を配布する（実験時配布）												
備考 校外実習などの都合により、授業計画の順番を変更することがある。 質問については、実験中随時、またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。												

授業科目名		ライフステージ栄養学				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）		
担当者	永沼 孝子	必・選	必（必）	形態	講義	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要												
ヒトが生きる上で、一生における各段階（学童期、青年期、成人期などに）に適したライフスタイルがあるのと同様に、栄養面においても配慮が必要である。本授業では、各ライフステージにおける身体的・精神的特徴や、それに応じた栄養ケアについて詳しく解説する。また、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適応した栄養的配慮と食生活の在り方を概説する。講義で得た知識をもとに、栄養士として広い方面の現場に適応して貢献できる力を身につけることを目指す。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
・ 各ライフステージにおける身体的・精神的特徴を理解する。									○	○		○
・ 各ライフステージにおける栄養状態と問題点を把握する。									○			○
・ 運動時、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適した食生活の在り方を把握する。									○	○		○
・ それぞれのステージに適した栄養摂取法と維持管理の基礎を理解する。									○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. ライフステージとは何か。栄養マネジメントの概要。					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
2. 日本人の食事摂取基準（策定の基礎理論、活用の基礎理論）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
3. 妊娠期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態、疾患、栄養ケア）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
4 新生児・授乳期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
5. 授乳期・離乳期の栄養（生理的特徴、栄養ケア）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
6. 授乳期・離乳期の栄養（離乳期の栄養、離乳支援）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
7. 幼児期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
8. 学童期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。							
9. 思春期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
10. 成人期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）					事前に教科書を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
11. 更年期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）					事前に資料を読む。事後にノート整理。							
12. 高齢期の栄養Ⅰ（生理的特徴、栄養アセスメント）					事前に資料を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。							
13. 高齢期の栄養Ⅱ（病態・疾患、栄養ケア）、栄養ケア）					事前に資料を読む。事後にノート整理。							
14. ストレス、特殊環境と栄養					事前に資料を読む。事後にノート整理。							
15. 1～14回のまとめ					教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。							
16. 試験					解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。							
履修上の注意 正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。なお、2回目以降、毎回授業の最初に前回の授業内容についての小テストを行い、次の授業で解説を行う。												
成績評価方法・基準 平常点（授業への参加状況 20%、小テスト 10%）の成績 30%、学期末の試験 70%の割合で評価する。小テストについては授業中に解説する。												
教科書 [栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学] [栢下淳・上西一弘編] [羊土社] (2,800+税)円												
参考書 特になし												
備考 都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別掲示する。												

授業科目名		ライフステージ栄養学実習Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)			
担当者	木下　　ゆり		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	後期	対象	食専１年			
授業の概要													
学生自身の身体状況、食物摂取状況の調査を通して、自分の食生活状況をアセスメントする。自分自身に適した推定エネルギー必要量算出や食事摂取基準の設定を行い、それらの結果を基に、栄養診断を行う。最終的に栄養ケアプランやモニタリングシートを作成する。食品構成から献立作成までの実践的な栄養管理能力の取得を目指す。この授業で基本を学び、その他のライフステージにおいても対応できるようにすることを目標とする。教員の管理栄養士としての実務経験を活かして授業を進める。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける。									○		○		
自分の身体・生活状況に適した食事・栄養管理法を総合的に理解する。										○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
１．栄養ケア・マネジメント						事前:用語を調べる。事後:プリント記入。							
２．身体活動量の計算						事前:プリント記入。事後:身体活動記録。							
３．体格測定・必要栄養量の算出						事前:プリント記入。事後:プリント記入。							
４．食事調査（概要・各種調査演習・３日間食事記録説明）						事前:プリント記入。事後:食事記録記入。							
５．栄養価計算作業① ３日間の食事記録入力						事前:食事記録記入。事後:栄養価計算。							
６．栄養価計算作業② 入力・点検						事前:栄養価計算。事後:栄養価計算点検。							
７．食事摂取基準の活用						事前:用語を調べる。事後:プリント記入。							
８．アセスメントシートの作成						事前:用語を調べる。事後:プリント記入。							
９．栄養ケア計画の作成①（問題点抽出・栄養診断・目標設定）						事前:用語を調べる。事後:計画作成。							
10．栄養ケア計画の作成②（食品構成・献立作成）						事前:献立を調べる。事後:献立作成。							
11．栄養ケア計画の作成③（献立作成）						事前:献立作成。事後:献立作成。							
12．栄養ケア計画の作成④（教材作成・モニタリング）						事前:教材を考える。事後:教材作成。							
13．発表・評価１回目						事前:発表準備。事後:プリント記入。							
14．発表・評価２回目						事前:発表準備。事後:プリント記入。							
15．ふりかえり・まとめ						事前:ファイリング。事後:レポート作成。							
履修上の注意													
実習のねらいを理解し、指示をよく聞いて取り組むこと。授業外で取り組む課題に関しては、提出期限を守り、分からない点は遠慮せずに早めに教員に聞くようにする。遅刻は３回で１回の欠席となる。													
成績評価方法・基準													
課題・レポート提出 60%、発表 20%、取り組み 20%（提出状況、予習・復習の状況など）をもとに総合的に判断する。課題プリント・レポートの採点基準は、授業の最初に明示し採点後に返却する。													
教科書													
授業中に教員作成のプリントを配布する。													
参考書													
他の授業で使用している参考書：〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1,100 円〕													
備　考													
学生の理解度や状況に応じて、授業計画の順番を変更する場合がある。質問については、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		ライフステージ栄養学実習Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+30)		
担当者	川俣 幸一	必・選	栄（必）	形態	実習	学期	前期	対象	食専2年		
授業の概要											
これまでに学んだ各ライフステージの生理現象や生活をふまえ、より良く生きるための栄養とそれに適した献立について、実際に献立調理、観察、試食を行う。本実習での対象期は、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、妊娠期、成人期、老年期とする。またライフステージ栄養学実習Ⅰで学んだ栄養管理の方法を踏まえて、各ライフステージに適した献立作成などを考えさせながら、栄養補給計画の前提となる世代別の栄養問題を理解する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようになる。								○		○	
各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。											○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 新生児期・乳児期栄養①（乳汁栄養）					事前学習は参考書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
2. 新生児期・乳児期栄養②（離乳食前期～中期）					事前学習は参考書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
3. 新生児期・乳児期栄養③（離乳食後期～完了期）					事前学習は参考書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
4. 幼児期栄養①（アレルギー：除去食・代替食）					事前学習は参考書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
5. 幼児期栄養②（アレルギー：対応食材）					事前学習は参考書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
6. 幼児期栄養③（アレルギー：発展調理法）					事前学習は参考書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。						
7. 学童期栄養①（食育：地域食材）					事前学習は参考書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。						
8. 学童期栄養②（行事食：麺食）					事前学習は参考書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。						
9. 思春期栄養（貧血と高鉄分食）					事前学習は参考書の思春期の予習。事後学習としてレポート作成。						
10. 妊娠期栄養①（つわりを考えた食事）					事前学習は参考書の妊娠期の予習。事後学習としてレポート作成。						
11. 妊娠期栄養②（付加量を考えた食事）					事前学習は参考書の妊娠期の予習。事後学習としてレポート作成。						
12. 成人期栄養①（更年期の食事：高カルシウム食）					事前学習は参考書の更年期の予習。事後学習としてレポート作成。						
13. 成人期栄養②（更年期の食事：薬膳食）					事前学習は参考書の更年期の予習。事後学習としてレポート作成。						
14. 老年期栄養（低栄養予防の食事）					事前学習は参考書の老年期の予習。事後学習としてレポート作成。						
15. 災害時の栄養					事前学習は参考書の災害時の栄養の予習。事後学習としてレポート作成。						
履修上の注意											
身だしなみが整わない学生は実習に参加させず欠席とします（例：爪を短く切る、ピアス・指輪を外す、髪を帽子内に入れるなど）。教員の指示に従わない学生も同様です（調理実習時の危険防止のため）。											
成績評価方法・基準											
課題レポート・・・100%											
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。											
教科書 なし（プリントを配布する）											
参考書 ライフステージ栄養学で使用する教科書を参考にしてください											
備考											
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する											

授業科目名		臨床栄養学概論				単位（総授業時間＋自習時間）				2 (30+60)			
担当者	高橋 文		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要													
臨床栄養学は、様々な疾患および病態の原因、そしてそれらの治療、治癒に対して栄養学がどのように関わっているのかを学ぶ学問である。本科目では、病院および高齢者施設における管理栄養士としての実務経験を活かし、臨床栄養学に関する基礎的な知識に加え、栄養管理の流れ、傷病者および要介護者の病態や栄養状態の特性に基づいた栄養食事療法について概説し、治療・予防に役立てるための、栄養学的知識を修得することを目的に講義を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
1. 栄養管理の一連の流れについて理解できる。										○			
2. 疾患および病態における基本的な栄養食事療法を理解できる。										○			
3. 栄養管理法や多職種連携についての知識を修得できる。										○			○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 臨床栄養学の意義と目的						教科書 Part2-1 の範囲を予習・復習する							
2. 医療と臨床栄養、医療制度の基本						教科書 Part2-2,3 の範囲を予習・復習する							
3. 福祉・介護と臨床栄養、栄養ケア・マネジメントの概要						教科書 Part2-4,5 の範囲を予習・復習する							
4. 栄養アセスメント①（臨床診査、食事調査）						教科書 Part2-6 の範囲を予習・復習する							
5. 栄養アセスメント②（臨床検査、身体計測）						教科書 Part2-6,13 の範囲を予習・復習する							
6. 栄養状態の判定、栄養介入						教科書 Part2-7,8 の範囲を予習・復習する							
7. 栄養補給法①（経口栄養法）						教科書 Part2-10 の範囲を予習・復習する							
8. 栄養補給法②（経腸栄養法、静脈栄養法）						教科書 Part2-10 の範囲を予習・復習する							
9. 栄養教育						教科書 Part2-11 の範囲を予習・復習する							
10. モニタリングと評価、栄養管理記録						教科書 Part2-9 の範囲を予習・復習する							
11. 食物と薬剤の相互関係						教科書 Part2-12 の範囲を予習・復習する							
12. 代謝・内分泌疾患の栄養食事療法①（肥満症、るいそう）						教科書 Part1-3 の範囲を予習・復習する							
13. 代謝・内分泌疾患の栄養食事療法②（糖尿病）						教科書 Part1-3 の範囲を予習・復習する							
14. 代謝・内分泌疾患の栄養食事療法③ （脂質異常症、高尿酸血症・痛風）						教科書 Part1-3 の範囲を予習・復習する							
15. まとめ						教科書・プリントの内容をまとめておく							
16. 期末試験						試験範囲をまとめておく							
履修上の注意													
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。													
成績評価方法・基準													
・期末試験 70%、小テスト 20%、受講態度 10%（積極的な態度、目的意識、遅刻）を総合的に判断して評価する。 ・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。													
教科書 〔エッセンシャル臨床栄養学 第8版〕〔佐藤和人 他〕〔医歯薬出版〕〔4,070 円〕													
参考書 〔適宜プリント配布〕													
備 考													
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。													

授業科目名		臨床栄養学各論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）			
担当者	高橋 文		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専 2 年			
授業概要													
本科目では、臨床栄養学概論で学修した基礎的な栄養管理の手法に加え、多様な疾患における病態や栄養状態の特性に基づいた栄養食事療法について概説し、治療・予防に役立てるための栄養学的知識を修得することを目的に講義を行う。内容については、各疾患における治療ガイドラインに基づき、病態、症候、治療に対応した食事療法に加え、経管栄養法、経静脈栄養法などの栄養療法についても学修し、実務経験時の事例を交えながら、臨床現場において適切な栄養食事療法の選択ができる知識を修得できるよう指導する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
1. 各疾患における、病因・病態の基本的な知識を修得できる。										○			
2. 各疾患および病態における栄養管理法を理解できる。										○			
3. 各疾患および病態に対応した、適切な栄養食事療法の選択ができる。											○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 消化器疾患の栄養食事療法①（上部消化管疾患）						臨床栄養学概論について復習する							
2. 消化器疾患の栄養食事療法②（下部消化管疾患）						教科書 Part1-1 の範囲を予習・復習する							
3. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患の栄養食事療法						教科書 Part1-2 の範囲を予習・復習する							
4. 循環器疾患の栄養食事療法						教科書 Part1-4 の範囲を予習・復習する							
5. 腎臓疾患の栄養食事療法① （慢性腎臓病、ネフローゼ症候群）						教科書 Part1-6 の範囲を予習・復習する							
6. 腎臓疾患の栄養食事療法②（糖尿病性腎症、人工透析）						教科書 Part1-6 の範囲を予習・復習する							
7. 呼吸器疾患、血液疾患の栄養食事療法						教科書 Part1-5,7 の範囲を予習・復習する							
8. 免疫・アレルギー疾患の栄養食事療法						教科書 Part1-8 の範囲を予習・復習する							
9. 骨・関節疾患の栄養食事療法						教科書 Part1-10 の範囲を予習・復習する							
10. 癌、術前・術後の栄養食事療法						教科書 Part1-14 の範囲を予習・復習する							
11. 小児疾患の栄養食事療法						教科書 Part1-15 の範囲を予習・復習する							
12. 妊産婦・授乳婦の栄養食事療法						教科書 Part1-16 の範囲を予習・復習する							
13. 高齢者疾患の栄養食事療法①（褥瘡、摂食・嚥下障害）						教科書 Part1-17 の範囲を予習・復習する							
14. 高齢者疾患の栄養食事療法②（認知症）						教科書 Part1-17 の範囲を予習・復習する							
15. 事例紹介						事例の内容をまとめておく							
履修上の注意													
・ 20 分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・ 講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。													
成績評価方法・基準													
・ 期末試験 70%、小テスト 20%、受講態度 10%（積極的な態度、目的意識、遅刻）を総合的に判断して評価する。 ・ 小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。													
教科書 〔エッセンシャル臨床栄養学 第 8 版〕〔佐藤和人 他〕〔医歯薬出版〕〔4,070 円〕													
参考書 〔適宜プリント配布〕													
備 考													
・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。 ・ 質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。													

授業科目名		臨床栄養学実習				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45+30）			
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要													
一般食からの献立展開および病態別治療食献立の作成と調理実習をグループ単位で行う。 臨床栄養学概論で学んだ疾病に関して、治療食に必要な栄養基準を満たした献立を作成すると同時に適切な調理法で治療食を提供できる技術を身につける。授業では各治療食について朝食、昼食、夕食の献立の作成を実施し、連続した集団給食における治療食の作成を視野に入れて解説を行う。急性期、慢性期に則した治療食の捉え方と病院における実践的な治療食の作成を教員の実務経験を基に授業を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
疾患とそれに則した治療食の目的が理解できるようになる。											○	○	
治療食の栄養基準に合った適切な献立作成ができるようになる。											○	○	
治療食として適切な調理方法を理解し、実施できるようになる。											○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 病院での栄養士の仕事 治療食の特色について						シラバスの内容を理解し今後の実習に備える。							
2. 一般治療食 常食・全粥食 献立作成						常食の献立作成。							
3. 一般治療食 常食・全粥食献立提出・実習ミーティング 糖尿病食について						常食献立提出。糖尿病食献立作成。							
4. 糖尿病食献立提出 一般治療食 常食・全粥食 実習						糖尿病食献立提出。							
5. 脂質異常症食について 糖尿病食実習ミーティング						脂質異常症献立作成。							
6. 脂質異常症食献立提出 糖尿病食 実習						脂質異常症献立提出。							
7. 高血圧症・心臓病食について 脂質異常症食実習ミーティング						高血圧症・心臓病献立作成。							
8. 高血圧症・心臓病食献立提出 脂質異常症食 実習						高血圧症・心臓病食献立提出。							
9. 腎臓病について 高血圧症・心臓病食実習ミーティング						腎臓病食献立作成。							
10. 腎臓病食献立提出 高血圧症・心臓病食 実習						腎臓病食献立提出。							
11. 胃・十二指腸潰瘍食について 腎臓病食実習ミーティング						胃・十二指腸潰瘍食献立作成。							
12. 胃・十二指腸潰瘍食献立提出 腎臓病食 実習						胃・十二指腸潰瘍食献立提出。							
13. 摂食・嚥下障害食について 胃・十二指腸潰瘍食実習ミーティング						摂食・嚥下障害食献立作成。							
14. 摂食・嚥下障害食提出・ミーティング 胃・十二指腸潰瘍食 実習						摂食・嚥下障害食献立提出。							
15. 摂食・嚥下障害食 実習						実習のまとめ							
履修上の注意													
毎回継続したテーマがあるため欠席のないようにすること。グループ作業となるため各班作業に支障がでないよう献立は期日内に仕上がること。													
成績評価方法・基準													
ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点 50%（平常点は、授業への参加状況および実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート 50%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）													
教科書													
〔実践 臨床栄養学実習〕〔第一出版〕〔長浜幸子〕〔2,400+税〕													
参考書													
〔食品交換表 第7版〕〔文光堂〕〔900+税〕													
備考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		栄養指導論 I				単位（総授業時間＋自習時間）				2 (30+60)			
担当者	木下 ゆり		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専 1 年			
授業の概要													
世界と日本の食をめぐる社会状況と食生活の変遷を踏まえた上で、栄養士に求められている役割と意義、栄養指導のあり方について考える。具体的には、様々な対象者に対して適切で効果的な栄養指導を行うために必要な基礎知識と技術を解説する。関連法規・ガイドライン・教材に関する知識の到達目標は、栄養士実力認定試験とする。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際協力、食育）を活かして、実践例を紹介しながら授業を進める。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
栄養士指導に関連する法律・ガイドライン・教材を理解する。									○	○			
栄養士指導を実施するために必要な基本的な知識を身につける。									○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 世界と日本の食生活の変遷						1 と 2 の実力試験過去問を調べて解く。							
2. 栄養士・栄養指導の歴史						2 と 3 の実力試験過去問を調べて解く。							
3. 栄養指導の教材① 食品群・食生活指針						3 と 4 の実力試験過去問を調べて解く。							
4. 栄養指導の教材② 食事バランスガイド						4 と 5 の実力試験過去問を調べて解く。							
5. 栄養指導の教材③ 料理カード 2～4 の小テスト						5 と 6 の実力試験過去問を調べて解く。							
6. 栄養指導の教材④ 諸外国の課題と教材						授業の復習。レポートを書く。							
7. 栄養情報の収集と活用方法						授業の復習。8 の実力試験過去問を解く。							
8. 国民健康栄養調査の概要と活用法						8 と 9 の実力試験過去問を調べて解く。							
9. 食事摂取基準の概要と活用法 8 の小テスト						9 と 10 の実力試験過去問を調べて解く。							
10. 栄養指導関係法規① 栄養士法 他 9 の小テスト						10 と 11 の実力試験過去問を調べて解く。							
11. 栄養指導関係法規② 健康増進法 他						11 と 12 の実力試験過去問を調べて解く。							
12. 栄養指導関係法規③ 食育基本法 他						12 と 13 の実力試験過去問を調べて解く。							
13. 栄養指導関係法規④ 学校給食法 他						13 と 14 の実力試験過去問を調べて解く。							
14. 運動指針と休養指針 10～13 の小テスト						14 と 15 の実力試験過去問を調べて解く。							
15. 各種指針とガイドライン 14～15 の小テスト						授業に関連する実力試験過去問を解く。							
16. 期末試験						試験の解答の正誤の確認し誤りを復習。							
履修上の注意													
予習時の疑問点を解決できるよう授業に積極的に参加すること。遅刻は 3 回で 1 回の欠席となる。													
成績評価方法・基準													
小テスト 40%、期末試験 40%、授業への取り組み 20%（提出物、予習・復習の状況など）をもとに総合的に判断する。小テストは採点后に解説、期末試験は解答を掲示、レポートは採点后に返却する。													
教科書													
〔はじめて学ぶ健康・栄養系教科書⑧ 栄養教育論 第 2 版〕〔今中美栄 他〕〔化学同人〕〔2,310 円〕 ・予習復習用の栄養士実力試験過去問題は教員作成のプリントを配布する。													
参考書 特になし													
備 考													
学生の理解度に応じて、授業計画の順番を変更する場合がある。質問についてはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		栄養指導論Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	木下 ゆり		必・選	栄（必）	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要													
栄養指導論Ⅰ及び各授業で学んだ内容を統合・発展させる授業である。具体的には、保育所、学校、福祉施設、医療機関、事業所、地域で対象者のニーズ合わせて行う栄養指導の計画・実施・評価の方法について解説する。ライフステージ別、疾病別の事例について、課題の発見と指導の要点を学ぶ。栄養士実力試験と管理栄養士国家試験の基礎的な問題を活用する。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際協力、食育）を活かして、実践例を紹介しながら授業を進める。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
個別・集団の栄養指導の方法を身につける。									○	○			
各ライフステージの栄養課題を発見し、適切な指導をできるようになる。									○	○			
主な疾病の栄養課題を発見し、適切な指導をできるようになる。									○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 栄養指導マネジメントサイクル						1と2の実力試験過去問を調べて解く。							
2. 個別指導・集団指導の特徴						2と3の実力試験過去問を調べて解く。							
3. 行動科学理論・行動変容技法						3と4の実力試験過去問を調べて解く。							
4. 疾病別①糖尿病・脂質異常症						1～3の小テスト		4と5の実力試験過去問を調べて解く。					
5. 疾病別②高血圧・CKD						5と6の実力試験過去問を調べて解く。							
6. 疾病別③消化器疾患						6と7の実力試験過去問を調べて解く。							
7. ライフステージ別① 妊娠期・授乳期						4～6の小テスト		7と8の実力試験過去問を調べて解く。					
8. ライフステージ別② 乳幼児期						8と9の実力試験過去問を調べて解く。							
9. ライフステージ別③ 学童期						9と10の実力試験過去問を調べて解く。							
10. ライフステージ別④ 思春期						10と11の実力試験過去問を調べて解く。							
11. ライフステージ別⑤ 成人期						11と12の実力試験過去問を調べて解く。							
12. ライフステージ別⑥ 高齢期						12と13の実力試験過去問を調べて解く。							
13. スポーツ選手・障がい者の栄養指導						7～12の小テスト		授業内容を復習する。指導案の作成。					
14. 在日外国人・開発途上国の栄養指導						授業内容を復習する。指導案の作成。							
15. 災害時の栄養指導						授業内容を復習する。レポートの作成。							
16. 期末試験						試験の解答の正誤の確認し誤りを復習。							
履修上の注意													
予習時の疑問点を解決できるよう授業に積極的に参加すること。遅刻は3回で1回の欠席となる。													
成績評価方法・基準													
小テスト 40%、期末試験 40%、授業への取り組み 20%（提出物、予習・復習の状況など）をもとに総合的に判断する。小テストは採点后に解説、期末試験は解答を掲示、レポートは採点后に返却する。													
教科書													
・栄養指導論Ⅰで使用した教科書（〔N ブックス 栄養指導論〕〔相川りゑ子〕〔建帛社〕〔2,376 円〕） ・予習復習用の栄養士実力試験過去問題は教員作成のプリントを配布する													
参考書 特になし													
備 考													
学生の理解度に応じて、授業計画の順番を変更する場合がある。質問についてはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		栄養指導論実習				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋15）			
担当者	木下 ゆり		必・選	栄（必）	形態	講義	学期	前期	対象	食栄 1 年			
授業の概要													
栄養指導論Ⅰ・Ⅱで学修した知識・理解をもとに、個人栄養指導と集団栄養指導を実践的に学ぶ授業である。個人指導では疾患別の症例をもとに、患者役と栄養士役の経験し、共感や傾聴などコミュニケーション能力が身につくよう栄養相談ロールプレイングを行う。集団指導では学外実習先の対象者を想定し、栄養指導計画書作成、教材作成、プレゼンテーション、評価を行う。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際協力、食育）を活かして、実践例を紹介しながら授業を進める。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
栄養指導の知識と技術を活用し、指導計画・実施・評価することができる。									○		○		○
個人栄養指導の特徴を理解し知識・技能・態度を実践できる。									○		○		○
集団栄養指導の特徴を理解し知識・技能・態度を実践できる。									○		○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 栄養指導の導入① アイスブレイキング						事前:教科書を読む。事後:プリント記入。							
2. 栄養指導の導入② 環境づくり・プレゼンテーション						事前:プリント記入。事後:プレゼン練習。							
3. 個人指導① 栄養相談事例をもとに練習・記録法						事前:事例を調べる。事後:レポート作成。							
4. 個人指導② 栄養相談ロールプレイ基本症例						事前:症例を調べる。事後:プリント記入。							
5. 個人指導③ 栄養相談ロールプレイ応用症例						事前:症例を調べる。事後:プリント記入。							
6. 個人指導④ 特定保健指導・経管栄養の症例						事前:症例を調べる。事後:プリント記入。							
7. 集団指導① ライフステージの決定・情報収集						事前:教材を調べる。事後:プリント記入。							
8. 集団指導② 栄養指導計画書作成						事前:計画書作成。事後:計画書修正。							
9. 集団指導③ 教材（媒体）作成						事前:教材作成。事後:教材作成。							
10. 集団指導④ 教材（媒体）作成・練習						事前:教材作成。事後:改良し練習する。							
11. 集団指導⑤ 教材（媒体）作成・リハーサル						事前:練習する。事後:改良し練習する。							
12. 集団指導⑥ 発表・評価 1 回目						事前:練習する。事後:プリント記入。							
13. 集団指導⑦ 発表・評価 2 回目						事前:練習する。事後:プリント記入。							
14. 集団指導⑧ 発表・評価 3 回目						事前:練習する。事後:プリント記入。							
15. ふりかえり・まとめ						事前:教科書を読む。事後:レポート作成。							
履修上の注意													
グループワークやプレゼンテーションに積極的に参加すること。遅刻は 3 回で 1 回の欠席となる。													
成績評価方法・基準													
個人指導実践（プリント含む）30%、集団指導発表（計画書・シナリオ・教材含む）30%、レポート 20%、取り組み 20%（提出状況、予習・復習の状況など）をもとに総合的に判断する。集団指導発表に対する評価は学生全員で行い、発表者にその都度フィードバックする。レポートは採点后に返却する。													
教科書													
・栄養指導論Ⅰで使用した教科書：〔N ブックス 栄養指導論〕〔相川りゑ子〕〔建帛社〕〔2,376 円〕 ・授業中に教員作成のプリントを配布する。													
参考書 特になし													
備 考													
学生の理解度や状況に応じて、授業計画の順番を変更する場合がある。質問については、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		公衆栄養学			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	栗山 孝雄	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要												
公衆栄養学は、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県、国などの住民レベル、学校や職域などの様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握し、問題点の改善、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。その際、食生活や栄養面の観点から検討を行う。本講義では、以上の内容に関する事項として、地域住民や各種集団の健康・栄養に関する現状や問題点、関係する政策、公衆栄養活動の流れ等について解説する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
日本の食生活や食環境の変化を理解する。									○		○	○
公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。									○		○	○
公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。									○		○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 公衆栄養の概念					公衆衛生学を復習の上、受講する。							
2. 公衆栄養活動					公衆栄養活動の歴史や実際を理解する。							
3. 日本の食事の変化					日本人の栄養摂取状況を理解する。							
4. 日本の食生活の変化					日本人の食行動を交えて学習する。							
5. 日本の食環境の変化					日本の経済状態等も交えて学習する。							
6. 日本の栄養政策					栄養行政について理解を深める。							
7. 日本の栄養士・管理栄養士養成制度と栄養士法					栄養士法の内容を確認の上、受講する。							
8. 国民健康・栄養調査					調査の実施全般について確認する。							
9. 中間試験、公衆栄養マネジメント・アセスメント					公衆栄養活動の流れを確認する。							
10. 公衆栄養活動における調査方法					調査方法の特徴を理解する。							
11. 公衆栄養活動における目標設定					目標設定、優先順位の決定を確認する。							
12. 公衆栄養活動の評価					評価の具体例を交え、理解を深める。							
13. 公衆栄養活動の展開					活動の事例について理解を深める。							
14. 栄養疫学の指標					疫学を復習の上、受講する。							
15. 健康・食生活の危機管理と食支援					震災発生時の食支援を理解する。							
16. 期末試験					学習した内容全体を復習する。							
履修上の注意												
・遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。												
・本講義と関連する内容の公衆衛生学などの科目を復習しておくこと。												
成績評価方法・基準												
・中間試験（35％）、期末試験（35％）、提出物（20％）、受講態度（10％）で評価を行う。												
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や授業と関係ない行為を行うなど、授業態度に問題のある者は、状況に応じて減点する。												
・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。												
教科書 〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2,600円〕												
参考書 なし。授業内で適宜紹介する。												
備考												
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。												

授業科目名		調理科学論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）			
担当者	宮地 洋子		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専１年			
授業の概要													
栄養学の学問領域において調理を科学的にとらえて学修する。すなわち食事計画から、調理操作を経て、食事を提供するまでの一連の調理工程を科学的な裏付けをもとに解説する。植物性食品・動物性食品、調味料等の調理性を学修し、調理に活用できるようにする。さらに、食事設計の方法、食べ物のおいしさを評価するための要因、すなわち食べ物の味、におい、色、テクスチャー、食べる人の心理的・環境的・生理的等要因および官能評価について学修する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
調理の意義、目的、役割を説明できる。									○	○		○	
加熱・非加熱の調理操作と使用機器の原理と特徴等の知識を習得する。									○	○		○	
食品や調味料の特性と調理による栄養変化及び科学変化が理解できる。									○	○		○	
食事設計を理解し対象者に適切な食事を提供する知識を習得する。									○	○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
１．調理の意義、目的、役割について						調理の意義・目的等を読んでおくこと							
２．食べ物のおいしさ；におい・味を感じるメカニズム・味の相互作用						食べ物のおいしさを読んでおくこと							
３．おいしさの評価；機器測定、官能評価の方法						おいしさの評価を読んでおくこと							
４．食事設計①各国の料理の特徴と献立構成						各国の料理の特徴について復習プリント記入							
５．食事設計②食設計の意義、献立立案の条件、手順、評価						食事設計について復習プリント記入							
６．調理操作①非加熱調理操作						非加熱調理操作を読んでおくこと							
７．調理操作②加熱調理操作						加熱調理操作を読んでおくこと							
８．調理機器、新しい調理法						調理機器、新しい調理法を読んでおくこと							
９．植物性食品の調理科学①米、小麦、いも類、豆類						米、小麦、いも類、豆類を読んでおくこと							
10．植物性食品の調理科学②野菜、果実、藻類						野菜、果実、藻類を読んでおくこと							
11．動物性食品の調理科学①食肉、魚介類						食肉、魚介類を読んでおくこと							
12．動物性食品の調理科学②卵類、牛乳、乳製品						卵類、牛乳、乳製品を読んでおくこと							
13．油脂類の調理科学 油脂の脂肪酸組成、調理性						油脂の脂肪酸組成、調理性を読んでおくこと							
14．ゲル化剤・とろみ剤の調理科学						ゲル化剤・とろみ剤を読んでおくこと							
15．調味料・香辛料の調理科学						調味料・香辛料を読んでおくこと							
16．試験													
履修上の注意													
調理に関する広範な分野を短期間で学修するので、予め教科書を熟読して授業に臨むこと。復習として各章の問題（授業以内課題）に各自が取り組むこと、解答は授業内に行います。調理学実習Ⅰの各回の実習内容について、調理科学の観点から説明をするので、内容を実習ノート・調理科学的事項として記載してください。													
成績評価方法・基準													
試験（50%）、小テスト（20%）、授業内課題（20%）、受講態度（10%）等総合的に評価する。試験、小テストについては、問題と解答例をまとめたレジュメを配布しフィードバックバックとします。													
教科書〔はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ⑩調理学〕〔久木久美子他〕〔化学同人〕〔2,100円〕													
参考書〔食材図典〕〔小学館〕、〔NEW 調理と理論〕〔山崎清子他〕〔同文書院〕													
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		調理実習Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋15）			
担当者	宮地 洋子		必・選	必	形態	実習	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
「調理科学論」の調理理論、その他の授業で学んだことをもとにして、基本的調理を学び、給食管理、ライフステージ栄養管理等に展開できるようにする。日本料理・西洋料理・中国料理の日常食の献立実習を通して、基本的な知識や調理技術、すなわち計量、切り方、だしの取り方、加熱操作、盛り付け、配膳、料理の組み合わせ等を習得する。また、これらの食事様式をふまえた日常食の食事計画を理解し、栄養バランスや嗜好を考慮した献立および調理ができるよう学ぶ。さらに食材や料理の調理による変化を調理科学の視点から考察する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
基礎的技術および通年・春・夏季の各種食材の適切な扱いができる。										○	○		○
非加熱及び各加熱法の原理を理解し、食材・料理等にあった適切な調理操作ができる。										○	○		○
調味料の調味パーセントを活用して、標準的な調味の説明ができる。										○	○	○	○
日本料理・西洋料理・中国料理の様式をふまえ、日常食の食事計画と調理ができる。													○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.講義：授業の進め方、実習の基本事項、安全と衛生対策、調味料の塩分・糖分計算、実習ノートの書き方						教科書 253～254p を読んでおくこと。							
2.調理操作の基礎①計量、切り方、廃棄率、調味料の重量・容量換算など						科書 8p、 85～92p を読んでおくこと。							
3.日本料理①：調理操作（炊飯の基礎、煮だし汁の取り方、塩分濃度の調整、即席漬け、煎茶の入れ方など）						日本料理①の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。							
4.西洋料理①：調理操作（バターライスの炊き方、牛肉ブイヨンの取り方、紅茶の入れ方など）						西洋料理①の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。							
5.中国料理①：調理操作（焼飯の作り方、魚介すり身団子の成形、寒天の溶解・凝固）						中国料理①の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。							
6.日本料理②：調理操作（豚肉の下処理・焼き方、青菜の茹で方・浸し物）						日本料理②の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。							
7.西洋料理②：調理操作（牛バラ肉の煮込み料理、小麦粉ルーの加熱温度、ゼラチンの溶解・凝固）						西洋料理②の実習プリントを読み、調理操作手順を考えておくこと。							
8.講義：日常食の食事計画；日常食（主食・主菜・副菜、栄養バランスが適正）の献立作成、実技確認について						教科書 245～248p を読み献立作成の準備しておくこと。実習ノートの提出①							
9.中国料理②：調理操作（軟炸の衣と油の温度・鶏肉の下処理、卵の気泡性による蒸し菓子、烏龍茶の入れ方など）						中国料理②の実習プリントを読み、調理操作手順を考える。							
10.日本料理③：調理操作（炊き込み飯の炊き方、魚の下処理・煮付け、薄くず汁のでんぷん濃度、三杯酢の調製など）						日本料理③の実習プリントを読み、調理操作手順を考えておくこと。							
11. 西洋料理③：調理操作（魚の下処理、バター焼きの作り方、小麦粉中濃ソースの調製、砂糖の加熱・カラメルソースの調製）						西洋料理③実習プリントを読み、調理操作手順を考えておくこと。							
12. 中国料理③：調理操作（鶏肉の下処理・鶏湯の取り方、米粉麺の戻し方・炒めものなど）						中国料理③の実習プリントを読み、調理操作手順を考えておくこと。							
13. 各班が作成した日常食の献立（8回目）の実習および評価						作成した献立に必要な食材や調味料の購入・実習の準備を各班で行うこと。							
14. 実技確認と評価、使用食材を用いた調理実習						課題について各自が準備しておくこと。実習ノートの提出②							
15.まとめ、調理器具の整理、掃除						教科書 253～254p を読んでおくこと。							
履修上の注意：計量器と電卓は各自で準備してください。材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。実習後は毎回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出して貰います。評価はルーブリックで行います。実習献立のプリントを配布するので、よく読み調理手順を確認して授業に臨んでください。													
成績評価方法・基準：試験 50%、実習ノート 30%（ルーブリック評価）、実技評価 20%、受講態度 10%等総合的に評価します。試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックします。実習ノートは後日添削して返却します。													
教科書〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300 円〕													
参考書〔栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1,500 円〕、〔七訂食品成分表 2020〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,400 円〕、〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,800 円〕													
備 考：質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。													

授業科目名		調理実習Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋15）			
担当者	宮地 洋子		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
本科目は「調理科学論」及び「調理学実習Ⅰ」で学んだことをもとにして、日本料理・西洋料理・中国料理の応用した調理ができることを目的とする。また、日常食の他、季節および地域の食材を取り入れた供応食、行事食、郷土料理等について実習献立を通して学修し、行事食等の献立構成、食事の整え方、食事の提供の仕方、食事作法について日本料理を中心に修得する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
秋・冬の季節を旬とする魚介類や野菜類の種類・調理特性を理解し、適切な扱い方ができる。										○	○	○	○
日本料理・西洋料理・中国料理の応用的な調理技術・調理方法を習得する。										○	○	○	○
各行事の意味をふまえ、彼岸、正月料理等の行事食、郷土料理等の献立構成を理解し調理ができる。										○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 講義：授業の進め方、切り方の復習、郷土料理の調査および献立作成、実技確認について						教科書 8p、33p、139～150p を読んでおくこと。							
2. 日本料理①：秋彼岸の献立；米の湯炊き法によるおはぎ作り（小豆あん、ずんだあん）、吸い物						日本料理①の実習プリントを読み、操作手順を確認しておくこと。							
3. 西洋料理①：朝食メニュー；ヨーロッパスタイルの献立、ジャムの調製（糖度計）						西洋料理①実習プリントを読み、操作手順を確認しておくこと。							
4. 中国料理①：飲茶献立；甜点心と鹹点心（発酵生地）						中国料理①の実習プリントを読み、操作手順を確認しておくこと。							
5. 日本料理②：秋の献立；しょう油味炊き込み飯、魚（幽庵焼き）・野菜の料理						日本料理②の実習プリントを読み、操作手順を確認しておくこと。							
6. 西洋料理②：秋の献立；肉および根菜の料理、りんごの焼き菓子						西洋料理②の実習プリントを読み、操作手順を確認しておくこと。							
7. 中国料理②：秋の献立；拌菜、煨菜、湯菜、点心の献立構成による調理						中国料理②実習プリントを読み、操作手順を確認しておくこと。							
8. 講義：日本料理の特徴・献立構成・食卓作法、行事食の献立構成、地域の食文化について						【事前】教科書 3～7p を読んでおくこと。実習ノートの提出①							
9. 日本料理のテーブルマナー講習（学外）													
10. 日本料理③：各自が作成した郷土料理の献立（1回目）の実習						作成した献立に必要な食材・調味料の購入・準備を各班で行うこと。献立発表の準備。							
11. 西洋料理③：クリスマスディナーメニュー（略式）						西洋料理③の実習プリントを読み、操作手順を確認しておくこと。							
12. 日本料理：④正月料理；重詰め料理の献立						日本料理④の実習プリントを読み、操作手順を確認しておくこと。							
13. 日本料理⑤：祝い膳；ひな祭りの献立						日本料理⑤の実習プリントを読み、操作手順を確認しておくこと。							
14. 実技確認と評価、使用食材を用いた調理実習						課題について各自が準備しておくこと。実習ノートの提出②							
15. まとめ、調理器具の整理、掃除													
履修上の注意													
計量器と電卓は各自で準備してください。材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。実習後は毎回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出して貰います。評価はルーブリックで行います。実習献立のプリントを配布するので、よく読み操作手順を確認して授業に臨んでください。													
成績評価方法・基準													
試験 40%、実習ノート 20%（ルーブリック評価）、実技評価 15%、課題（郷土料理献立）15%、受講態度 10%等総合的に評価する。試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックする。実習ノートは後日添削して返却します。													
教科書〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300 円〕													
参考書〔栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1,500 円〕、〔七訂食品成分表 2020〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,400 円〕、〔調理のためのベーシックデータ第 5 版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,800 円〕													
備 考：質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。													

授業科目名		調理実習Ⅲ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45＋15）			
担当者	済渡 久美		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	前期	対象	食専 2 年			
授業の概要													
調理とは「食材」を「料理」に調え理める操作である。適温適時に衛生的に安全でおいしい食事提供ができるように、栄養士業務の一つである給食管理の要素を取り入れ、調理技術の向上を目的として行う。本授業は調理学実習Ⅰ・Ⅱで習得した和・洋・中の調理技術・食事提供に必要な食品衛生の知識、コミュニケーション力を基礎力として、世界の料理、郷土料理、災害時食等に分野を発展させ調理を通して食文化の視野を深める実習を行う。さらに、各回ごとに、実施献立の対象地域および国の食文化について考察をする。教員の管理栄養士としての実務経験を活かし授業を展開する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
実習した地方の食文化と郷土料理の特徴が理解できる										○	○	○	○
実習した国の食文化と料理の特徴が理解できる										○	○	○	○
災害時の食事を考えることができる										○	○	○	○
実習献立の栄養価計算が正確にできる										○		○	
授業計画の内容								自習（事前・事後学修の内容）					
1. ガイダンス：世界の料理、郷土料理、災害時食について								切菜結果レポート記入					
2. 世界の料理①イギリス：フィッシュ＆チップス・スコーン・ビーフシチュー								世界の料理①レポート記入					
3. 災害時食								災害時食レポート記入					
4. 世界の料理②タイ・インドネシア：ナシゴレン・トムヤムクン・ゴイクオン								世界の料理②レポート記入					
5. 郷土料理①秋田：きりたんぼ鍋・とんぶりと長芋の浸し・なんばこ								郷土料理①レポート記入					
6. 郷土料理②愛知県：天むす・味噌カツ・煮味噌								郷土料理②レポート記入					
7. 世界の料理③南フランス：ラタトゥイユ・ビシソワーズ・ほうれんそうとベーコンのキッシュロレーヌ								世界の料理③レポート記入					
8. 世界の料理④韓国：ビビンバ・チヂミ・韓国スープ								世界の料理④レポート記入					
9. 郷土料理③北海道：いかめし・三平汁・いもだんご								郷土料理③レポート記入					
10. 郷土料理④沖縄：沖縄そば・ゴーヤチャンプルー・紅芋タルト								郷土料理④レポート記入					
11. 世界の料理⑤スペイン：パエリア・トルティージャ・ガスパチョ								世界の料理⑤レポート記入					
12. 世界の料理⑥インド：ナン・チキンカレー・ラッシー								世界の料理⑥レポート記入					
13. 世界の料理⑦ドイツ：ジャーマンポテト・ザワークラウト・ブロッコリーのスープ・黄桃のクーヘン								世界の料理⑦レポート記入					
14. 郷土料理⑤新潟：しょうゆおこわ・のっぺい汁・笹団子								郷土料理⑤レポート記入					
15. 世界の料理、郷土料理、災害時食のまとめ								まとめ					
履修上の注意													
実施予定献立の当該地方および国の食文化について調べて調理学実習に取り組み、レポートにまとめること。実習終了時に次の献立と調理のポイント事項は指示する。調理実習では実習としての基本的事項（服装、頭髮、爪、手洗い、等衛生面）をしっかりと認識して取り組むこと。													
成績評価方法・基準													
平常点 50％（授業の取り組み状況および小テスト・実技試験の結果等で総合的に判断する）、レポート 50％。レポートは後日添削して返却する。													
教科書 配布プリント													
参考書 [新ビジュアル食品成分表] [大修館書店] [1,080 円]													
備 考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。													

授業科目名		給食管理学				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）			
担当者	益田 裕司		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
給食の目標を達成するために、給食管理に必要な事柄を食事摂取基準、給与栄養目標量の算出、献立作成に必要な食品構成、食事計画および、安全衛生管理について順序だてて解説する。また、特定給食施設においての大量調理を想定した集団給食の献立作成、作業工程、作業の標準化について教員の現場経験を取り入れた視点から解説を行う。更に代表的な特定給食施設である事業所、病院、福祉施設、学校、保育所などの給食施設の特徴や栄養士の果たす役割について概説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
給食の計画を立てるために必要な基礎知識を身につける。										○			
食事摂取基準を用いた給与栄養目標量の算出ができるようになる。										○			
給食計画に基づいた安全かつ衛生的な献立を作成できるようになる。										○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 給食管理の概念						シラバスの内容を理解し今後の授業に備える。							
2. 安全衛生管理 食中毒の予防						衛生管理についてテキストを復習する。							
3. 献立作成基礎知識（廃棄率など）						計算方法を復習し理解を高める。							
4. 給食の計画 食事摂取基準						食事摂取基準と特徴を理解する。							
5. 栄養・食事管理の計画① 給与栄養目標量・食事計画						給与栄養目標量を算出できるようにする。							
6. 栄養・食事管理の計画② 食品構成 献立作成の基礎知識						食品構成と献立作成の関連性を理解する。							
7. 施設・設備管理（施設・設備と機器、食環境）						施設環境についてテキストを参照する。							
8. 作業管理（大量調理における調理の工夫・作業工程・作業の標準化）						大量調理の特徴を理解する。							
9. 危機管理・ヒヤリハット						危機管理の重要性を理解する。							
10. 特定給食施設の種類と特徴および栄養士の役割						特定給食施設の特徴を理解する。							
11. 保育所・学校・事業所給食						施設での役割についてテキストを復習する。							
12. 高齢者福祉施設給食						施設での役割についてテキストを復習する。							
13. 病院給食						施設での役割についてテキストを復習する。							
14. 災害時の備蓄について						給食施設の非常時対応を理解する。							
15. まとめ 給食における評価と改善						これまでの講義を振り返りまとめる。							
16. 試験						これまでの講義を振り返り理解する。							
履修上の注意													
栄養士として給食管理業務は基本かつ重要な役割であるため、各自、目的意識をもって受講すること。遅刻3回で欠席1回とする。													
成績評価方法・基準													
試験 50％ 平常点 30％（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。） 提出物 20％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）													
教科書〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2,800+税〕 〔五訂「大量調理施設衛生管理のポイント」〕〔中央法規〕〔2,400+税〕													
参考書〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2,100+税〕													
備考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		給食管理基礎演習 I				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	演習	学期	後期	対象	食専 1 年			
授業の概要													
2 年次の校外実習に向けた心構えや実務について概説する。また 2 年生による校外実習報告会に参加する。更に本授業では保育園・給食センター・病院などの給食施設を赴き、施設見学を通して該当する給食施設の特性を直接学びとる。給食展示会の見学では、給食施設で実際に使用されている加工食品の利用法について、栄養まつりの見学では、栄養士として地域社会への貢献やその活動状況等を知ることができる。これらの見学を通して、栄養士の多様性を学び、実際に施設で働く栄養士の給食管理業務について理解を深められるよう教員の現場経験を取り入れた視点で講義を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
各施設で活躍する栄養士の責任と役割を理解することができる。										○	○	○	
安全で衛生的な食事の提供に必要な環境を理解できるようになる。										○	○	○	
地域社会との連携の重要性が理解できるようになる。											○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 施設見学の意義・目的						シラバスの内容を理解し今後の授業に備える。							
2. 校外実習先の説明・希望調査・実習内容や流れについて						実習先で学べる内容を理解しておく。							
3. 挨拶の練習 身だしなみチェック 報告書・お礼状について						実習に必要な身だしなみやマナー、ルールを理解する。							
4. 各施設への見学事前準備（施設の特徴や学習に必要な着眼点など）						施設の特徴を理解し、目的をもって見学する。							
5. 保育園見学						見学後レポートを提出する。							
6. セントラルキッチン見学						見学後レポートを提出する。							
7. 病院見学						見学後レポートを提出する。							
8. 給食展示会見学						見学後レポートを提出する。							
9. 栄養まつり見学（日本栄養士会主催）						見学後レポートを提出する。							
10. 施設見学後指導 校外実習に向けた対策と準備						見学時に配布された資料等を復習する。							
11. 給食施設献立の要点確認						献立作成に必要な情報を確認する。							
12. 給食施設献立の作成（基礎）						栄養基準に沿った献立の作成。							
13. 給食施設献立の展開方法（応用）						連続した献立の作成練習。							
14. 校外実習報告会①（2 年生前半グループ）への参加						校外実習に向け自分の課題を検討する。							
15. 校外実習報告会②（2 年生後半グループ）への参加						校外実習に向け自分の課題を検討する。							
履修上の注意													
本科目への取り組み状況（提出物・遅刻・欠席・受講態度（積極性）など）によっては 2 年次の校外実習が出来ないことがある。また、各施設においては、心構え、身だしなみに十分注意すること。遅刻 3 回で欠席 1 回とする。また見学では、遅刻は認められず欠席扱いとなる場合もあるため十分に注意すること。													
成績評価方法・基準													
平常点 50％（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。）レポート 50％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）													
教科書													
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1,800+税〕													
参考書													
〔給食の運営 給食計画・実務論 第 5 版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2,800+税〕													
備 考													
見学等の時期に関しては施設や行事の都合上、変動があります。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		給食管理基礎演習Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	演習	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要													
「栄養士」資格取得のために必須な給食管理校外実習について、実習前の心構えや、給食の目的、実習先の業務内容について教員の現場経験を基に解説し、それぞれが自分の学習テーマをもって実習に臨めるようにする。実習期間中に作成する実習ノート（日誌）への記述法、要点のまとめかた等について学習する。更に、年度末に報告会を行い、各自実習で得た成果や反省点、今後の課題を整理して発表する。実習先それぞれの報告内容を共有し、自分の実習先だけでなく幅広い給食管理業務を理解できるようにする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
実習で何を学びとるか心構えや目的を明確化できるようになる。										○	○		
自分の学習テーマ（自主研究）を考える力を身につける。										○	○	○	
実習先で体験できる栄養業務からその要点を学びとる。										○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 給食管理校外実習の意義・目的の明確化						シラバスの内容を理解し今後の授業に備える。							
2. 実習の心構えについての確認 身だしなみチェック						心構えの確認、実習前の整理。							
3. 実習先の情報収集および確認 校外実習オリエンテーションについて						実習先の情報から学ぶべきテーマを検討する。							
4. 実習内容について 実習計画立案（小学校）						実習で学ぶべき内容の整理。							
5. 実習日誌等記録の書き方について ①様式の説明・注意点						記録方法の演習実施。							
6. 実習日誌等記録の書き方について ②報告書の目的とポイント						要点のまとめ方を理解する。							
7. 実習日誌等記録の書き方について ③表現法・言葉使い						記録する際に使用する表現を理解する。							
8. 施設職員との接し方・コミュニケーションのとり方について						実習先の職員や給食対象者への接し方を理解する。							
9. 実習前課題についての準備と対策						施設ごと課題への取り組みについて。							
10. 自主研究のテーマについて						自ら関心がもてる研究テーマを検討する。							
11. 実習内容について 実習計画案作成（自衛隊駐屯地・保育所）						実習で学ぶべき内容の整理。							
12. 実習内容について 実習計画案作成（高齢者施設・その他）						実習で学ぶべき内容の整理。							
13. 校外実習終了後のまとめ、反省点について						校外実習ノートに記録を残す。							
14. 校外実習報告会①（前半グループ）						校外実習で得た成果と課題を報告する。							
15. 校外実習報告会②（後半グループ）						校外実習で得た成果と課題を報告する。							
履修上の注意													
本科目への取り組み状況（遅刻、欠席、受講態度（積極性）、提出物）によっては校外実習に参加できないこともあるので注意すること。遅刻3回で欠席1回とする。													
成績評価方法・基準													
平常点 50%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。）レポート 50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）													
教科書〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1,800+税〕													
参考書〔臨地・校外実習書〕〔建帛社〕〔2,000+税〕													
備考													
校外実習報告会については、実習期間の都合上、後期に実施することがある。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		給食管理実習 I				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45+15）			
担当者	益田 裕司		必・選	必	形態	実習	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要													
栄養士には給食を運営する技術が必要である。「調理科学論」「調理実習」で学んだ知識や教員が集団給食施設で得た経験と技術をもとに給食管理実務を学習する。対象者に必要な食事摂取基準に基づいた栄養量および嗜好に合った献立の作成、調理者の技術や厨房施設を考慮した調理法の選択、大量調理施設衛生管理マニュアルに則した衛生的かつ安全な食事の提供、適時適温サービスの手法、発注作業、給食関連書類の作成など給食管理業務について習得できるようにする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
給食の計画を立てるために必要な基礎知識と実務を身につける。										○			
計画に基づいた集団給食の調理提供が行なえるようになる。										○	○	○	
大量調理施設衛生管理マニュアルに則した安全かつ衛生的な給食管理ができるようになる。										○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 給食管理実習の概論						シラバスの内容を理解し今後の実習に備える。							
2. HACCP 大量調理衛生管理マニュアル						大量調理施設衛生管理マニュアルの内容を覚える。							
3. 大量調理器具機材の使い方と特徴について						器具機材の名称を復習して覚える。							
4. 既定献立による大量調理の実施①（前半グループ）						大量調理の調理法と献立を復習する。							
5. 既定献立による大量調理の実施②（後半グループ）						大量調理の調理法と献立を復習する。							
6. 給与栄養目標量 献立組み合わせ検討						栄養計算、献立の作成、作業計画立案。							
7. 試作① 予定献立提示						試作調理の計画立案。							
8. 試作② 予定献立提示 発注書作成						試作後の献立見直しと発注書の作成。							
9. アンケート作成 検食簿						実施献立の作成と喫食評価の準備。							
10. 予定献立による調理実習①（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
11. 予定献立による調理実習②（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
12. 予定献立による調理実習③（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
13. 予定献立による調理実習④（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）						調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。							
14. アンケート結果集計・報告の準備 調理室清掃						集計作業、反省報告、レポートのまとめ。							
15. 実習後の報告と反省・まとめ						次年度に向けた実習の振り返り。							
履修上の注意													
実習はグループ間での作業となるため学生間の連携を重視すること。遅刻3回で欠席1回とする。													
成績評価方法・基準													
ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点70%（平常点は、授業への参加状況および実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート30%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）													
教科書													
〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2,100+税〕 〔栄養・食事管理のための改定施設別給食献立集〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2,500+税〕													
参考書													
〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1,000+税〕													
備 考													
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		給食管理実習Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（45+15）	
担当者	益田 裕司	必・選	栄（必）	形態	実習	学期	前期	対象	食専2年		
授業の概要											
給食管理の実務について更に理解を深め給食の対象者に合わせた献立作成と作業計画（衛生管理を含む）を立てられるよう教員が持つ実務経験を基に実習を通して説明を行う。1年次の「給食管理実習Ⅰ」で学習した内容について、復習を行いながら主体的に実習する。対象者に適した栄養量や献立、価格であることはもちろん、喫食者の楽しみになるような給食の提供をできるようにする。また、実習後には改善策を検討し、より実践的な技術を習得できるようにする。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
給食の対象者に合わせた献立作成と作業計画を立てられるようになる。									○		
定められた調理時間内に計画通りの給食調理ができるようになる。									○	○	○
大量調理施設衛生管理マニュアルに則した安全かつ衛生的な給食管理を自ら指示し実践できるようになる。									○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス 班編成 献立計画					シラバスの内容を理解し今後の実習に備える。						
2. 献立作成・検討 調理室清掃					食材、器具類の殺菌食毒法を確認する。						
3. 大量調理機器を使った調理法の確認（前半グループ）試作計画、食材購入計画					大量調理の応用法を習得する。実施献立の検討。						
4. 大量調理機器を使った調理法の確認（後半グループ）試作計画、食材購入計画					大量調理の応用法を習得する。実施献立の検討。						
5. 試作 献立再検討					試作後の献立見直し。						
6. 対象者に向けた栄養媒体作り 書籍の利用 アンケート作成 発注書作成					献立説明、アンケート内容の検討。						
7. 実習準備 作業工程表作成 衛生関連の書類確認					作業工程、衛生管理の点検。						
8. 調理実習①（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）					調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。						
9. 調理実習②（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）					調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。						
10. 調理実習③（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）					調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。						
11. 調理実習④（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）					調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。						
12. 調理実習⑤（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）					調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。						
13. 調理実習⑥（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）					調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。						
14. アンケート結果集計・報告の準備 調理室清掃					集計作業、反省報告、レポートのまとめ。						
15. 実習後の報告と反省・まとめ					実習の成果と課題を情報共有する。						
履修上の注意											
応用力が必要となるため、担当作業だけでなく給食調理作業全体を注視すること。 遅刻3回で欠席1回とする。											
成績評価方法・基準											
ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点70%（平常点は、授業への参加状況および実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート30%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）											
教科書											
〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2,100+税〕 〔栄養・食事管理のための改定施設別給食献立集〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2,500+税〕											
参考書											
〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1,000+税〕											
備考											
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		給食管理実習Ⅲ（給食運営に係る校外実習）			単位（総授業時間＋自習時間）				1（45+15）				
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	実習	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要													
給食管理についてこれまで学んできたことの総まとめとして、一週間、給食管理校外実習として特定給食施設において施設の管理栄養士を中心に給食管理業務の指導を受ける。実習施設は原則として保育所、小中学校、自衛隊、病院、福祉施設のいずれかとなる。一週間の校外実習を通して、給食業務を行うために必要な技術を習得し、食事の計画や調理など、社会に通用する栄養士として具備すべき知識及び技能を習得する。実習後は教員が給食施設で得た実務経験を基に事後指導を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
実習の目的を明確にし、実習先で栄養士に必要な視点を身につける。										○	○		
自ら学習テーマ（自主研究）整理し報告できるようになる。										○	○	○	○
社会人、栄養士として通用するコミュニケーション能力を身につける。											○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 給食業務に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収業務、食数管理、調理作業、配膳など基本的業務に加え、実習施設ごとの対象者に対する栄養食事管理についても学ぶ。						施設ごとの給食の目的を理解し、対象者に則した食事の要点を把握しておく。							
2. 実習前に施設を事前訪問し、実習計画や施設の概要を知る。						実習施設の特徴を理解した上で訪問する。							
3. 実習期間中に必要な課題や自主研究に取り組む。						今までの学習成果を生かし課題に着手する。							
4. 実習期間中は毎日校外実習ノートに記録を残す。						実習先で受けた指導内容を理解し、実習ノートにその記録を残す。							
5. 実習終了後は、反省点等の振り返りを事後指導として行う。						学内で事後指導を受け、実習での学びをまとめ、成果と反省、課題を見出す。							
履修上の注意													
校外実習期間中、遅刻や欠席により定められた時間数で実習ができない場合、評価の対象からはずれる場合もある。実習に支障がないよう体調管理にも十分注意すること。													
成績評価方法・基準													
実習前の評価（50％）積極性、準備や課題への取り組み状況（計画性）。実習中の評価（30％）勤務状況（遅刻・欠席）、実習態度（積極性）、課題達成度。実習後の評価（20％）実習後の報告、事後指導、校外実習ノートの評価。校外実習ノートは評価して返却する。													
教科書 〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田上貞一郎〕〔萌文書林〕〔1,800+税〕													
参考書 〔大量調理施設衛生管理のポイント〕〔中央法規〕〔2,400+税〕													
備 考													
校外実習については、実習先との都合上、夏季休暇中や後期に実施することがあります。 質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		栄養士基礎演習				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	益田 裕司		必・選	栄（必）	形態	演習	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要													
2 年次の校外実習の準備として、給食施設の特徴や献立作成、衛生管理などの基本的内容、及び社会の一員として学習するために必要なマナーや心構えについて教員の現場経験を取り入れた視点から解説する。また、校外実習をより効果的に行なえるよう、実際の給食施設で勤務実績のある管理栄養士より施設ごとの栄養給食管理業務の講話をいただき、栄養士に求められる知識と技能、コミュニケーション能力について理解する。更に校外実習対策として事前課題に必要な知識について演習を通して学習する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
社会で活躍する栄養士の責任と役割を理解することができる。										○	○	○	
施設ごとに求められる栄養士の技能を理解することができる。										○	○	○	
多職種と連携およびコミュニケーションの重要性を知る。											○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス 栄養士の職場環境について						シラバスの内容を理解し今後の授業に備える。							
2. 保育所・学校・事業所・病院・老人介護施設給食について						栄養士の活躍の場を理解する。							
3. 聴講でのマナー、服装等の注意点、レポートの書き方について						聴講に必要な身だしなみやマナー、ルールを理解する。							
4. 栄養士の職務内容と実習①保育所（講演）						聴講後レポートを提出する。							
5. 栄養士の職務内容と実習②学校（講演）						聴講後レポートを提出する。							
6. 栄養士の職務内容と実習③事業所（講演）						聴講後レポートを提出する。							
7. 栄養士の職務内容と実習④病院（講演）						聴講後レポートを提出する。							
8. 栄養士の職務内容と実習⑤老人介護施設（講演）						聴講後レポートを提出する。							
9. 円滑な業務を行うための職場の仕組み①保育所・学校・事業所						聴講時に配布された資料を復習する。							
10. 円滑な業務を行うための職場の仕組み②病院・老人介護施設						聴講時に配布された資料を復習する。							
11. 対象者との接し方、コミュニケーションについて						多職種との連携の重要性を理解する。							
12. 校外実習に向けたトレーニング①（対象者の把握）						給食の対象者との特性を理解する。							
13. 校外実習に向けたトレーニング②（栄養業務の演習）						演習内容を復習し理解する。							
14. 校外実習に向けたトレーニング③（安全・衛生・危機管理の実務について）						実務と連携できるよう復習する。							
15. まとめ 栄養士に求められるスキルについて						校外実習に向け自分の課題を検討する。							
履修上の注意													
各職場で栄養業務を行うために必要な知識となります。各自、目的意識を明確にもつこと。また、聴講においては身だしなみにも注意すること。遅刻3回で欠席1回とする。また聴講授業では、遅刻は認められず欠席扱いとなる場合もあるため十分に注意すること。													
成績評価方法・基準													
平常点 50%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。）レポート 50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）													
教科書													
〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2,800+税〕													
参考書													
〔各施設における講演時の配布資料〕													
備 考													
各講演の時期に関しては講師の都合により変動します。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		食文化論			単位 (総授業時間＋自習時間)				2 (30+60)			
担当者	深澤 律子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要												
2013年12月、ユネスコ無形文化遺産に「和食；日本人の伝統的な食文化―正月を例として―」が登録された。提案書では、和食文化の実践者はすべての日本人であるとされ、栄養士として、日本の食文化を学び、実践する意義は大きい。日本人は古代よりその土地の気候風土に合った農耕や狩りや漁をして、安全で美味しい食物を摂取するための努力を重ねてきた。歴史の中で外国から来た食材や料理を取り入れ、米と大豆、魚や野菜を中心に発酵食が発達した。食文化の変遷をたどり、現在の日本人の食生活と健康について科学的な根拠をもとに考察する。給食の現場で献立を作成した経験を活かしてこの講義を進めていく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
① 食べ物と人との関わりを歴史的変遷、食の嗜好性、食文化の観点から説明できる。							○		○			
② 現在の食生活と健康の問題点を提起し、解決方法を見出し栄養士としての役割を認識できる。							○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス、「和食」日本人の伝統的な食文化、DVD 視聴						「 てんぢきょうくん 典座教訓」「精進料理」「和食」に関することを調べてレポートにまとめ提出。						
2.和食文化の特徴、世界の食物史と日本の食文化						世界の食文化と日本の食文化についてまとめ提出。						
3.世界の食文化の形成、粉食文化と粒食文化						P22～29 を読み、感想を書き提出。						
4.日本の食文化形成と展開 米（稲作の伝播と調理）						P32～39 を読み、感想を書き提出。						
5.異文化接触と受容（古代～近世、南蛮文化、欧米文化）						P42～49 を読み、感想を書き提出。						
6.主食の文化（木の実と芋類）（米）（大麦・小麦・雑穀）						興味のある食品について調べて提出。						
7.副食の文化（魚介類）（豆類、大豆）（肉、乳、卵）						興味のある食品について調べて提出。						
8.副食の文化（野菜、果物、きのこ、海藻）						興味のある食品について調べて提出。						
9.調味料（塩と砂糖）発酵調味料（酒と酢）（みそと醤油）、						興味のある食品について調べて提出。						
10.油脂、だし、香辛料						興味のある食品について調べて提出。						
11.菓子（和菓子、洋菓子）、茶、酒						興味のある食品について調べて提出。						
12.日本料理の形成と発展（本膳料理、懐石料理、会席料理）						P92～99 を読み、感想を書き提出。						
13.食物に関わる年中行事						年中行事と行事食をまとめて提出。						
14.行事食と郷土食						地場産品と地元の郷土料理を調べて提出。						
15.儀礼と食べ物、食事の作法（箸の作法）						箸の作法を調べてまとめ提出						
16.筆記試験												
成績評価方法・基準												
筆記試験 50%、毎時間のレポート提出 40%、受講態度 10%（感想・レポート内容・熱心さ等） 提出されたレポートは、後日添削して返却し、講義時にフィードバックを行う。												
教科書〔日本の食文化「和食」の継承と食育 新版〕〔江原絢子・石川尚子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2500 円〕												
参考書〔日本のしきたりがまるごとわかる本〕〔沢井竜太〕〔普遊舎〕〔680 円〕												
備 考												
・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示します。 ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。 ・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照してください。 ・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。												

授業科目名		食生活支援論				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）			
担当者	松尾広・池田展敏・黒川優子			必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	食専1年		
授業の概要													
食生活を消費者・生活者の視点から概観し、食生活のアドバイスができるようになるために、食生活アドバイザー検定試験の内容について学ぶ授業である。栄養や食生活、ダイエット、健康、食文化、行事食、調理方法、食事におけるマナー、食品の分類や表示、保存、加工食品の目的、食品添加物、食品衛生、食マーケット、流通システム、税金や法律、経済など「食」を取り巻く消費生活と社会の仕組みなどについて説明し、演習問題を解いていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
健康で豊かな食生活とその意義について理解する。								○		○			
資格取得に向けた食生活の基本的な知識を身につける。								○		○			
持続可能な食生活を考え、実践するための力を身につける。								○		○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンスと1章前半:栄養に関する知識（池田）						配布プリントの復習。							
2. 1章後半：健康に関する知識（池田）						配布プリント、教科書1章を復習							
3. 2章前半：食文化（池田）						配布プリント、教科書2章を復習							
4. 2章後半：調理・食材・マナー（池田）						配布プリント、教科書2章を復習							
5. 3章前半：食品の分類（池田）						配布プリント、教科書3章を復習							
6. 3章後半：食品表示（池田）						配布プリント、教科書3章を復習							
7. 4章前半：食中毒の予防（黒川）						配布プリント、教科書4章を復習							
8. 4章後半：食品の安全（黒川）						配布プリント、教科書4章を復習							
9. 5章前半：食マーケット（松尾）						配布プリント、教科書5章を復習							
10. 5章後半：流通システム（松尾）						配布プリント、教科書5章を復習							
11. 6章前半：暮らしと経済（松尾）						配布プリント、教科書6章を復習							
12. 6章後半：食品に関する法律（松尾）						配布プリント、教科書6章を復習							
13. 食生活アドバイザーの模擬試験と復習（池田）						模擬試験の復習、							
履修上の注意													
食生活アドバイザー検定試験の日程に合わせ講義日程（時間帯）を調整する。													
成績評価方法・基準													
（各回の提出物等の受講態度 60%）、模擬試験（40%）。提出物はコメント等をして返却する。													
教科書	食生活アドバイザー2級公式テキスト&問題集 FLA ネットワーク協会/編 1944 円												
参考書	なし												
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。													

授業科目名		特別演習				単位（授業時間＋自習時間）				2(60+30)		
担当者	永沼孝子、曾根正彦、鈴木裕行、黒川優子、益田裕司、	必・選	選	形態	演習	学期	後期集中	対象	食専2年			
授業の概要：												
本演習では、栄養士実力認定試験の試験範囲について総合的に復習を行い、栄養士の資質向上を目指し授業を行う。栄養士に必要な知識は「授業計画」にあるように大変多岐にわたるが、その内容を集中的に復習することで、ばらばらになっている知識を再統合する。また、栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去問題を解くことにより、知識が不足している個所を再確認させるとともに、卒業までおよび卒業後の復習につなげる。												
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
栄養士実力認定試験のメリット、試験範囲、出題形式が理解できる。							○		○			
栄養士に必要な知識を、総合的に身につける。							○		○			
選択式の問題を解くための読解力と思考力を身につける。							○		○			
授業計画の内容						事前・事後学修の内容						
1. ガイダンス、模擬試験Ⅰ						模擬試験の自己採点、誤った問題についての再学。						
2.3.4. 食品学総論（永沼）授業の復習と練習問題解説						配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
5.6.7.8. 生化学（鈴木）重要ポイントおよび演習問題の解説						配布資料の復習と練習問題の解答確認。						
9.10. 食品学各論（永沼）重要ポイントの解説と問題演習						配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
11.12. 食品衛生学（黒川）演習問題の解説						配布資料の復習。						
13.14. 15. 栄養学総論（永沼） 要点の復習と練習問題解説						配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
16.17.18. 栄養学各論（永沼） 要点の復習と練習問題解説						配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
19. 模擬試験Ⅱ						自己採点、誤った問題についての再学習						
20.21. 臨床栄養学概論（益田）問題の傾向と対策						配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
22.23. 調理学（永沼）要点の復習と演習問題の解説						配布資料・教科書、練習問題の復習。						
24.25.26. 解剖生理学（曾根）重要ポイントの解説						配布資料の復習。						
27.28.29. 給食管理論（益田）問題の傾向と対策						配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。						
30. 模擬試験Ⅲ						模擬試験の自己採点、誤った問題についての再学習。						
履修上の注意												
毎回配布資料があるので、ファイルに綴じて整理すること。授業で終わらない課題は、各自で時間外に行うこと。												
成績評価方法・基準												
授業に臨む態度・積極性 30%、提出物 10%、模擬試験の成績 60%。試験答案などの提出物は後日添削して返却するか、解答などを配布する。また必要に応じ返却時に解説を行う。各科目の授業で使用した教科書を持参すること。												
教科書 授業毎に資料を配布する。												
参考書 なし												
備考：質問等については、授業終了時あるいは担当教員オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。集中講義の日程などの連絡に注意すること。授業の順番には変更がある。												

授業科目名		テーブルコーディネートⅠ（テーブルマナーを含む）				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)		
担当者	小林 知恵子	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	食専1年			
授業の概要												
基本理論、アイテム・セッティング・カラー・テーブルマナーの基礎知識に加え、和・洋・中、各国の食文化に対応した正しいアイテム選び、食卓の表現方法が習得出来るよう指導。食空間コーディネーター・卓育インストラクターとし、作り手、企業、各種協会、子育て支援に関わる担当講師が、時代に即したより深い知識を積極的に授業に展開。社会で自信を持って主体的に行動出来る、教養を身に付けた人材を育成する。また、授業は食空間コーディネーター3級試験にも対応しており、任意で外部受験を受ける事も可能。（仙台受験可）												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
食空間演出の必要性と効果を理解する事が出来るようになる							○	○				
テーブルウェアの基礎知識を習得し和・洋・中の基本的テーブルセッティングが出来るようになる							○	○	○			○
カラーの特性を生かし、テーブルコーディネートに活用できるようになる							○		○			○
旬な知識・マナーを習得し、社会人となる上での自信を持つ事が出来る。							○	○	○			○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.導入:講義の目的と授業展開。フードコーディネーターとは？					テキストをよく読んでおく							
2.食空間のあり方～テーブルコーディネートの基礎倫理～					テキストをよく読んでおく							
3.テーブルウェアの知識 ①リネンについて					テキストをよく読んでおく							
4.テーブルウェアの知識 ②陶磁器の基礎知識					テキストをよく読んでおく							
5.テーブルウェアの知識 ③洋陶磁器について					テキストをよく読んでおく							
6.テーブルウェアの知識 ④ガラス、カトラリーについて					テキストをよく読んでおく							
7.食空間におけるカラーコーディネート					テキストをよく読んでおく							
8.テーブルウェアの知識 ⑤センターピース、フィギュアについて					テキストをよく読んでおく							
8.食空間構成①洋食の基本セッティング（実習）					実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事							
9.テーブルウェアの知識 ⑥和陶磁器について					テキストをよく読んでおく							
10. テーブルウェアの知識 ⑦漆器・箸について					テキストをよく読んでおく							
11. 食空間構成②和食の基本セッティング（実習）					実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事							
12. 食空間構成③中国料理の基本セッティング（実習）					実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事							
13. プランニングシートの作成について					テキストをよく読んでおく							
14. プランニングシートの作成（テーマ自由）					自由テーマのプランを練っておく							
15. プレゼンテーション					自由テーマのプランニングシート提出							
16. 試験					テキスト、配布資料をよく学習しておく							
履修上の注意												
グループ作品の製作実習の際、積極的に参加すること。												
成績評価方法・基準												
学期末の試験（50%）、提出課題（20%）、授業への取り組み（受講態度・課題提出）（30%） ・提出されたプランニングシートは、後日添削して返却。												
教科書〔フードコーディネーター 教本3級〕〔柴田書店〕〔3,300 円〕												
参考書〔食空間コーディネーターテキスト3級〕〔NPO 法人食空間コーディネート協会〕〔2,381 円＋税〕												
備 考												
・質問等については、授業終了時に受け付けます。												

授業科目名		テーブルコーディネートⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(45+15)			
担当者	小林 知恵子	必・選	選	形態	実習	学期	後期	対象	食専1年			
授業の概要												
各国のテーブルマナー、サービスマナー、プロトコルの基礎知識、フードサービスにおける空間デザインについて講義。校外学習ではプロの作品、担当講師の仕事を垣間見、実社会で要求される到達目標を認識。実習では、テーマを各自プランニングし、プレゼンテーションを重ねる事で、相互理解を深めながら、社会で自立し、主体的に行動できる能力を養う。 コンテスト全国大会受賞経験を持ち、業界の認定講師とし、東京ドームテーブルウェアフェスティバルアリーナステージ出演と全国区で活躍する講師が、テーマごとに生徒の作品を基に、時代に即した表現方法・芸術的創造性を披露。実習が実社会に繋がる様指導。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
テーブルマナー、サービスマナー、プロトコルの基礎知識を習得。							○	○				○
料理の特性、季節や祭事に合わせたコーディネートが出来る様になる。							○	○	○			○
プランニング・プレゼンテーションで相互理解を深めると共に、実践力を身に付ける。							○	○				○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. テーブルマナーとサービスマナー（西洋料理）					テキストをよく読んでおく							
2. テーブルマナーとサービスマナー（日本料理）					テキストをよく読んでおく							
3. テーブルマナーとサービスマナー（中国料理）					テキストをよく読んでおく							
4. テーブル展見学（校外学習）					感想レポートをまとめ次回提出							
5. プロトコル（国際儀礼）の基礎知識					テキストをよく読んでおく。ハロウィンプランニングシートの提出							
6. 食空間演出：ハロウィン（実習）					端午の節句プランニングシートの提出							
7. 食空間演出：端午の節句（実習）					母の日プランニングシートの提出							
8. 食空間演出：母の日（実習）					七五三プランニングシートの提出							
9. 食空間演出：七五三（実習）					クリスマスプランニングシートの提出							
10. 食空間演出：クリスマス（実習）					お正月プランニングシートの提出							
11. 食空間演出：お正月（実習）					バレンタインプランニングシートの提出							
12. 食空間演出：バレンタイン（実習）					上巳の節句プランニングシートの提出							
13. 食空間演出：上巳の節句（実習）					ウエディングプランニングシートの提出							
14. 食空間演出：ウエディング（実習）					テキストをよく読んでおく							
15. フードサービスにおける空間デザイン					テキストをよく読んでおく							
16. 試験					テキスト、配布資料をよく学習しておく							
履修上の注意												
行事の慣習の知識を深め、実習の際には創意工夫をもって、積極的に参加すること。												
成績評価方法・基準												
学年末の試験（40%）、提出課題（30%）、授業への取り組み（受講態度・課題提出）（30%） ・提出されたプランニングシートは、次回授業内でフィードバックし、後日添削して返却。												
教科書〔フードコーディネーター 教本3級〕〔柴田書店〕〔3,300 円〕												
参考書〔食空間コーディネーターテキスト3級〕〔NPO 法人食空間コーディネート協会〕〔2,381 円＋税〕												
備 考												
・質問等については、授業終了時に受け付けます。												

授業科目名		フードマネジメント				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	堀田 宗徳	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	食専2年			
授業の概要												
我々の食生活の中で、食の外部化が進展し、外食・中食が欠かせないもので身近なものとなっており、外食産業の市場規模も 25 兆円を超え、中食を含めると 30 兆円を超える大きなマーケットを形成している。しかし、外食・中食の実態を知ることや体系的に学ぶことはほとんど無い状況にある。そこで、この講義では、外食・中食のマネジメントを習得するため外食・中食の定義、業種・業態論、産業構造、食材調達とメニュー戦略、出店政策など外食・中食の基本理論を具体的事例を織り交ぜながら体系的に講義を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
Ⅰ. 食全体の仕組み（フードシステム）を理解できるようにする。									○		○	
Ⅱ. 外食・中食（なかしょく）の基本理論を習得する。									○		○	
Ⅲ. 外食・中食をマネジメントできる能力を習得する。									○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.ガイダンス：これから行う講義の目的・内容、進め方、参考文献等について説明												
2.フードシステムの考え方と外食・中食のポジショニング					事前学修：食の流れについて考えてくる。 事後学修：授業の最後に話すキーワードについて自分なりの考え方をまとめる。							
3. 外食・中食の定義、飲食店の機能と業種業態論					事前学修：外食の定義を考えてくること。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
4. 外食産業の産業構造、市場規模、大手外食企業の売上高占有率					事前学修：大手外食企業とはどのようなものなのか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
5. 外食産業の出店政策 1：事業展開の仕組み					事前学修：出店とはどういうことか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
6. 外食産業の出店政策 2：既存店の現状と最近の出店政策					事前学修：既存店とは何か考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
7. 外食産業の競争構造：売上高ランキング					事前学修：外食企業の売上高 1 位はどこか調べる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
8. 外食産業の食材調達：食材調達の原則、国産・輸入割合等					事前学修：外食企業の食材仕入で大切だと思うことを調べる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
9. 外食産業のメニュープランニングとメニュー戦略					事前学修：売筋メニューは 1 日何品売れているか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
10. 外食産業の経営指標：貸借対照表と損益計算書、中間テスト実施					事前学修：第 9 回までの中間テストに備えること。							
11. 中食産業の構造と経営戦略					事前学修：中食とは何か調べること。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
12. 外食・中食産業史：外食・中食企業の発展過程					事前学修：外食はいつ頃からあったのか調べること。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
13. 消費者の外食・中食行動					事前学修：消費者が外食や中食をする時、何を重視するのか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
14. 食の安全・安心と企業のコンプライアンス、将来の外食・中食の姿					事前学修：コンプライアンスについて調べてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。							
15. まとめ					試験の準備							
16. 期末試験					試験の準備							
履修上の注意												
他の学生に迷惑をかけないよう私語は厳禁、携帯電話をマナーモードにすること。												
成績評価方法・基準												
期末試験（50%）、中間テスト（30%）、受講態度（コメントや質問が出席カード裏面に記されているか等）（20%） 中間テストに関しては終了時に模範解答を配布する。												
教科書 毎回、授業前にプリント資料を配付												
参考書 〔新版フードコーディネーター教本〕〔日本フードコーディネーター協会〕〔柴田書店〕〔3,240 円〕												
備考												
オフィスアワーは授業終了後教室												

授業科目名		フードエンタテイメント演習			単位（授業時間＋自習時間）				1(30+15)		
担当者	池田展敏、堀江志穂	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	食専２年		
授業の概要											
あらゆる食の分野を複合的にコーディネートするのがフードコーディネータの仕事です。この授業の前半では、フラワーアレンジメントの演習とホテルレストランにおける研修によって食空間の演出技法や考え方、ホスピタリティーを学びます(堀江講師や担当講師の実務経験を反映した内容)。また、食品工場等の見学を通じ、「生産」「製造」「衛生管理」「流通」「販売」「地域貢献」など、多様な食の世界を理解することで、フードコーディネータとしての資質向上を目指す授業を行います。											
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
フラワーアレンジメントの基礎事項を修得し作品を作ることができる。									○		
食空間に大切な要素を理解し、テーブルマナーを身につける。									○		
食の広がり（「製造」「衛生管理」「流通」「販売」「地域貢献」）を理解する。									○		
以上のことがらを文章や口頭で説明できる。											○
授業計画の内容					事前・事後学修の内容						
１．ガイダンス：授業の進め方、フードコーディネーターとは（池田）					配布プリントの復習。						
２．テーブルフラワーアレンジメント①：基本のオールラウンド（堀江）					作品の写真撮影と、まとめプリント作成						
３．テーブルフラワーアレンジメント②：和食用アレンジメント（堀江）					作品の写真撮影と、まとめプリント作成						
４．テーブルフラワーアレンジメント③：ハロウィンのアレンジメント（堀江）					作品の写真撮影と、まとめプリント作成						
５．テーブルフラワーアレンジメント④：クリスマスアレンジメント（堀江）					作品の写真撮影と、まとめプリント作成						
６．産学連携講座①：シティーホテルの構成（会場見学）と厨房見学（以下、池田）					配布プリント、講義メモを復習						
７．産学連携講座②：ホテルのレストランにおける各演出					配布プリント、講義メモを復習						
８．産学連携講座③：テーブルマナー講座					配布プリント、講義メモを復習しレポート提出						
９．ブライダル会場の見学①：パーティー会場の見学と接客について					配布プリント、講義メモを復習						
１０．ブライダル会場の見学①：結婚式場における食事提供の考え方					配布プリント、講義メモを復習しレポート提出						
１１．食品工場の見学①：商品開発やブランド戦略					配布プリント、講義メモを復習						
１２．食品工場の見学②：食品衛生の実践について					配布プリント、講義メモを復習しレポート提出						
１３．グループ学習：パーティー企画立案に関する調査					必要な調査を行うこと						
１４．グループ学習：パーティー企画立案に関して発表準備					発表に備えた準備を完了させること						
１５．まとめの授業（グループ学習の発表）					発表の準備と復習						
履修上の注意											
食事や花代、交通費等の実費を徴収する。校外の見学では、身だしなみやあいさつ、礼儀に気をつけること。提出物が学修の記録となるため、必ずひとつのファイルに綴じ整理すること。											
成績評価方法・基準											
フラワーアレンジメントの作品（35%）、レポートの内容（45%）。発表の準備と評価（20%）。提出物は後日添削して返却する。											
教科書 各回に必要な資料を配布する。											
参考書 なし											
備 考											
都合により、訪問先の変更があります。日程調整のため、シラバス通りの順番で進行しないので注意すること。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。											

授業科目名		コンピュータサイエンス概論				単位（授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	池田 展敏	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	食専2年			
授業の概要												
情報社会を生きる私たちにとって、コンピュータやネットワークの仕組み・危険性に関する基礎知識は不可欠なものである。本講義では、情報がどのようにデジタル化されコンピュータや記録媒体等で扱われるのか、ハードとソフトの両面から学習したのち、情報社会で生活するための情報倫理やセキュリティについて学べるように授業を行う。授業の方法としては、アクティブラーニングの手法を取り入れ、項目ごとにチーム学習と発表を行っていく。												
授業の目標(到達目標)							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
デジタルデータとコンピュータの仕組み（ハードウェア）を理解する。							○					
インターネットやLANなどのネットワークの仕組みを理解する。							○					
ネットワーク社会で必要となるセキュリティの知識とモラルを習得する。							○				○	
チームで協力して情報収集と発表ができる。												○
授業計画の内容					事前・事後学修の内容							
1. ネットワーク社会と情報。アクティブラーニングの手法について					配布プリントの復習。							
2. 「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の調査					教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査							
3. 「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の発表準備					教科書該当部分を読む。発表資料の準備。							
4. 「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の発表					発表内容とまとめプリントの学習							
5. 「コンピュータの5大機能とハードウェア」の調査					教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査							
6. 「コンピュータの5大機能とハードウェア」の調査の発表準備					教科書該当部分を読む。発表資料の準備。							
7. 「コンピュータの5大機能とハードウェア」の発表					発表内容とまとめプリントの学習							
8. 「インターネットの仕組み」に関する調査					教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査							
9. 「インターネットの仕組み」に関する発表準備					教科書該当部分を読む。発表資料の準備。							
10. 「インターネットの仕組み」に関する発表					発表内容とまとめプリントの学習							
11. 「インターネットを安全に使うために」の調査					教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査							
12. 「インターネットを安全に使うために」の発表準備					教科書該当部分を読む。発表資料の準備。							
13. 「インターネットを安全に使うために」の発表					発表内容とまとめプリントの学習							
14. コンピュータのハードとソフトの発展（補足事項）					課題プリントの学習							
15. 情報モラルに関する学習および小テスト					それまでの配布プリントを復習し小テストに備える							
履修上の注意												
各テーマに対して、教科書などを読み込むなどの予習をしておかないと、チーム学習が成り立たない。よって、十分な予習を心がけること。												
成績評価方法・基準												
発表の準備と内容（12%×4＝48%）、テスト（48%）、提出物(4%)。グループ発表の資料後日はプリントして配布する。小テストは添削して返却する。												
教科書 〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1,800円〕												
参考書 なし												
備考：												
グループ学習におけるルーブリックを初回に配布します。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。												

子ども生活専攻専攻科目

授業科目名		保育原理				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）			
担当者	山沢 智樹		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
保育士養成課程の必修科目「保育の本質・目的に関する科目」として位置づけられている。保育の意義及び目的、保育に関する法令（児童福祉法、学校教育法、認定こども園法等）及び制度（保育所、幼稚園、認定こども園、子ども・子育て支援新制度等）、保育所保育指針における保育の基本（保育の目標、内容、環境、方法、計画と評価等）について概説する。また、諸外国と日本を比較しながら、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題について概説し、話し合いや発表等を通して理解を深め考えていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
保育の意義及び目的について理解する。										○		○	
保育所保育指針における保育の基本について理解する。										○		○	
保育の思想と歴史的変遷について理解する。										○			
保育の現状と課題について理解する。									○	○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 保育の意義及び目的 保育の理念と概念						教科書1章をよく読み、予習・復習をする。							
3. 保育に関する法令及び制度①:保育所						教科書3章をよく読み、予習・復習をする。							
4. 保育に関する法令及び制度②:幼稚園						教科書3章をよく読み、予習・復習をする。							
5. 保育に関する法令及び制度③:子ども・子育て支援新制度						教科書3・13章をよく読み、予習・復習をする。							
6. 保育に関する法令及び制度④:幼保連携型認定こども園						教科書3章をよく読み、予習・復習をする。							
7. 保育所保育指針における保育の基本①:保育指針とは						教科書4章をよく読み、予習・復習をする。							
8. 保育所保育指針における保育の基本②:保育における養護						教科書5章をよく読み、予習・復習をする。							
9. 保育所保育指針における保育の基本③:保育の目標・内容						教科書5・6・7章をよく読み、予習・復習をする。							
10. 保育所保育指針における保育の基本④:保育の環境・方法						教科書5・6・7章をよく読み、予習・復習をする。							
11. 保育所保育指針における保育の基本⑤:子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)とその循環						教科書8章をよく読み、予習・復習をする。							
12. 保育の思想と歴史的変遷①:諸外国の保育の思想と歴史						教科書11章をよく読み、予習・復習をする。							
13. 保育の思想と歴史的変遷②:日本の保育の思想と歴史						教科書12章をよく読み、予習・復習をする。							
14. 保育の現状と課題①:諸外国の保育の現状						教科書13章をよく読み、予習・復習をする。							
15. 保育の現状と課題②:日本の保育の現状と課題						教科書9・10・13章をよく読み、予習・復習をする。							
16. 期末試験													
履修上の注意 授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 授業内容をしっかりとノートに取ること。													
成績評価方法・基準 授業への取り組みの状況（20%）、及び期末試験（80%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については授業中に、期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。													
教科書〔シリーズ知のゆりかご つながる保育原理〕〔井上孝之他〕〔みらい〕〔2,268円〕													
参考書〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕／〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕／〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕													
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		教育原理				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	山沢 智樹		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
本講義ではまず乳幼児に対する教育の本質を理解するために、教育の目的や教育の意味を講義する。その際にヒト、保育、人間形成などの基礎理念を整理したい。次に教育観や保育観、子ども観の変遷とともに、日本と諸外国でどのように教育や保育という営みが起こり広がっていったのかを解説する。また、乳幼児に関するさまざまな思想を取り上げ、代表的な教育思想家や現代の教育思想を幅広く紹介する。講義中には自らの考えを発表し他の学生と討論する時間を設けることで、学生自身が自らの教育観や保育観、子ども観を捉え直し、保育実践の基盤として据えられるようにしたい。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
1. 教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。										○			
2. 教育の歴史的変遷や現代社会における教育課題を理解する。								○		○		○	○
3. 日本と諸外国の教育思想について理解する。										○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション：教育原理で何を学ぶか						シラバスの確認、学習内容を見通す							
2. 教育とは何か						辞書で「教育」を調べる／復習							
3. 教育の目的と目標						自分の教育観を知る／復習							
4. 教育の歴史（1）教育のはじまり						教育の起源を考える／復習							
5. 教育の歴史（2）子どもの発見						辞書で「子ども」を調べる／復習							
6. 教育の歴史（3）近代教育制度以前の学び						配布資料を読んでくる／復習							
7. 教育の歴史（4）近代教育制度の成立						配布資料を読んでくる／復習							
8. 教育の歴史（5）幼児教育のはじまり						教育思想家について調べてくる／復習							
9. 教育思想（1）ソクラテス、コメニウスなど						教育思想家について調べてくる／復習							
10. 教育思想（2）ルソー、ペスタロッチなど						教育思想家について調べてくる／復習							
11. 教育思想（3）フレーベル、モンテッソーリなど						教育思想家について調べてくる／復習							
12. 教育思想（4）倉橋惣三、城戸幡太郎など						教育思想家について調べてくる／復習							
13. 現代社会と教育課題						関心のある教育問題を調べる							
14. 現代の教育思想						配布資料を読んでくる／復習							
15. まとめ						学んだことを振り返り、総まとめをする							
16. 試験													
履修上の注意													
授業中の課題をしっかりと行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。													
成績評価方法・基準													
平常点 40％（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末試験 60％													
各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。													
試験については、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。													
教科書 事前にレジュメ等を配布する。													
参考書 〔西洋の教育の歴史と思想〕〔山崎英則・徳本達夫編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2700 円〕 〔いまがわかる教育原理〕〔西本望編〕〔みらい〕〔2268 円〕													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		子ども家庭福祉論			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）				
担当者	米川 純子		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
子ども家庭福祉はすべての子どもが安心し、安全な環境のもとで成長していけるように様々な仕組みを整え、子どもと家庭を支援している為、保育士資格取得の必須科目となっている。地方自治体での実務を生かし、具体的な事例をあげながら、必要となる法律や身近な支援サービスの学びを深めていく。 さらに「虐待」や「貧困」など要保護児童地域対策協議会での経験を基に、現代社会に求められる子ども家庭福祉の在り方や今後の課題について講義する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。									○	○			
子どもの人権擁護について理解する。										○			
子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。										○		○	
子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。									○	○			
子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。									○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 現代社会と子ども家庭福祉						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
3. 子ども家庭福祉の概念と理念						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
4. 子どもの人権・権利条約と人権擁護						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
5. 子ども家庭福祉の制度①（法体系・児童福祉法など）						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
6. 子ども家庭福祉の制度②（児童福祉施設）						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
7. 母子保健と子どもの健全育成						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
8. 障害のある子どもへの支援						身近な自治体の障害児通所支援を調べる。							
9. 子ども虐待・DVとその防止						児童虐待に関する新聞記事等を収集する。							
10. 社会的養護						身近な自治体の社会的養護施設を調べる。							
11. 少年非行等への対応						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
12. ひとり親家庭への支援						ひとり親家庭支援サービスを調べる。							
13. 貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への支援						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
14. 子ども家庭福祉の動向①（少子化問題・子ども子育て支援新制度）						少子化問題の新聞記事等を調べる。							
15. 子ども家庭福祉の動向②（児童虐待・不登校など）						不登校に関する資料を収集する。							
16. 期末テスト													
履修上の注意													
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。提出物の期限は厳守します。 欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。遅刻は 20 分までとし、それ以降は欠席とします。													
成績評価方法・基準													
授業への取り組み態度（30%）、期末試験（70%）により総合評価します。課題プリントや期末試験の結果は機会を設けてフィードバックします。													
教科書〔子ども家庭福祉〕〔最新保育士養成講座第3巻〕〔全国社会福祉協議会〕〔1,900 円〕													
参考書 適宜、授業中に参考書の紹介と関係資料配布を行います。													
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		社会福祉論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）			
担当者	大瀬戸 美紀		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
社会福祉論は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。社会福祉は、憲法第25条の生存権規定を基盤として、その理念を具体化するべく、体系が築かれている。そして、現在に至っても多くの社会福祉問題解決を目指して、社会福祉体系は変化を続けている。そこで、変化を続ける社会福祉の歴史的展開や基本的理念・原理について概観する。その中で、最近の社会福祉の動向を知り、保育士に期待される役割について考え、自らの「専門性」についての自負や役割意識を培う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
社会福祉に関する基礎的知識を身に付ける								○	○	○			
子どもを取り巻く社会環境について理解する								○					
保育士に期待される社会的役割を考える								○	○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る							
2. 社会福祉の理念						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
3. 人権とは何か						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
4. 社会福祉の史的展開						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
5. 欧米における社会福祉の成り立ち						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
6. 社会福祉の制度体系						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
7. 社会福祉関係各法（1） - 「児童福祉法」を中心として -						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
8. 社会福祉関係各法（2） - 「社会福祉法」を中心として -						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
9. 社会福祉の制度体系の中の保育の位置づけ						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
10. 児童家庭福祉の法体系の基盤						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
11. 児童家庭福祉の制度・行政・機関						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
12. 社会福祉における保育士の役割について						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
13. 社会福祉制度と福祉サービス供給システムの多元化						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
14. 社会福祉制度の現状と課題						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
15. まとめと試験						今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める							
履修上の注意													
社会福祉は、「生活」に密着した学問分野なので、日頃から自分の身の回りで起きている出来事などに つ いて興味・関心を持ち、新聞等を読んで知識を深めることが望ましい													
成績評価方法・基準													
平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。													
教科書〔社会福祉〕〔吉田眞理 著〕〔青踏社〕													
参考書 授業の中で指示する													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。													

授業科目名		地域福祉論			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	米川 純子		必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
地域福祉論は、高齢、障がい、児童、低所得という分野別の福祉政策・制度を地域において横断的に統合し、まちづくりをつなぐ位置にある。保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目でもあるため、実践にも生かせるよう具体的な身近な社会的資源の制度や利用の仕組み、施設やサービスの種類・内容等について概観する。													
また、地方自治体での実務経験を生かし、具体的な事例を取り上げながらグループ討議を多く取り入れていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
地域福祉に関する基礎的な知識を身に付ける。								○					
地域福祉の理念とその展開について学ぶ。									○				
地域福祉の社会的資源に関する理解を深める。									○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 地域福祉とは						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
3. 地域福祉の理念と概念						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
4. 地域福祉実践紹介と事例検討						事例検討に関するミニレポート。							
5. 地域福祉の政策展開						身近な自治体の生活困窮者自立支援を調べる。							
6. 地域福祉の方法①アセスメント・プランニング						事例におけるアセスメントシート作成。							
7. 地域福祉の方法②ソーシャルサポート						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
8. 地域福祉の推進主体①地域福祉を推進する人々						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
9. 地域福祉の推進主体②地域福祉を推進する団体						身近なNPO・ボランティアの活動を調べる。							
10. 子育て支援と地域福祉						身近な子育て世代包括支援センターの取り組みを調べる。							
11. 社会的養護と子どもたち						児童虐待・子どもの貧困に関する新聞記事等を収集。							
12. 子どもの居場所						身近な自治体の子どもの居場所作りの取り組みを調べる。							
13. 地域における子育て相談						事例検討に関するミニレポート。							
14. 災害と地域福祉						災害ボランティアに関する新聞記事等を収集。							
15. まとめ						学習内容を振り返り課題レポートを提出。							
履修上の注意													
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。提出物の期限は厳守します。													
欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。遅刻は20分までとし、それ以降は欠席とします。													
成績評価方法・基準													
授業への取り組み態度（50%）、課題レポート（50%）により総合評価します。課題レポートの結果は機会を設けてフィードバックします。													
教科書〔よくわかる地域福祉〕〔上野谷加代子・松端克文・永田祐 著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,400 円〕													
参考書〔地域福祉論〕〔岡村重夫 著〕〔光生館〕〔円〕他、適宜授業中に紹介します。													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		子ども家庭支援論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）			
担当者	浅野 咲子		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
保育所における子育て支援は、全ての子どもの健やかな育ちを実現できるよう「保育所を利用している保護者」と「地域で子育てをしている保護者」の両方を対象に行っていかなければならない。講義では保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。さらに仙台市の公立保育所職員として40年間勤務し、入所児童の家庭支援や地域子育て支援事業の実践を行ってきた経験を活かして、現代の保護者のニーズを具体的に伝える。それを理解したうえで、これからの保育所による家庭支援のありかたや社会資源、関係機関との連携について学ぶ。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
「家庭支援論」を学ぶことにより								1	2	3	4	5	6
・家庭の意義と役割について理解し自分の家庭にあてはめて説明できる。										○			
・子育て家庭を取り巻く社会状況を理解し具体例をあげることができる。										○			
・子育て家庭の支援体制について理解し実践と結びつけることができる。										○	○		
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解することができる。										○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション（授業の目指すところ、進め方など）													
2. 子ども家庭支援の意義と必要性（家族・家庭の動向）						事前に第1章をよく読み授業終了後まとめをする。							
3. 現代の子育て困難について						事前に第1章をよく読み授業終了後まとめをする。							
4. 子ども家庭支援の目的と内容						事前に第1章をよく読み授業終了後まとめをする。							
5. 保育士に求められる基本的態度①（相談支援の方向性等）						事前に第2章をよく読み授業終了後まとめをする。							
6. 保育士に求められる基本的態度②（相談支援の配慮等）						事前に第2章をよく読み授業終了後まとめをする。							
7. 保育士に求められる基本的態度③（育児モデル等）						事前に第2章をよく読み授業終了後まとめをする。							
8. 多様な支援の展開と関係機関との連携（主な関係機関）						事前に第3章をよく読み授業終了後まとめをする。							
9. 保育所利用家庭への支援						事前に第3章をよく読み授業終了後まとめをする。							
10. 地域の子育て家庭への支援						事前に第3章をよく読み授業終了後まとめをする。							
11. 要保護児童家庭への支援						事前に第3章をよく読み授業終了後まとめをする。							
12. 子育て家庭に対する支援の体制（家庭支援の政策動向）						事前に第4章をよく読み授業終了後まとめをする。							
13. 子育て家庭支援の制度と課題（子ども子育て新制度等）						事前に第4章をよく読み授業終了後まとめをする。							
14. 子育て家庭支援の制度と課題（ワークライフバランス等）						事前に第4章をよく読み授業終了後まとめをする。							
15. まとめ						授業を振り返っての質問を事前に準備する。							
16. テスト													
履修上の注意													
①教科書を事前に読んでいることを前提に授業を進めます。②分からないところや質問したいことを把握しておくこと。③毎回授業内容の復習しまとめること。④遅刻・欠席は平常点に影響します。													
成績評価方法・基準													
試験（60％）ノート持ち込み可・平常点(40％) 授業の復習のミニレポート提出を中心に評価する。 提出されたミニレポートは、後日添削して返却する。													
教科書〔実践 子ども家庭支援論〕〔松本園子・永田陽子・福川須美・森和子著〕〔ななみ書房〕〔2,100 円+税〕													
参考書〔児童の福祉を支える 子ども家庭支援論〕〔吉田眞理〕〔萌文書林〕〔2,000 円＋税〕 〔保育所保育指針 平成29年度告示〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔149 円〕													
備考 質問等は、授業終了後時に受け付ける。													

授業科目名		社会的養護Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30＋60）				
担当者	大瀬戸 美紀、米川 純子			必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要														
社会的養護Ⅰは、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。近年、社会的養護を必要とする子どもたちの保育の場として、施設養護のほかに「地域における子育て」が見直され始めている。そこでまず、子どもの養護や「幸せ」を考える視点が史的展開の中でどのように変化してきているかを説明する。その上で、子どもの養護に関わる法制や機関などの社会資源を知る。また、要保護児童地域対策協議会での経験を生かして、問題を抱えた子どもたちの生活環境を整えるための具体的方法を考察する。														
授業の到達目標									学位授与の方針との関連					
									1	2	3	4	5	6
社会的養護に関する基礎的な知識を身に付ける。											○	○		
社会的養護に必要な社会資源について理解する。											○	○	○	
社会的養護における具体的な援助等の方法を知る。											○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）								
1. オリエンテーション（大瀬戸・米川）						授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る								
2. 児童養護の意味（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
3. 児童養護が目指すもの（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
4. 保育士が児童養護を学ぶ視点（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
5. 児童養護の史的展開（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
6. 社会的養護の最近の動向（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
7. 児童養護の基本的な考え方（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
8. 児童養護の種類と内容（1）：乳児院（米川）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
9. 児童養護の種類と内容（2）：母子生活支援施設（米川）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
10. 児童養護の種類と内容（3）：児童養護施設（米川）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
11. 児童養護の種類と内容（4）：障害児入所施設（米川）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
12. 児童養護の種類と内容（5）：児童自立支援施設（米川）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
13. 家庭的養護の種類と内容（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
14. 施設養護における保育士の援助・支援の在り方について（米川）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する								
15. まとめと試験（大瀬戸・米川）						今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める								
履修上の注意														
身近にある児童福祉施設でボランティア活動などをして、実践的に学ぶことが望ましい														
成績評価方法・基準														
平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。														
教科書〔保育と社会的養護原理第2版〕〔大竹智・山田利子 編集〕〔みらい〕〔2,200 円〕														
参考書 授業の中で指示する														
備考														
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。														

授業科目名		保育者論				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）			
担当者	岡崎 善治		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目：教職の意義及び教員の役割・職務内容）及び保育士養成課程（保育の本質・目的に関する科目）の必修科目である。教職・保育職の意義、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職・保育職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職・保育職の在り方を理解する。そのために、保育職の選択、保育者の役割、制度、専門性、協働などについて幼稚園、小学校教諭の経験を生かして概説する。また、保育者としてのキャリア形成について考えるためにグループワーク等を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
教職（幼稚園教諭）及び保育士の社会的意義や制度的な位置づけを理解する。									○	○		○	
保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の専門性や役割、資質能力を理解する。										○		○	
保育者の職務内容について理解する。										○		○	
保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。										○		○	
保育現場の内外での連携・協働について理解する。									○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）になる私 …プレ保育者アイデンティティ						モデルとなる保育者についてまとめてくる。授業資料をまとめる。							
3. 保育者の役割・資質能力と責務・倫理						保育者とそれ以外の仕事をしている人の違いについて調べてくる。授業資料をまとめる。							
4. 保育者の制度的位置づけ …資格・要件・職務内容（服務・身分保障等）						保育に関する法令を調べてくる。授業資料をまとめる。							
5. 幼稚園教育要領にみる幼稚園教諭の役割						幼稚園教育要領を通読してくる。授業資料をまとめる。							
6. 保育所保育指針にみる保育者の専門性と資質						保育所保育指針を通読してくる。授業資料をまとめる。							
7. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる保育教諭の役割						教育・保育要領を通読してくる。授業資料をまとめる。							
8. 子ども理解・保育の計画・実践・省察						子どもを主体とした保育実践について考えてくる。授業資料をまとめる。							
9. 保育者の協働①：保護者支援						保護者に対する支援の内容を考えてくる。授業資料をまとめる。							
10. 保育者の協働②：幼・保・認定こども園と小学校の接続						小学校との連携について考えてくる。授業資料をまとめる。							
11. 保育者の協働③：専門職・機関及び地域社会との連携						専門職機関や地域との連携について考えてくる。授業資料をまとめる。							
12. 保育者としての成長と研修（法定研修・自己啓発）						学び続けることの意味を考えてくる。授業資料をまとめる。							
13. 保育者の専門職的成長①：生涯発達とキャリア形成						自身の生涯設計を考えてくる。授業資料をまとめる。							
14. 保育者の専門職的成長②：自分たちが目指す保育者像						保育者を目指す動機を考えてくる。授業資料をまとめる。							
15. まとめ													
履修上の注意		授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 授業毎の提出課題を必ず提出すること。											
成績評価方法・基準													
授業への取り組みの状況（30％）、及び提出課題（70％）により総合的に評価します。なお、欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。提出課題等については、授業中にフィードバックします。													
教科書		〔保育者のためのキャリア形成論〕〔石川昭義他〕〔建帛社〕〔2,160 円〕											
参考書		〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕／〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕											
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		教育・保育制度論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	山沢 智樹		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
本講義の内容は、まず①日本の教育および保育の制度を法律、理念、歴史、体系などの視点から解説し、その現状と課題を明らかにする。そのうえで②日本の教育・保育を取り巻く社会的状況や、最新の政策動向を講義する。その後、諸外国の子育て支援政策や幼児教育・保育の政策、特徴を取り上げ、日本との制度的・政策的違いを紹介し、学生同士の話し合いや発表の時間を設けながら良い点・悪い点を考察する。最後に③園の安全のために求められることを、法律や実際の事例、政府から出されているガイドランスなどを用いて解説し、安全教育の在り方についても議論する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
1. 教育・保育に関する制度の基礎知識を習得する。								○		○			
2. 社会と教育・保育の関連を理解し、日本と諸外国の政策動向を理解する。									○				○
3. 園の安全を守るために必要な具体的な取り組みを理解する。										○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.オリエンテーション：制度の意味と学ぶ意義						シラバスを確認し、学習内容を見通す							
2.教育制度の基礎と課題：法的枠組みと体系						配布資料を読んでもくる／復習							
3.保育制度の基礎と課題：法的枠組みと体系						配布資料を読んでもくる／復習							
4.教育・保育を取り巻く社会的状況①子どもの貧困と支援制度						配布資料を読んでもくる／復習							
5.教育・保育を取り巻く社会的状況②学童保育の制度						配布資料を読んでもくる／復習							
6.教育・保育を取り巻く社会的状況②近年の政策動向						配布資料を読んでもくる／復習							
7.日本の子育て支援制度の現状と課題						配布資料を読んでもくる／復習							
8.海外の子育て支援制度の現状①スウェーデン、フランス						配布資料を読んでもくる／復習							
9.海外の子育て支援制度の現状②ノルウェー、フィンランド						配布資料を読んでもくる／復習							
10.海外の子育て支援制度の現状③アメリカ、イギリス						配布資料を読んでもくる／復習							
11.海外の子育て支援制度の現状④デンマーク、イタリア						配布資料を読んでもくる／復習							
12.園の安全①危機管理、事故対応、報告						配布資料を読んでもくる／復習							
13.園の安全②自然災害、避難訓練、ガイドライン						配布資料を読んでもくる／復習							
14.園の安全③安全教育、地域との連携						配布資料を読んでもくる／復習							
15.園の安全④保育者の使命とまとめ						配布資料を読んでもくる／復習							
履修上の注意													
授業中の課題をしっかりと行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。													
成績評価方法・基準													
平常点 50%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末レポート 50%													
各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。レポートについては、解答例を配布することでフィードバックとする。													
教科書 事前にレジュメ等を配布する。													
参考書													
〔未来を創る教育制度論〔改訂版〕〕〔川口洋誉・中山弘之編著〕〔北樹出版〕〔2,268 円〕 〔保育ナビブック事例で見る 園の防災・危機管理 子どもたちの安全のためにできること〕〔協貴志著〕〔フレーベル館〕〔1,944 円〕													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		発達心理学				単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）			
担当者	三浦 主博		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目：幼児の心身の発達及び学習の過程）及び保育士養成課程（「保育の対象の理解に関する科目（保育の心理学）」の必修科目である。乳幼児の心身の発達の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた保育の基礎となる考え方を理解する。「発達」とは何か？ということを考えることから始め、乳児期及び幼児期を中心に心身の発達特性、及び発達過程について様々な観点から概説し、話し合いや発表等を通して、子どもの発達と保育について理解を深めていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。										○			
子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。										○			
子どもが人との相互的にかかわりを通して発達いくことを具体的に理解する。									○	○			
生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験重要性について理解し、保育との関連を考察する。									○	○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 発達とは？①：発達心理学における発達／発達と成長の違い						配布プリントを読み、予習・復習をする。							
3. 発達とは？②：発達を規定する要因（遺伝と環境）／発達の捉え方（発達曲線と発達段階）						教科書3章1を読み、予習・復習をする。							
4. 身体・運動機能の発達①：身体発育						教科書1章5を読み、予習・復習をする。							
5. 身体・運動機能の発達②：乳幼児期の運動機能の発達						教科書1章6を読み、予習・復習をする。							
6. 社会的能力の発達①：微笑の発達						教科書1章4を読み、予習・復習をする。							
7. 社会的能力の発達②：社会的相互交渉／社会的参照						教科書1章10を読み、予習・復習をする。							
8. 社会的能力の発達③：愛着の成立						教科書1章11を読み、予習・復習をする。							
9. 感情の発達①：感情の発達						教科書2章1を読み、予習・復習をする。							
10. 感情の発達②：自己主張と自己抑制／道徳性と思いやり						教科書2章3・4を読み、予習・復習をする。							
11. 認知機能の発達①：ピアジェの発達論						教科書2章10を読み、予習・復習をする。							
12. 認知機能の発達②：ピアジェの発達段階						教科書1章7を読み、予習・復習をする。							
13. 変わる発達観（ピアジェとヴィゴツキー）						教科書3章1・6を読み、予習・復習をする。							
14. パーソナリティの発達①：エリクソンの発達論						教科書3章1を読み、予習・復習をする。							
15. パーソナリティの発達②：エリクソンの発達段階						教科書3章1を読み、予習・復習をする。							
16. 期末試験													
履修上の注意 授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 授業内容をしっかりとノートに取ること。													
成績評価方法・基準													
授業への取り組みの状況（20％）、及び期末試験（80％）により総合的に評価します。なお、欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。													
教科書 〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2,200 円〕													
参考書 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕／ 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕													
備考													
質問等については、授業終了時に受け付けます。													

授業科目名		子ども理解の理論と方法				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	三浦 主博		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要													
幼稚園教諭養成課程及び保育士養成課程の必修科目である。乳幼児期の著しい発達について学び、その発達の原動力となる子どもと子どもを取り巻く環境との相互作用について理解を深める。そのために必要な観察法についても学び、一人一人の子どもの発達に応じた支援の方法について、さらに、発達の遅れや偏りなどの問題への対処法や、保護者との連携・子育て支援の方法についても学ぶ。また子どもの発達と保育の理解を深めるために、「保育所実習」と関連させて、グループ討議や発表を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
子どもの心身発達と保育実践について理解を深める。										○	○		
生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程を理解する。									○	○	○		
保育における発達援助について学ぶ。										○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1．オリエンテーション:子ども理解の意義						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2．乳幼児期の発達①(認知、人間関係、情動)						教科書 1～2 章を読み、予習・復習をする。							
2．乳幼児期の発達②(言葉とコミュニケーション、遊びの発達と仲間関係)						教科書 1～2 章を読み、予習・復習をする。							
4．保育者の援助と役割						教科書 3 章 1～7 を読み、予習・復習をする。							
5．子どもの発達障害、気になる癖						教科書 4 章 1～6 を読み、予習・復習をする。							
6．保育に生かす観察法・発達の診断と発達検査						教科書 3 章 8～10 を読み、予習・復習をする。							
7．保護者理解と家庭との連携						教科書 4 章 7～11、5 章を読み、予習・復習をする。							
8．子どもの発達に応じた保育実践①: 〔保育所実習Ⅰでの観察・実践内容〔グループワーク・発表〕〕						実習を振り返り、まとめ、発表の準備をする。							
9．子どもの発達に応じた保育実践② 保育所実習Ⅱでの観察・実践内容〔グループワーク・発表〕						実習を振り返り、まとめ、発表の準備をする。							
10．期末試験とまとめ													
11.													
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 積極的にグループワーク等に参加すること。													
成績評価方法・基準													
授業への取り組みの状況（40%）、及び期末試験（60%）により総合的に評価します。なお、欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。提出課題等については、授業中にフィードバックします。													
教科書〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2,200 円〕													
参考書 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕／ 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕													
備 考													
質問等については、授業終了時に受け付けます。													

授業科目名		教育心理学			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）			
担当者	植松 公威	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要												
人間は独力で何かが可能になるためには、その前に他者からの援助によって可能になっている必要があり、発達とは他者からの援助によって促進されることについて解説する。また、学習の転移と記憶を高めるための教授法や有意味学習の効果について、教授者が実際に模擬授業をしながら理解の促進を図る。学ぶとは、教科書や教授者からの情報を受け身的に受け取るのではなく、学習者が自らの過去経験、知識と教授者からの情報を統合、共存させながら主体的、能動的に新しい知識構造を構成することであることを理解できるように授業を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
① 教育には社会的活動として「発達の最近接領域」を開き、子どもの発達を促す働きがあることを学ぶ。								○	○	○	○	
② 学習の転移と記憶を高めるためにはルールと事例をどのように学ぶのがよいかを理解する。									○	○		
③ 有意味学習を実際に体験し、機械的暗記学習の学習観・知識観を批判できるようにする。									○	○		
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス（授業内容と教育目標）					あらかじめシラバスを熟読すること							
2. ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」					意味を理解し、具体例を考えること							
3. ルール（法則）学習の長所について					意味を理解し、具体例を考えること							
4. ルール学習に関する授業記録－小学3年「金属ならば電気を通す」の授業－					子どもたちがどのようにルール（法則）と事例を学んでいるかを考えること							
5. ルール学習（検証法）が学習の転移と記憶に及ぼす効果					応用と記憶を高める学習方法について考えること							
6. 機械的暗記学習の問題点と有意味学習					オーズベルの考えを理解すること							
7. 有意味学習の事例－「砂漠は世界のどこにあるか」の模擬授業－					実際にルールによって意味を理解できるように授業に積極的に参加すること							
8. 機械的暗記学習の学習観・知識観を有意味学習の観点から批判する					学習や知識に関する今までの見方・考え方を転換できるように考えること							
9. 定期試験												
履修上の注意：												
毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことを書いて提出すること。												
成績評価方法・基準												
レポート課題（20%）、定期試験（80%）。レポート課題についてはフィードバックを行う。												
教科書 授業の前にプリントを配布する												
参考書 授業の中で適宜、紹介する												
備考：質問等についてはミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。												

授業科目名		子ども家庭支援の心理学				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)		
担当者	米川 純子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要												
子ども家庭支援の心理学では、発達心理学及び臨床心理学の知見を踏まえて、生涯発達の観点から乳幼児以降の発達課題を学ぶ。さらに、乳幼児期から高齢期に至るまでの心身の発達と、それを支える家庭、保育園等の保育施設、地域や社会という環境の在り方について学ぶ。行政での実務経験をもとに実体験などの講話を多く取り入れ、子どもと家庭を包括的に捉える視点の習得を図れるようにする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達課題等について理解する。									○		○	
家族・家庭の意義や機能を理解する。								○	○			
発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。								○			○	
子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。								○	○			
子どもの精神保健とその課題について理解する。									○		○	
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション					当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 乳幼児の発達とその特徴					教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
3. 幼児期の発達とその特徴					教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
4. 学童期の発達とその特徴					教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
5. 思春期から青年期の発達の特徴					心理社会的モラトリアムのミニレポート。							
6. 成人期から高齢期の発達の特徴					教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
7. 家族システムと家族発達					生態学的システム理論のミニレポート。							
8. 親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達					教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
9. 子育て環境の社会状況的变化					ワーク・ライフ・バランスのミニレポート。							
10. 多様な子育て家庭への支援					事例を読み、自分なりの考えをまとめる。							
11. 特別な配慮を必要とする家庭への支援					事例を読み、自分なりの考えをまとめる。							
12. 子どもを取り巻く生活環境と心身の健康					教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
13. 子どもの心と健康					教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。							
14. 障害のある子どもの理解と対応					事例を読み、自分なりの考えをまとめる。							
15. 災害と子ども					自分にかけてあげたい言葉ミニレポート。							
16. 期末テスト												
履修上の注意												
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。提出物の期限は厳守します。 欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。遅刻は 20 分までとし、それ以降は欠席とします。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み態度（30%）、期末試験（70%）により総合評価します。課題プリントや期末試験の結果は機会を設けてフィードバックします。												
教科書 〔子どもの家庭支援の心理学〕〔本郷一夫・神谷哲司 著〕〔建帛社〕〔1,800 円〕												
参考書 適宜、授業中に参考書の紹介と関係資料配布を行います。												
備 考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		教育・保育相談				単位(総授業時間＋自習時間)				2 (30＋60)		
担当者	米川 純子	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
現代では、子どもや保護者・地域などからの相談に適切に応じることができる資質が求められている。保護者からの相談、子どもの問いかけ、保育者同士の相談に対応できる教育・保育相談の基本的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けることが出来るようにする。保育園・放課後児童クラブ・要保護児童・子育て支援行政での実務経験を基に、具体的な事例を通してグループ討議やロールプレイを多く取り入れ、実際の相談業務について理解できるように配慮する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
保育現場（幼稚園等）における教育・保育相談の意義と理論を理解する。							○				○	
教育・保育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。							○				○	
教育・保育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。							○			○	○	
教育・保育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。							○			○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション						当該科目の授業内容・計画について理解する。						
2. 保育現場（幼稚園・認定こども園・保育所等）における教育・保育相談の意義と課題						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。						
3. 教育・保育相談に関わる心理学の理論						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。						
4. 子ども理解の方法（観察法、面接法、心理テスト等）						教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。						
5. 「カウンセリングと相談」について						養育環境の変化に関する資料を収集。						
6. 「ナラティブ」と「オープンダイアログ」について						保育所保育指針における「環境」を予習。						
7. 保育現場（幼稚園・認定こども園・保育所等）での相談体制について						自治体における参考資料を収集。						
8. 「子ども」を取り巻く社会環境Ⅰ（乳幼児について）						参考資料を基に事例対応レポート。						
9. 「子ども」を取り巻く社会環境Ⅱ（児童・青少年について）						グループ検討のため資料を予習。						
10. 「相談」の事例紹介						ロールプレイのため資料を予習。						
11. 地域の専門機関（児童相談所など）の相談機関の紹介						演習課題についての事前ミニレポート。						
12. 保育現場（幼稚園・認定こども園・保育所等）での相談事例（ロールプレイ）						事例におけるフェイスシート作成。						
13. 子どもからの問いかけ事例（ロールプレイ）						事例におけるアセスメントシート作成。						
14. 「オープンダイアログ」（ロールプレイ）						身近な自治体の社会資源を調べる。						
15. 課題レポートチェック、まとめ						ロールプレイのため資料を予習。						
16. 期末テスト												
履修上の注意												
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。提出物の期限は厳守します。 欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。遅刻は 20 分までとし、それ以降は欠席とします。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み態度（40%）、期末試験（60%）により総合評価します。課題プリントや期末試験の結果は機会を設けてフィードバックします。												
教科書 授業前に資料を配布します。												
参考書 〔実践・保育相談支援〕〔青木紀久代 著〕〔みらい〕〔2,000 円〕他、適宜授業中に紹介します。												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		子どもの保健				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	千葉 明子		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
「子どもの保健」では 子どもの身体発育や生理機能の特性・発達，健康状態とその把握，疾病とその予防・対応など 保育における保健的対応に必要な 基礎的事項を解説する。 大人のミニチュアではない 様々な可能性を持つ子ども，身体的・精神的に未熟な存在一人ひとりを把握しつつ同時に集団全体とどうかかわればよいか総合的な理解ができるよう説明する。小児科医としての日々の診療のなかで感じる実践活動に必要な十分な知識を身につけられるようお伝えする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
子どもの心身の健康と保健の意義を理解する								○			○	○	○
子どもの身体的発育・発達と保健について理解する								○			○	○	○
心身の健康状態と把握方法，疾病と予防，保護者・関連機関を含む適切な対応								○			○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 子どもの保健 （総論，理想の保育者）						各自の理想とする保育者像を考える							
2. 子どもの心身の健康と保健の意義						教科書を熟読し問題意識を持つ							
3. 身体発育及び運動機能の発達と保健						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
4. 生理機能の発達と保健						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
5. 地域における保健活動と虐待防止						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
6. 健康状態の観察と心身の不調の早期発見 主な感染症と特徴						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
7. 主な疾病と特徴						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
8. 疾病の予防と適切な対応						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
9. 事故・けが，救急疾患の特徴と適切な対応						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
10. 低出生体重児と新生児，先天性の病気と適切な対応						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
11. アレルギー疾患の特徴と適切な対応						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
12. 慢性疾患・悪性疾患，他，う歯，目・耳等の疾患						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
13. 保護者との情報共有と家族支援						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
14. 子どもの健康診断と関連機関との連携						教科書の熟読， 授業・小テストの復習							
15. まとめと試験													
履修上の注意													
第1回の講義から教科書を準備しておくことが望ましい。 体調管理に留意し講義に出席，やむを得ない場合早期に遅刻・欠課届を提出すること。受講態度重視します。													
成績評価方法・基準													
平常点 60%（平常点は出席率，欠課・遅刻届の提出，授業への参加，毎回行う小テストの成績（カンニング不可），等で 総合的に判断） 学期末試験 40%													
教科書〔授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト〕〔診断と治療者社〕〔2,000 円〕													
参考書 使用しない（授業でプリントを配布）													
備 考													
小テストは採点し翌週返却，解答は当日配布するプリントに記載，誤答が多かった問題は 解説する。 必要な知識の定着に向け 繰り返し学習すること。 質問等は 授業終了時に受け付ける。													

授業科目名		子どもの食と栄養Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）		
担当者	菊地 香保里	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
子どもの食生活は、健全な発育・発達に影響するばかりか将来の生活習慣病に関連があると近年報告されている。乳幼児期には味覚や食嗜好の基礎が形成され、将来の食習慣に影響を与える。管理栄養士かつ保育現場の経験を生かし、「保育者は、生涯を通じた健康の維持増進という長期的視点で食育を行い、適切な食事を好ましい環境のもとで提供しなければならないこと」を伝える。自らの食生活を振り返り、望ましい食生活はどうあるべきなのか、「食べる」という当たり前の行為から感性を磨き、豊かな生活が送れる実践者、指導者となれる人材を目指す。（食と栄養の基礎知識、疾病と栄養、授乳栄養、乳児期の栄養）												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
栄養バランスのとれた食事摂取の方法が身につく							○		○		○	
調乳ができる							○		○		○	
発達段階に適した離乳食づくりができる							○		○		○	
保育所給食と食育の意義を理解できる							○		○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. ガイダンス：子どもの健康と食生活						教科書を読み、理解しておく。（序章、第1章）						
2. 栄養に関する基本的知識①栄養の基本概念						教科書を読み、理解しておく。（第2章）						
3. 栄養に関する基本的知識②栄養素の種類と機能						教科書読み、理解しておく。（第2章）						
4. 栄養に関する基本的知識③食事摂取基準と献立作成・調理の基本						教科書読み、理解しておく。（第2章）						
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養						教科書を読み、理解しておく。（第7章）						
6. 乳児期および授乳期の心身の特徴と食生活の関係						教科書を読み、理解しておく。（第3章）						
7. 実習① 調乳						レポート次回提出						
8. 実習② 離乳の意義とその実践・主食						教科書を読み、理解しておく。（第3章）						
9. 実習③ 離乳の意義とその実践・副食						レポート次回提出						
10. 期末試験、まとめ												
履修上の注意												
私語は慎む。質問は積極的に行う。遅刻は2回で欠席1回とする。												
成績評価方法・基準												
平常点 25%（授業態度、課題などの取り組み、出席など）、レポート 25%、期末試験 50%の総合評価 課題について授業中にフィードバックする。												
教科書〔子どもの食と栄養 改訂第2版〕〔児玉浩子著〕〔中山書店〕〔2,100 円（税別）〕												
参考書 なし												
備 考												
調理実習では基本的事項（服装、頭髮、爪、手洗いなど衛生面をしっかりと認識して取り組むこと。 質問等については、授業終了時に受け付ける。												

授業科目名		子どもの食と栄養Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）		
担当者	菊地 香保里	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要												
子どもの食生活は、健全な発育・発達に影響するばかりか将来の生活習慣病に関連があると近年報告されている。乳幼児期には味覚や食嗜好の基礎が形成され、将来の食習慣に影響を与える。管理栄養士かつ保育現場の経験を生かし、「保育者は、生涯を通じた健康の維持増進という長期的視点で食育を行い、適切な食事を好ましい環境のもとで提供しなければならないこと」を伝える。自らの食生活を振り返り、望ましい食生活はどうあるべきなのか、「食べる」という当たり前の行為から感性を磨き、豊かな生活が送れる実践者、指導者となれる人材を目指す。（幼児期の栄養、食育、保育所および児童福祉施設の給食）												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
食育の意義を理解できる。							○		○		○	
家庭、保育所、児童福祉施設の食事と栄養を理解できる。							○		○		○	
幼児期の栄養バランスのとれた食事を作ることができる。							○		○		○	
幼児期の間食を作ることができる。							○		○		○	
幼児期の行事食を作ることができる。							○		○		○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1.ガイダンス：食育の基本						教科書を読み、理解しておく。（第4章）						
2.幼児期の心身の発達と食生活						教科書を読み、理解しておく。（第3章）						
3.幼児食 バランスの良い食事の実際 3・1・2 弁当箱法						レポート次回提出						
4.実習④ 幼児期の日常食 主食						レポート次回提出						
5.実習⑤ 幼児期の日常食 副食						レポート次回提出						
6.実習⑥ 幼児期の和のおやつ						レポート次回提出						
7.実習⑦ 幼児期の洋のおやつ						レポート次回提出						
8.実習⑧ 幼児期の行事食						レポート次回提出						
9.実習⑨ 幼児期の行事食 副食						レポート次回提出						
10.まとめ 家庭や施設における食事と栄養						教科書を読み、理解しておく。（第5章）						
履修上の注意												
私語は慎む。質問は積極的に行う。遅刻は2回で欠席1回とする。												
成績評価方法・基準												
平常点 50%（授業態度、課題などの取り組み、出席など）、レポート 50%の総合評価 課題について授業中にフィードバックする。												
教科書〔子どもの食と栄養 改訂第2版〕〔児玉浩子著〕〔中山書店〕〔2,100 円（税別）〕												
参考書 なし												
備 考												
調理実習では基本的事項（服装、頭髮、爪、手洗いなど衛生面をしっかりと認識して取り組むこと。 質問等については、授業終了時に受け付ける。												

授業科目名		教育課程論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)			
担当者	山沢 智樹・山崎 敦子			必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専 2 年		
授業の概要													
本講義では、教育課程に関する基礎的知識を教授し、幼児教育・保育における指導計画の意義と必要性を解説する。また、幼稚園教育要領の変遷、改訂ポイントを取り上げ、社会との関連を議論する。さらに教育課程の編成方法や、評価を反映させるカリキュラム・マネジメントの視点を幼稚園教諭としての経験を生かして解説する。また小学校との連携方法など、現代の教育課程の抱える課題と展望を踏まえつつ、グループ学習や発表等などの時間を設け学生同士で議論し合う中で、より望ましい教育課程とはどのようなものかを考えていきたい。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
1. 教育課程に関する基礎的な知識や考え方を習得する。									○	○			
2. 幼稚園教育要領の変遷と内容を理解する。								○		○		○	
3. 教育課程の編成方法と評価の意義を理解する。										○			
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション（山沢・山崎）						シラバスを確認し、学習内容を見通す							
2. 教育課程・全体的な計画の役割と構成要素（山沢・山崎）						配布資料を読んでもる／復習							
3. カリキュラム理論と種類（山沢・山崎）						配布資料を読んでもる／復習							
4. 教育課程・全体的な計画を編成するには（山沢・山崎）						配布資料を読んでもる／復習							
5. 幼稚園における長期の指導計画作成の実際（山沢・山崎）						配布資料を読んでもる／復習							
6. 保育所における長期指導計画作成の実際（山沢・山崎）						配布資料を読んでもる／復習							
7. 行事活動・プロジェクト活動の指導方法・援助（山沢・山崎）						配布資料を読んでもる／復習							
8. 領域横断的に取り組む道徳性の育成（山沢・山崎）						配布資料を読んでもる／復習							
9. カリキュラム・マネジメントの意義と実際（山沢・山崎）						配布資料を読んでもる／復習							
10. テスト													
11.													
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
授業中の課題をしっかりと行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。													
成績評価方法・基準													
平常点 50％（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末レポート 50％													
各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。レポートについては、解答例を配布することでフィードバックとする。													
教科書 事前にレジメ等を配布する。													
参考書													
〔幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕													
〔幼幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔フレーベル館〕													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		保育の計画と評価				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)			
担当者	高橋 恵美		必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
子ども理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉えると共に、長期及び短期の指導計画を作成する意義を理解することができるよう概説する。また、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして、子どもの姿、年齢ごとのねらいと内容の書き方を説明し、様々な場面(登園、好きな遊び、給食、排泄等)に応じた保育者の援助・配慮の書き方を学べるようにする。さらに、実際に指導計画(部分案、日案)を作成し、実践的な視点から保育計画の理解を深めることができるようにする。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
保育の計画及び評価について理解する。										○	○	○	
指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。										○		○	○
子ども理解に基づく保育の過程について、その全体構造を捉え、理解する。										○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション・漢字テスト						保育用語を習得する(漢字・内容の理解)							
2. 指導計画（教育課程・全体的な計画）の理解													
3. 長期・短期の指導計画の実際とその意義													
4. デイリープログラムについて						デイリープログラムを書き写す(課題)							
5. 指導計画の実際①：子どもの姿・ねらい・内容の書き方						指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する。							
6. 指導計画の実際②：環境の構成の書き方													
7. 指導計画の実際③：予想される子どもの姿を考える													
8. 指導計画の実際④：保育者の援助・配慮について													
9. 指導計画の実際⑤：幼児(3・4・5歳児)の姿(登園・遊び)													
10. 指導計画の実際⑥：幼児(3・4・5歳児)の姿(集まり・給食)													
11. 指導計画の実際⑦：乳児(0・1・2歳児)の姿(登園・遊び)						指導案(部分)を作成する。(課題)							
12. 指導計画の実際⑧：乳児(0・1・2歳児)の姿(授乳・食事)													
13. 指導計画の実際⑨：指導案(課題)の解説 幼児(3・4・5歳児)の姿の振り返り						指導案についての解説を基に正しい書き方を復習する。							
14. 指導計画の実際⑩：乳児(0・1・2歳児)の姿(排泄・睡眠)						指導案(全日)を作成する。(課題)							
15. 指導計画の実際⑪：降園／保育の実践と評価													
16. 期末試験													
履修上の注意													
保育士資格取得の必修科目。自分で指導計画を立案できる力が身に付くことを目指すため、授業の出席及び提出課題を重視する。													
成績評価方法・基準													
授業への取り組み(30%) 提出課題(30%) 期末試験(40%) により総合的に評価する。 欠席が 1/3 以上のものには単位を認定しない。 課題提出については、削除後返却し、授業の中で解説をする。未提出の課題がある場合、期末試験を受けることができない。													
教科書〔教育課程・保育の計画と評価〕〔岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正〕〔萌文書林〕〔1,900 円〕													
参考書 特になし													
備 考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		保育内容総論				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	高橋 恵美		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
保育の全体構造と保育内容（5領域）について理解すると共に、子どもの主体性を尊重する保育、環境を通して行う保育、生活や遊びによる総合的な保育等、保育の基本を踏まえた保育内容の展開の仕方について、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして概説する。また、0歳児から6歳児までの各発達段階における子どもの姿や特徴（運動、知覚・認知、対人関係・言語、生活習慣等）をまとめ、それぞれの実態に即した具体的な保育の展開について、実際の遊びを通して理解を深める。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
幼稚園教育要領、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育の基本を踏まえ、保育内容（5領域）のねらい及び内容を理解する。										○		○	
子どもの発達の過程を見通した指導計画作成の仕方を理解する。										○		○	
子どもの興味・関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。										○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の解説書にあらかじめ、目を通しておく。学習後はそれぞれの違いについて理解できるようノートを見直す。							
2. 保育内容とは何か①：幼稚園教育要領と保育内容5領域について													
3. 保育内容とは何か②：保育所保育指針と保育内容													
4. 保育内容とは何か③：認定こども園教育・保育要領と保育内容													
5. 現代社会における保育の課題（少子化、子育て支援、小学校との連携）						現代社会における様々な保育の課題についてノートを見直し、理解する。							
6. 内容の歴史的変遷						ノートを見直し、理解する。							
7. 児の生活と保育内容						0歳から6歳までの各発達段階における子どもの特性（運動、知覚・認知、対人関係・言語、生活習慣）及び保育者の援助・配慮の留意点を理解し、発達の目安（どの時期にどのようなことができるようになるか）を頭に入れる。							
8. 歳児の生活と保育内容													
9. 歳児の生活と保育内容													
10. 生活と保育内容													
11. 4歳児の生活と保育内容													
12. 5歳児の生活と保育内容													
13. 6歳児の生活と保育内容													
14. 遊びを通して5領域を考える①：実践						5領域振り返りシートを作成し、発表の準備をする。							
15. 遊びを通して5領域を考える②：発表・まとめ													
16. 期末試験													
履修上の注意													
保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。													
成績評価方法・基準													
授業への取り組み（40％）提出課題（20％）期末試験（40％）により総合的に評価する。 提出課題は添削し、後日返却する。													
教科書 [子どもと共に学び合う演習・保育内容総論][井上孝之・奥山優佳・山崎敦子][みらい][2,000円]													
参考書 [保育所保育指針解説][厚生労働省][フレーベル館][320円] [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][240円] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][350円]													
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		保育内容（健康Ⅰ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	土屋 葉子		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
現在、子どもの心身に関する問題が多く存在し、保育園・幼稚園での役割は大変重要なものになっている。本講義では、まず、学生に自らの「健康」への関心を持ってもらい、同時に子どもの健康の保持増進の知識を学んでいく。また、保育者として必要な、子どもの身体機能の発育や、安全指導についての基礎的知識を習得するとともに、安全教育の3つの領域（生活安全・交通安全・避難訓練）を考えていく。また、運動遊びに関する保育者の支援の仕方についても学んでいく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
子どもの発育・発達を理解する。									○	○	○	○	○
子どもに対する具体的な対応力を身につける。									○	○	○	○	○
自然の良さを体感し、その中で遊ぶことのできる実践力を身に付ける。									○	○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.オリエンテーション：保育内容「健康」とは						今後の学習内容について確認する。							
2.保育内容「健康」の意義						参考書の「健康」を読んでおく。							
3.保育内容「健康」のねらいと内容						参考書の「健康」を読んでおく。							
4.健康な生活習慣の形成（食事・睡眠）						配布プリントを確認する。							
5.健康な生活習慣の形成（排泄・清潔・身の回りの始末）						配布プリントを確認する。							
6.子どもの発育と発達（身体的特性）						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
7.現代の子どもの特性						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
8.自然を生かす遊びと保育者の支援						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
9.園外保育散歩マップ作り①子どもの安全指導						配布プリントを確認する。							
10.園外保育散歩マップ作り②（情報機器の操作と活用を含む）安全管理の必要性						配布プリントを確認する。							
11.子どもの安全指導（危険な遊び方・遊具）						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
12.子どもの安全指導（交通安全・災害時）						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
13.室内遊びと保育者の援助（指導案作成）						遊びの種類について情報収集する（タブレット使用）。							
14.室内遊びと保育者の援助（発表）						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
15.室内遊びと保育者の援助（実践）						学習内容を振り返り、今後の課題を見つける。							
履修上の注意													
初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。													
成績評価方法・基準													
授業への参加状況（70%）、及び提出課題（30%）により総合的に評価する。													
提出課題等については、返却し、解説を行う。													
教科書 授業中にプリントを配布する。													
参考書 〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕													
備考 質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													

授業科目名		保育内容（健康Ⅱ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	土屋 葉子		必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
本講義では、健康Ⅰの内容をふまえ、子どもを取りまく状況の様々な変化の中で、健康な子どもを育てるために、生活への理解を深め、その中で求められる保育者の役割について、指導計画や指導上の問題点を考え、解説する。また、家庭と地域との連携についてもふれながら、社会全体で子どもを育てることについても考えていくとともに、子どもが健康で充実した毎日を過ごすために、自ら危険を意識し、安全に気を付けて行動することができるよう、保育者として何をするべきかをともに考えていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
保育における子どもの健康に関する諸課題を理解する。									○	○	○	○	○
子どもに対する保育者としての支援の仕方を理解する。									○	○	○	○	○
健康的な子どもを育てるために必要な知識を習得する。									○	○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.ガイダンス						今後の学習内容について確認する。							
2.子どもの健康と環境構成（遊具の配慮）						配布プリントを確認する。							
3.遊びの中で育む生活習慣						配布プリントを確認する。							
4.自然を生かす遊びと保育者の支援						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
5.アスレティック遊具の構成を考える。						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
6.安全配慮と指導・援助						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
7.園での事故と安全への配慮・家庭との連携						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
8.子どもの疾病と保育者の援助						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
9.日常の健康観察のあり方、疾病予防						学習内容を確認し、予習・復習を行う。							
10.まとめ						学習内容を振り返り、今後の課題を見つける。							
11.													
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。													
成績評価方法・基準													
授業への参加状況（70%）、及び提出課題（30%）により総合的に評価する（課題は、授業内でタブレットで調べ、発表する場合もある）。 提出課題等については、返却し、解説を行う。													
教科書 授業中にプリントを配布する。													
参考書 〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕													
備考 質問等については、授業終了時あるいは、オフィスアワーで受け付ける。 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													

授業科目名		保育内容（人間関係Ⅰ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)		
担当者	大瀬戸 美紀	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて、具体的な子どもの姿から、年齢ごとの発達の特徴を理解し、周囲の人たちとの関係を深めながら人間関係が広がっていくことを理解する。また、子どもの心身の発達と人とのかかわりの発達について具体的事例を見つめながら学習し、様々な場面を想定して保育を構想する方法を身につける。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する								○	○	○		○
幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する								○	○		○	○
乳幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達の視点から理解する										○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション・5領域のなかの「人間関係」の位置づけについて						前期学修の見通しを立てる						
2. 領域「人間関係」とは？：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」から						それぞれの解説書にあらかじめ目を通しておく						
3. 誕生から6歳までの人とのかかわり発達（1）：0歳児の人とのかかわり						0歳から6歳までの各発達段階における人とのかかわりについて、ノートやプリントを見直して理解する。						
4. 誕生から6歳までの人とのかかわり発達（2）：1～2歳児の人とのかかわり						↓						
5. 誕生から6歳までの人とのかかわり発達（3）：3～6歳児の人とのかかわり												
6. 遊びの中で育つ人とのかかわり：保育における遊びの大切さ・遊びと仲間関係・トラブルの場面から												
7. 友だちとの関わり（1）：仲間関係の芽生え						↓						
8. 友だちとの関わり（2）：子ども集団の育ち												
9. 気になる子どもとのかかわり												
10. 小学校・地域とのかかわり												
11. 保護者とのかかわり												
12. 領域「人間関係」に関する教材研究と情報機器の活用						事前に模擬保育のアイデアを収集し、計画立案できるようにしておく。						
13. 領域「人間関係」に関する模擬保育①						↓						
14. 領域「人間関係」に関する模擬保育②												
15. まとめ						ノートやプリントを整理して振り返る						
履修上の注意												
保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み（60％）、レポートや提出物（40％）により総合的に評価する。提出課題については、添削して返却する。												
教科書【人間関係ワークブック】【田村美由紀・室井佑美 著】【萌文書林】【1,800円】												
教科書【幼稚園教育要領解説】[文部科学省]【保育所保育指針解説】[厚生労働省] 【幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説】												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。												

授業科目名		保育内容（人間関係Ⅱ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)	
担当者	大瀬戸 美紀	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年		
授業の概要											
保育内容（人間関係Ⅱ）は、保育の内容・方法に関する科目である。近年、子どものコミュニケーションや自制心・規範意識の不足が指摘されている。これについて、家庭と地域での関係性の希薄化が大きな原因の1つだとされている。このような状況の下で幼稚園や保育所のような集団生活を過ごす場所の役割は大きなものとなっている。保育者や友達との関わりを通して、様々な感情体験を重ねながら、子どもの人と関わる力を培っていくことが期待されている。そこで、子どもの人間関係を豊かで広がりのあるものにするための適切な環境づくりや専門性を備えた保育者の援助について、主にケーススタディを中心として学ぶ。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
領域「人間関係」の基礎的知識・技術を身に付ける								○	○	○	
子どもの人間関係を豊かに広げる実践について理解する								○	○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション					授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る						
2. 保育内容「人間関係」とは：「幼稚園教育要領」から					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
3. 幼稚園や保育所、こども園で保育者に求められるもの					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
4. 子どもの発達と人間関係					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
5. 子どもの発達と人間関係：保護者と共に育てる					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
6. 子どもの発達と人間関係：親が繋がる子育て支援①					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
7. 子どもの発達と人間関係：親が繋がる子育て支援②					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
8. 子どもの発達と人間関係：地域子育て支援					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
9. 0～2歳児とのかかわり・集団をつくる教材とその取り上げ方					学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
10. 3～5歳児とのかかわり・集団をつくる教材とその取り上げ方					今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める						
11. まとめと試験											
12.											
13.											
14.											
15.											
履修上の注意											
グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。											
成績評価方法・基準											
平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業の中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。											
教科書 〔幼稚園教育要領解説〕[文部科学省] 〔保育所保育指針解説〕[厚生労働省] 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕											
参考書 授業の中で適宜紹介する											
備考											
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。											

授業科目名		保育内容（環境Ⅰ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	高橋 恵美		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
領域「環境」について、乳幼児の環境とのかかわりの実際について概説し、保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育者の援助の在り方について概説する。また、五感を使って体感することを重視し、秋の自然物を使って製作したり、バッタやコオロギ等の虫を捕まえて観察したりする経験から保育者に必要な感性を磨く機会を設ける。さらに、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かし、具体的な環境構成の仕方について説明し、指導計画における環境構成の書き方や保育実践の展開の仕方について概説する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。										○		○	
乳幼児の環境とのかかわりと保育者の援助の在り方について理解する。										○		○	○
乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。										○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション：保育内容「環境」とは						指針、要領解説書の領域「環境」の頁に目を通しておく。							
2. 保育の基本と保育内容「環境」													
3. 領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(1)（秋の虫飼育・観察①）情報機器の活用						秋の虫について調べたことをまとめる。							
4. 領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(2)（秋の虫飼育・観察②）						虫の観察記録を作成する。							
5. 領域「環境」の内容を体感する：身近な物とのかかわり（お散歩バッグ製作）						自然物を使った製作について考えておく （作品名、製作の手順、準備物、活用の仕方を用紙に記入し、提出する）。							
6. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(1)（散歩）													
7. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(2)（自然物を使った製作）情報機器の活用													
8. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(3)（製作発表）						各自自然物を使った作品を準備する。							
9. 環境構成について(1)：魅力的な環境構成とは						環境構成について学んだことを整理し、ノートやプリントを見直して復習する。							
10. 環境構成について(2)：保育室内の環境構成													
11. 環境構成について(3)：指導計画の環境構成・準備物の書き方・人的環境について						指導案に環境構成を記入し、提出する。							
12. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(4)（クリスマスカード作り）						クリスマスカードを各自仕上げる。							
13. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(5)（こままわし①）						こまを回すことができるように練習する（こままわし大会に備える）。							
14. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(6)（こままわし②）													
15. 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(7)（豆まき）						鬼のお面作りの環境構成のポイントを整理しておく。							
履修上の注意													
教職に関する専門教科の一つであり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。													
成績評価方法・基準													
平常点（受講態度）（50％）レポートや提出物（50％）により総合的に評価する。 提出課題については、添削して返却する。													
教科書 授業前にプリントを配布する。													
参考書 [保育所保育指針解説][厚生労働省][フレーベル館][320円] [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][240円] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][350円]													
備考													
天候等により、授業計画の順番を変更することがある。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。													

授業科目名		保育内容（環境Ⅱ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)	
担当者	高橋 恵美・岡崎 善治	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年		
授業の概要											
子どもを取り巻く望ましい環境を踏まえ、発達の基礎を培うために必要な環境作りについて理論的に学び、領域「環境」のねらいと内容を様々な体験を通して理解できるようにする。幼稚園教諭としての経験を生かし、春の雑草調べ、泥だんご作り、夏野菜の栽培・収穫・調理等、季節感を意識した活動を取り入れ、その時期ならではの自然物に触れたり、七夕飾り製作といった季節の行事を経験し、「体感する」ことによって、保育者に必要な豊かな感性を育む。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
領域「環境」のねらいと内容について体験を通して総合的に理解する。									○		○
保育実践における保育内容「環境」の指導のあり方を理解する。									○	○	
自然に触れ、五感を使うことで豊かな感性を養う。										○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション・春の壁面製作①（グループ作り・話し合い） （高橋、岡崎）					既習の授業内容（領域「環境」のねらいと内容）について確認する。						
2. 春の壁面製作②（グループで製作） （高橋、岡崎）					春の壁面について保育雑誌等を参考にグループごとに準備する。						
3. 身近な自然物を取り入れた保育(1)：春の雑草調べ （高橋、岡崎）					春の雑草についての課題を仕上げる。						
4. 身近な自然物を取り入れた保育(2)：夏野菜の栽培・観察① （高橋、岡崎）					野菜の栽培の仕方についてまとめる。						
5. 身近な自然物を取り入れた保育(3)：夏野菜の栽培・観察② （高橋、岡崎）					観察記録を作成する（全部で5回）						
6. 身近な自然物を取り入れた保育(4)：夏野菜の栽培・観察③ （高橋、岡崎）					栽培方法を整理し一覧表にまとめる。						
7. 身近な自然物を取り入れた保育(5)：泥だんご作り① （高橋、岡崎）											
8. 身近な自然物を取り入れた保育(6)：泥だんご作り② （高橋、岡崎）											
9. 季節感を取り入れた保育：七夕飾り製作 （高橋、岡崎）					七夕飾りを考えてくる。						
10. 夏の壁面製作（グループで製作） （高橋、岡崎）					夏の壁面について保育雑誌等を参考にグループごとに準備する。						
11. 身近な自然物を取り入れた保育(7)：夏野菜の栽培・観察④（収穫・調理） （高橋、岡崎）					観察記録をまとめて冊子にする。						
12. 授業のまとめ・後始末 （高橋、岡崎）											
13.											
14.											
15.											
履修上の注意											
教職に関する専門教科の一つであり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための選択科目である。授業への取り組みを重視する。											
成績評価方法・基準											
平常点(受講態度)(50%) レポートや提出物(50%)により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。											
教科書 授業前にプリントを配布する。											
参考書 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕 〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔350円〕											
備考											
天候により、授業計画の順番を変更することがある。 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		保育内容（言葉Ⅰ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	佐藤 深雪	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
幼稚園教諭養成課程及び、保育士養成課程の必修科目である。幼稚園・保育所・認定こども園での保育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。また、担当者の小学校教諭の経験を活かして、グループワークや発表を通して授業を行っていく。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。									○	○	○	○
保育内容「言葉」の領域に関する理論（言葉の意義、発達など）を理解する。									○	○		
領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法（絵本、紙芝居などの保育教材の扱い方）を身につける									○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション・言葉の意義						当該科目の授業内容・計画について理解する。						
2. 幼稚園教育要領・こども園教育保育教育要領の領域「言葉」						教育要領を読み、授業内容の予習復習を行う。						
3. 保育所保育指針・こども園教育保育教育要領の領域「言葉」						保育指針を読み、授業内容の予習復習を行う。						
4. 乳幼児の言葉の発達①（3歳未満児）						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。						
5. 乳幼児の言葉の発達②（3歳以上児）						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。						
6. 乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。						
7. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校との接続						要領・指針を読み、授業内容の予習復習を行う。						
8. 言葉に関する遊びや児童文化財と指導計画						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。						
9. 言葉に関する遊びを取り入れた模擬保育と情報機器の活用						模擬保育の準備をし、振り返りを行う。						
10. 児童文化財に関する教材研究と模擬保育①（紙芝居①）						読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。						
11. 児童文化財に関する教材研究と模擬保育②（紙芝居②）						読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。						
12. 児童文化財に関する教材研究と模擬保育③（絵本①）						読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。						
13. 児童文化財に関する教材研究と模擬保育④（絵本②）						読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。						
14. 保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮 （言葉の障がいや異文化理解）						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。						
15. まとめ						配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。						
16. 期末試験												
履修上の注意 授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。												
成績評価方法・基準 授業への取り組みの状況（20%）、期末試験（50%）、及び提出課題（30%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については授業中に、期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。												
教科書 〔幼稚園教育要領解説〕〔文科省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚労省〕／授業前にプリント配布												
参考書 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕 〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2,200円〕												
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		保育内容（言葉Ⅱ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	佐藤 深雪	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
幼稚園教諭養成課程（領域及び保育内容の指導法に関する科目）及び保育士養成課程（「保育の内容・方法に関する科目」）」の必修科目である。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深めるために、「保育内容（言葉Ⅰ）」で学習した内容をもとに、教育・保育実習と関連させながら、子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かして、絵本や紙芝居などの教材研究や事例研究を中心に、グループワークや発表を通して授業を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
教育要領・保育指針等に示された保育の基本を踏まえ、領域「言葉」に関する保育教材の扱い方等を理解する。									○	○		○
領域「言葉」に関わる具体的な指導場면을想定した保育を構想する方法を身につける。									○	○	○	○
領域「言葉」に関して子どもが経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。									○	○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション 領域「言葉」の確認						当該科目の授業内容・計画について理解する。						
2. 言葉の指導と教材研究①：「春の課題」発表						「春の課題」を作成する。						
3. 言葉の指導と教材研究②：「日本語の魅力」を知る						事前配布プリントを読む						
4. 言葉の指導と教材研究③：「ことば遊びあれこれ」						事前配布プリントを読む						
5. 言葉の指導と教材研究④：「教室のことば」						事前配布プリントを読む						
6. 言葉の指導と教材研究⑤：「実習中の課題」発表						「実習中の課題」を作成する。						
7. 言葉の指導と教材研究⑥：子どもの言葉と学び						事前配布プリントを読む						
8. 言葉の指導と教材研究⑦：教師の言葉「言葉がけ」						事前配布プリントを読む						
9. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校との接続						事前配布プリントを読む						
10. 言葉の指導と教材研究⑧：「夏の課題」発表						「夏の課題」を作成する。						
11. まとめ												
12.												
13.												
14.												
15.												
履修上の注意 授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。 演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組みの状況（50%）、及び提出課題（50%）により総合的に評価します。なお、欠席が 1/3 以上の者には単位を認定しません。提出課題等については、授業中にフィードバックします。												
教科書 〔幼稚園教育要領解説〕〔文科省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚労省〕／授業前にプリント配布												
参考書 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕 〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2,200 円〕												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		保育内容（表現Ⅰ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）	
担当者	横山美喜子 佐藤和貴	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年		
授業の概要											
各要領及び指針の解説を読み込み、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。また、幼児が表現した作品や具体的な表現の様子の映像等から、その特徴的な表現の形や発達の過程とその理論を理解する。領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想し、模擬保育としてパネルシアターの製作に取り組む。さらにパネルシアターを実演することで、保育者としての実践力を身に付ける。この授業においては、小学校教諭・高等学校教諭としての経験を生かし、保育者として幼児の豊かな表現力を育むための指導の在り方を具体的に構想できるように指導していく。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
各要領及び指針に示された幼稚園教育の基本をふまえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。									○		
領域「表現」に関する理論を理解する。										○	
領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。											○
領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を実践する力を身に付ける。											○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）					
1. オリエンテーション・表現とは [横山]						これまでの表現活動について振り返る。					
2. 各要領及び指針における領域「表現」 [横山]						領域「表現」に関する理論を身に付ける。					
3. 乳幼児期の発達と表現①（3歳未満児） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
4. 乳幼児期の発達と表現②（3歳以上児） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
5. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「豊かな感性と表現」と小学校の教科とのつながり [横山]						小学校教育に至る幼児教育の位置付けを確認し、実践に活かす。					
6. 表現に至るプロセス・幼児のイメージを豊かにする環境構成や言葉がけについて [佐藤]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
7.意欲的な表現活動・幼児の表現の豊かさや深まりを促す環境構成や言葉がけについて [佐藤]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
8. 表現に関する教材研究と指導計画及び情報機器の活用① [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
9. 表現に関する教材研究と指導計画及び情報機器の活用② [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
10. 表現に関する教材研究と模擬保育①（パネルシアター製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
11. 表現に関する教材研究と模擬保育②（パネルシアター製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
12. 表現に関する教材研究と模擬保育③（パネルシアター製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
13. 表現に関する教材研究と模擬保育④（パネルシアター製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
14. 共同的かつ創造的な表現を育むための様々な取組 [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。					
15. まとめ [横山]						学習内容を確認し、今後の実践に活かす。					
履修上の注意											
保育士資格及び幼稚園教諭2級免許取得のための必修科目である。授業への取組を重視する。											
成績評価方法・基準											
受講状況を含む平常点 40% 模擬保育・作品としてのパネルシアター及びレポート 60% ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。提出課題等については、添削後授業中にフィードバックする。											
教科書 授業前に必要なプリントを配布する。											
参考書 保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説											
備考 都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		保育内容（表現Ⅱ）				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	横山美喜子	佐藤和貴	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示された領域「表現」のねらい及びその内容への理解を深めるとともに、遊びの中から様々な表現につながっていく幼児の表現の特徴を理解する。1編の詩を選び、イメージを基に造形表現・音楽表現・言語表現・身体表現を行う。さらに互いの表現を理解し合い、1つの表現として融合させ、最終的に劇として発表する。小学校教諭および高等学校教諭としての経験を生かして、幅広い視点から表現について考える。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
各要領及び指針に則り、幼児の表現の特徴を理解する。										○			
1つのイメージを基に様々な形での表現を行い、幼児の表現を実感する。											○		
互いの表現を理解し合い、1つに融合していくことで共同的な表現のあり方を体験的に理解する。												○	
総合的な表現である劇を発表し、保育者としての実践力を高める。													○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.未分化な幼児の表現の特徴について理解する。 [横山]						実習等の経験を振り返る。							
2.詩を選び、造形表現、音楽表現、身体表現、言語表現の形を考える。 [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
3.それぞれの表現を融合し、劇という形で表現するための手立てを考える。 [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
4.造形表現活動1（舞台装置、衣装などの製作） [横山]						ベースとなる衣装を準備する。							
5.造形表現活動2（舞台装置、衣装などの製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
6.造形表現活動3（舞台装置、衣装などの製作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
7.音楽表現活動1（BGM,効果音などの製作） [佐藤]						楽器の特徴を振り返る。							
8.音楽表現活動2（BGM,効果音などの製作） [佐藤]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
9.身体・言語表現活動1（ダンス、せりふなどの創作） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
10.身体・言語表現活動2（演出を考え通し練習） [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
11.総合的な表現活動（劇として発表） [佐藤] [横山]						学習内容を確認し、実践に活かす。							
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
協同での活動が多いので、互いに協力し合うこと。													
成績評価方法・基準													
受講態度・授業への参加状況（50％）劇及び劇としての表現に至る各自の表現内容（50％） 提出課題等については、添削後授業中にフィードバックする。													
教科書 事前に必要なプリントを配布する。													
参考書 保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説													
備考 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		教育・保育方法論				単位（総授業時間＋自習時間）				2(30+60)		
担当者	岡崎 善治・松尾 広	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
前半は幼児教育・保育の方法に関する基礎的な理論や概念、視点を確認し、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質能力を育成するために必要な教育の方法を講義する。また、幼児教育・保育を行う上での基礎的な技術を、幼・小教諭の経験をいかして指導案や具体的事例を用いて解説する。講義では学生が自らの考えを发表或し議論する時間を設けることで、教育・保育方法に対して知見を広げられるようにする。後半は教育をコミュニケーションによる学習活動としてとらえ、視聴覚的なコミュニケーションの意義、視聴覚教材・機器の特徴について解説し、視聴覚教材の制作を通して理解を深めるようにする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
1. 教育・保育方法の基礎的な理論と実践を理解する。							○		○			
2. 教育・保育方法のための指導技術を理解し、身に付ける。									○			○
3. 視聴覚的なコミュニケーションの意義と視聴覚機器の特徴を理解する。									○	○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション：教育・保育方法とは何か [岡崎]						シラバスから授業の概要・目標・内容を確認し、今後の学習内容を見通す。						
2. 幼児教育・保育方法の歴史 [岡崎]						配布資料を読んでくる／復習						
3. 幼児教育・保育の方法(1)基礎理念 [岡崎]						配布資料を読んでくる／復習						
4. 幼児教育・保育の方法(2)幼児の生活、遊び [岡崎]						配布資料を読んでくる／復習						
5. 幼児教育・保育の方法(3)評価 [岡崎]						配布資料を読んでくる／復習						
6. 幼児教育・保育の方法(4)具体例 [岡崎]						配布資料を読んでくる／復習						
7. 幼児教育・保育の技術(1)指導計画作成ポイント [岡崎]						配布資料を読んでくる／復習						
8. 幼児教育・保育の技術(2)指導計画の取り組み事例 [岡崎]						配布資料を読んでくる／復習						
9. 幼児教育・保育の技術(3)指導計画の作成 [岡崎]						配布資料を読んでくる／復習						
10. これからの幼児教育・保育に求められるもの [岡崎]						配布資料を読んでくる／復習						
11. 教育におけるコミュニケーション [松尾]						ノートを見直し、要点を押さえる。						
12. マスコミと教育 [松尾]						ノートを見直し、要点を押さえる。						
13. 視聴覚機器の特性 [松尾]						ノートを見直し、要点を押さえる。						
14. コンピュータと視聴覚教材 [松尾]						ノートを見直し、要点を押さえる。						
15. まとめ（11～14回） [松尾]						学んだことを振り返り、課題を仕上げる。						
履修上の注意												
毎時間コメントペーパーを書いて提出する。												
成績評価方法・基準												
提出物・受講態度 40%、レポート 60%												
提出物については授業内でフィードバックする。												
教科書 事前にレジメ等を配布する。												
参考書 授業内で適宜紹介する。												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		保育内容の指導法				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	高橋 恵美		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要													
幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。幼稚園教育要領に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」等の方法的特質と、5領域のねらい及び内容の関連について実践的に学び、指導計画を作成する力を身につける。また、幼稚園教諭、保育士としての経験に基づいた様々な生活や遊びの場面（エピソード）から、可能な保育方法をグループで話し合い、共有することで、保育を展開していくための知識と技術の引き出しを増やす。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本（「環境を通して行う教育」「遊びを通した指導」等）を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する									○	○		○	
幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な場면을想定して保育を構想する方法を身に付ける。										○	○		○
幼稚園教育の指導計画の作成の仕方を理解する。										○			○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 幼稚園教育の基本・保育内容の指導法について						幼稚園教育要領の内容を復習しておく。							
2. エピソード①：園外保育でつかまえたバッタ						それぞれのエピソード（場面）ごとに、保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する。							
3. エピソード②：トラブルの場面													
4. エピソード③：片付け エピソード④：給食													
5. 環境を通して行う教育						既習の授業内容（保育内容等）を確認する。							
6. 遊びを通しての指導						既習の授業内容（保育内容等）を確認する。							
7. 家庭・地域・小学校との連携のあり方						ノートを見直し、復習する							
8. 指導計画の立案（3歳児）						年齢ごとの指導計画立案について、ポイントを整理し、復習する。							
9. 指導計画の立案（4・5歳児）													
10. 期末試験													
履修上の注意													
幼稚園教諭免許取得のための必修科目であるため、積極的に授業に取り組むこと。													
成績評価方法・基準													
受講態度（50%） 期末試験（50%）により総合的に評価する。													
試験終了後に解説をする。指導計画等の提出課題については添削して返却する。													
教科書 授業時にプリントを配布する													
参考書 [幼稚園教育要領解説][文部科学省][フレーベル館][240円] [保育所保育指針解説][厚生労働省][フレーベル館][320円] [幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説][総務省・文科省・厚労省][フレーベル館][350円]													
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		保育の実技と演習				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	高橋 恵美 岡崎 善治	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要												
①保育実習や将来の保育実践に備えるために、テーマに沿って作成した指導計画をもとに模擬保育（手遊びを含めたエプロンシアター、手作り教材を用いた保育実践）を行い、幼稚園教諭としての経験を生かして具体的な実践方法を伝える。②牛乳パックや新聞紙等、身近な材料を使って、実習で活用できる教材の製作方法を学び、実践する機会を設ける。③仲間との協同を学ぶために「ペープサート」を取り入れ、互いに協力しながら「題材選び、台本作り、製作、練習、実演（発表）」の一連の活動を経験できるようにする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
指導計画の作成について具体的に理解する。									○		○	
指導計画に沿った模擬保育やグループ活動により、保育者として必要な知識、技能を修得する。保育実践力を身に付ける。									○	○		○
既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、総合的な保育実践力を身に付ける。									○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション・集団あそび（高橋、岡崎）						ジャンケンを用いたゲームを考える						
2. 手遊びの実践・集団遊びの実践（高橋、岡崎）						手遊びを一人2つ考える						
3. 児童文化財(エプロンシアター)を用いての実演①（高橋、岡崎）						エプロンシアターの練習をする。						
4. 児童文化財(エプロンシアター)を用いての実演② 模擬保育に向けて保育指導計画(部分案)の作成・検討（高橋、岡崎）						模擬保育のための指導案を作成する。						
5. 保育指導計画にのっとっての模擬保育①（高橋、岡崎）						模擬保育の評価・反省をする						
6. 保育指導計画にのっとっての模擬保育②（高橋、岡崎）												
7. 保育実習に向けて～教材製作（高橋、岡崎）						作成した教材を活用できるようにする						
8. 予想される子どもの姿を考える(ディスカッション)（高橋、岡崎）						予想される子どもの姿を各自まとめる						
9. 予想される子どもの姿・実際の姿を記録・発表（高橋、岡崎）						実際の姿を記録し、発表の準備をする						
10. グループ発表（ペープサート）準備①（高橋、岡崎）						グループごとにペープサートの練習をする。						
11. グループ発表（ペープサート）準備②（高橋、岡崎）												
12. グループ発表（ペープサート）準備③（高橋、岡崎）												
13. ペープサート発表会（高橋、岡崎）						まとめのレポートを作成する。						
14.												
15.												
履修上の注意												
保育の技術や実践力を身に付けるために積極的に授業に臨むこと。 書籍、インターネット等を利用して、絶えず教材研究を重ねること。												
成績評価方法・基準												
平常点（受講態度）（50％）レポートや提出物（50％）により総合的に評価する。 指導案等の提出課題は添削して返却する。												
教科書 [遊びの指導 乳幼児編][幼少年教育研究所][同文書院][3,200 円]												
参考書 [教育・保育課程論][岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正][萌文書林][1,900 円]												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		児童文化 I			単位 (総授業時間＋自習時間)				1(30+15)			
担当者	安藤 倫子	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専 1 年			
授業の概要												
手芸(裁縫)の基礎 (型紙・布地の裁断・刺繍・縫製) の習得を兼ねてピンクッションを製作。幼児の発達過程や興味関心を考慮した題材を各自が選定、布地の特性を活かし、幼児が興味を示すような仕掛けや素材などを取り入れた視覚教材「おはなし手袋」「エプロンシアター」を製作する。既存の児童文化財や自作の教材を使い発表を経験することで、2 年生での実践に備える。保育士の経験を生かし、完成作品のイメージに合った材料の準備や製作過程を身に付け、発表の方法を学ぶ。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
布地を用いた製作過程の基礎を習得する。										○	○	○
製作品に合わせた素材を選び、素材や用途に適した手法を理解する。										○	○	○
幼児の発達過程や興味関心に考慮した製作、及び発表をする。										○	○	○
授業計画の内容					自習 (事前・事後学修の内容)							
1.「授業内容と進め方」「用具と材料」説明／おはなし手袋：題材選定、台本作成など説明／基礎縫い①：型紙、布裁断、ステッチ(①ラノンガステッチ、②バックステッチ、③アウトラインステッチ、他 2 種)					①おはなし手袋：題材選定、イメージ図を記入し次回提出&確認 ②基礎縫い(ステッチ①～⑤)仕上げる。							
2.おはなし手袋：イメージ図を基に個々に確認／基礎縫い②：ステッチ(⑥フレンチノットステッチ、⑦レゼーダーズステッチ、⑧サテンステッチ 他 3 種)					①基礎縫い(ピンクッション)を仕上げる。 ②次回、おはなし手袋の型紙作成ができるように絵本などを準備。							
3.おはなし手袋①：実物大で型紙作成、裁断、フェルトに型を写し裁断、刺繍糸でステッチ、縫い合わせる(ボタンホールステッチ)					マスコット製作 (1/4 仕上げる)							
4.おはなし手袋②：綿を入れて縫い合わせる(ボタンホールステッチ)／エプロンシアター：題材選定、台本作成など説明					①マスコット製作 (1/2 仕上げる) ②エプロンシアター：題材選定、イメージ図を記入し次回提出&確認							
5.おはなし手袋③：綿を入れて縫い合わせる(ボタンホールステッチ)、マジックテープを縫い付ける(たてまつり)／エプロンシアター：イメージ図を基に個々に確認					マスコット製作 (3/4 仕上げる)							
6.おはなし手袋④：マジックテープを縫い付ける(たてまつり)、仕上げ(細かいパーツ貼付)／エプロンシアター：イメージ図を基に個々に確認					おはなし手袋を完成させる。次回の発表に備えてセリフを暗記し、マスコットの動かし方を練習。(発表ポイント：対象者は幼児)							
7.おはなし手袋⑤：おはなし手袋発表(プリント：発表をしておの感想・他者の発表からの気づきを記入し提出)／エプロンシアター：製作で使用する材料について説明(各自購入)					①おはなし手袋の修正&作品カードを記入し、次回提出(イメージ図、型紙) ②エプロンシアター：フェルトや布地、刺繍糸などの材料を各自準備。次回、布に型を写す作業から入れるように実物大で型紙を作成。							
8.エプロンシアター①：フェルトや布地に型を写す、裁断					マスコット製作 (1/5 仕上げる)							
9.エプロンシアター②：フェルトや布地を裁断、模様などを刺繍糸でステッチ					マスコット製作 (2/5 仕上げる)							
10.エプロンシアター③：模様などを刺繍糸でステッチ、縫い合わせる(ボタンホールステッチ)					マスコット製作 (3/5 仕上げる)							
11.エプロンシアター④：綿を入れて縫い合わせる(ボタンホールステッチ、たてまつり)					マスコット製作 (4/5 仕上げる)							
12.エプロンシアター⑤：綿を入れて縫い合わせる(ボタンホールステッチ、たてまつり)、マジックテープを縫い付ける(たてまつり)					マスコット製作を仕上げる。							
13.エプロンシアター⑥：マジックテープを縫い付ける(たてまつり)、飾り布(背景)の型を布地に写し裁断、エプロンに縫い付ける (たてまつり、ミシン)					背景製作 (1/2 仕上げる)							
14.エプロンシアター⑦：エプロンに縫い付ける(たてまつり、ミシン)、マジックテープを縫い付ける(たてまつり)					エプロンシアターを仕上げる。次回の発表に備えてセリフを暗記し、マスコットの動かし方を練習。(発表ポイント：対象者は幼児)							
15.エプロンシアター⑧：エプロンシアター発表(プリント：発表をしておの感想・他者の発表からの気づきを記入し提出)					エプロンシアターの修正&作品カードを記入し、ピンクッションと一緒に次週まで提出(イメージ図、型紙)							
履修上の注意：毎時間、裁縫道具を持参。製作物と進度は個々に異なるので自ら質問し、製作過程を積極的に確認しながら丁寧に取り組むこと。説明と異なる手法での製作品は評価基準外とする。材料費(手袋・エプロン代含む) 3,500 円。												
成績評価方法・基準：課題作品・提出物 (60%) 計画的に取り組む授業姿勢(事前・事後学習を含む) (40%) 発表・作品にコメント付す。												
教科書 授業前にプリントを配布												
参考書 なし												
備考												
質問等については、授業終了時に受付けます。 118												

授業科目名		児童文化Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	横山 美喜子	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年		
授業の概要											
子どものための文学や音楽、演劇、玩具など様々な分野の児童文化は、大人が「子どものために」与えた文化であると同時に、子ども自身がその感性で発信する自発的な活動力をもっている。この授業では、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中、子どもと大人が織りなす児童文化という考え方とその現状を学ぶことを目的とする。また、その中でも特に絵本を取り上げ、その製作を行う。子どもの発達段階をふまえ、それぞれに相応しい内容を考え、一冊の絵本として表現していく。 この授業においては、小学校教諭としての経験を生かし、幼児の感性を育むための児童文化の在り方を常に模索しながら、実践力を高められるよう指導する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
多様な児童文化について知り、幼児教育における児童文化の意義を理解する。									○		
これまでに学んだ表現技法を活かし、児童文化財としての絵本を製作する。										○	
子どもが読むにふさわしい絵本を製作することへの意欲を高める。											○
製作した絵本を鑑賞し合い、より良い絵本の在り方について考察する。											○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1. 自分の子ども時代を取り巻く児童文化に気づき、多様な児童文化について知るとともに、児童文化の意義を理解する。					自分の子供時代を振り返り、心に残る児童文化財を思い出す。						
2. 幼児の発達段階にふさわしい絵本の内容について理解する。					これまでに読んだ絵本を振り返る。						
3. 自分の絵本のテーマ、対象年齢、表現方法を考える。					造形Ⅰ・Ⅱで学んだ表現方法を振り返る。						
4. 試作品作成 1					原画にどのように活かすかをイメージする。						
5. 試作品作成 2					原画にどのように活かすかをイメージする。						
6. 原画作成 1					写真や図鑑などを資料として準備する。						
7. 原画作成 2					写真や図鑑などを資料として準備する。						
8. 原画作成 3					写真や図鑑などを資料として準備する。						
9. 製本 1					完成作品への見通しをもつ。						
10. 製本 2					完成作品への見通しをもつ。						
11 発表・評価					絵本への見方を深め、実践に活かす。						
12.											
13.											
14.											
15.											
履修上の注意											
製作中に服が汚れることがあるので、作業着を着用すること。											
成績評価方法・基準											
受講態度・授業への参加状況（50％）試作品及び作品（絵本）（50％） 絵本の試作品等に対しては評価後授業中に、また完成作品は授業終了後にフィードバックする。ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。											
教科書 授業前に必要なプリントを配布する。											
参考書 なし											
備 考											
都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		乳児保育Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				2(30＋60)			
担当者	大窪 裕喜恵	必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要												
乳児保育の意義・理念について、保育所保育指針や認定こども園教育保育要領から紐解き、保育者の役割について考え合う中で、保育者としての意識を持てるようにする。乳児保育の基盤となる養護について具体的な事例を通して講義するとともに、3歳未満児の発育・発達の特性や保育内容と結びつけたグループワークを通して、学生同士で考えあい、乳児保育の基礎を習得できるようにする。 保育士としての経験を生かし保育を通した子どもたちの姿から日々成長する過程について講義し、こどもが主体的に考え行動する力を伸ばしていくための、保育環境づくりなどを具体的にイメージし、保育実践に結び付けられるようにする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
1. 乳児保育の現状と課題を踏まえた、意義・理念・役割について理解する。							○		○		○	
2. 発達を踏まえた養護・教育が一体化した保育の展開について学ぶ。								○	○		○	
3. 職員間の連携及び保護者や関係機関との連携について認識を持つ。									○	○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1.乳児保育とは・・・乳児保育の基本理念と概要					事後学習としてレポート作成							
2.養護：情緒の安定とは					情緒の安定について自分の考えをまとめる							
3.養護：生命の保持とは					生命の保持について自分の考えをまとめる							
4.乳児保育の基礎知識 1 0歳児：愛着関係					愛着について調べる							
5.乳児保育の基礎知識 2 1歳児の発達と子どもの姿					自我の発達といやいや気について調べる。							
6.乳児保育の基礎知識 3 1、2歳児の発達と子どもの姿					まねっこ遊びからごっこ遊びに移行を調べる							
7.乳児保育の基礎知識 3 2歳児の発達と子どもの姿					2歳児の生活をイメージする。							
7 乳児保育の現状と課題 保育所・こども園その他の施設					乳児保育を担う施設について調べる							
8.乳児保育の現状と課題 乳児の生活と保育者の役割					人的環境としての保育士の役割を書き出す。							
9.乳児保育の現状と課題 乳児保育に必要な環境					保育環境で大事な点をまとめる							
10. 職員間の連携の大切さについて					職種や職員の連携にについて書き出す							
11. 保護者の置かれている環境と保護者支援					どんな保護者支援が必要か書き出す							
12. 他機関（保健と医療関係など）との連携について					連携機関を調べる							
13. 配慮の必要な子どもの保育について					様々な感覚や個性について学ぶ							
15. まとめ					課題について							
履修上の注意 講義やグループワークを通して、乳児保育のイメージを膨らませて考え、積極的に発言しましょう。自分で調べる、考えを書き出すことで、学びを整理し、書きまとめることで、自分のものにしていく												
成績評価方法・基準												
講義の受講態度 30％（授業中の態度・真剣さ、積極的に発言・発表するなどの参加態度を評価する）												
課題・レポート 70％（課題・レポート内容により乳児保育の学びに即しているかで評価する）												
課題・レポートは授業の中で、フィードバックします。												
教科書 〔講義で学ぶ乳児保育〕〔小山朝子著〕〔わかば社〕												
参考書 〔0・1・2歳児の世界（全5巻）〕〔今井和子編著〕〔トロール〕〔2,778＋税〕												
備考 *授業内容については、都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。 *質問等については、授業中でも受け付けます。 *調べたり、自分の考えをまとめて書くことで、学びを深めるようにしましょう。												

授業科目名		乳児保育Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1 (30＋15)		
担当者	大窪 裕喜恵	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
前期の講義を踏まえ、子どもの発育・発達の過程における特徴と、保育者の援助や関わり方の基本的な考え方を、事例を通して講義し学生同士話し合い、考えあう中で、子どもの個人差や発達の連続性を考慮した保育について学べるようにする。 養護を基軸にした日課・月案など指導計画の作成の要点について講義する。また演習を通して、学びを実体験する機会を作る中で、子どもへの言葉かけ・接し方など具体的にイメージできるような場面を設定したグループワークを通して、学生同士で考え合い、どのような援助や関りが必要か気づかせる。また子どもが主体的に遊ぶことが、言語・運動・表現・人との関わる力を伸ばしていくことに繋がること、どのような環境（ひと・もの・こと）が必要か考えたことを書き出すことで学びを深め、保育士としての経験を生かし具体的な遊びを考え合うなど実践に結びつくように授業を進める。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
1. 3歳未満児の発達の発達を踏まえた保育者の援助や関わりの基本を学ぶ							○	○	○		○	
2. 養護と教育の一体性や発達の連続性を理解する。									○	○	○	○
3. 3歳未満児の具体的な保育の方法や環境について理解する。							○		○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション						夏休み中の課題の発表						
2. 乳児保育の3つの視点 ①健やかに伸び伸びと育つ						①の意味と保育者の役割を考える						
3. 乳児保育の3つの視点 ②身近な人と気持ちが通じ合う						②の意味と保育者の役割を考える						
4. 乳児保育の3つの視点 ③身近なものとかかわり感性が育つ						③の意味と保育者の役割を考える						
5. 5領域と育みたい能力・資質 ④知識及び技能の基礎						④の意味と保育者の役割を考える						
6. 5領域と育みたい能力・資質 ⑤思考力・判断力・表現力の基礎						⑤の意味と保育者の役割を考える						
7. 5領域と育みたい能力・資質 ⑥学びに向かう人間性を育む						⑥の意味と保育者の役割を考える						
8. 発達を踏まえた遊びを支える援助と環境作り						遊びについて考える						
9. 発達を踏まえた遊びの計画を立てる						具体的な環境作り・配慮・援助事項を書き出す						
10. 非認知能力の育ちを支える						非認知能力について調べる						
11. 家庭との連携（おたより・個別面談・クラス懇談など）						集団と家庭の役割について考える						
12. 保育園・こども園の一日の生活の流れと保育環境						日案を読み、一日を組み立てる						
13. 長期計画（全体の計画・年間計画）						計画の項目について調べる						
14. 月の指導計画と個別指導計画						環境（ひとものこと）を調べる						
15. まとめ（一年の学びを振り返る）						なりたい保育士像を文章にまとめる。						
16. 期末試験												
履修上の注意												
＊授業の取り組み（受講態度・課題提出：レポート内容）を重視します。												
＊配布したプリント・課題について自分で教科書を読み下調べをしておきましょう。												
成績評価方法・基準												
授業の取り組みの状況 30％ 課題提出 30％ 期末試験 40％により、総合的に評価します。課題提出については、授業中にまた期末試験の結果については、後日機会を設けてフィードバックをします。												
教科書 [講義で学ぶ乳児保育] [小山朝子著] [わかば社]												
参考書 [0・1・2歳児の世界（全5巻）] [今井和子編著] [トロール] [2,778＋税]												
備 考 ＊授業内容については、学生の理解度・事業の進み具合により変更する場合があります。 ＊質問等については、授業中もしくは、レポートに記載でも受け付けます。												

授業科目名		子どもの健康と安全				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)		
担当者	岩佐 あけみ	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
助産師として生命が生まれる現場や乳児健診の現場において赤ちゃんの世話や保護者の気持ちを受け止め学んでいます子どもの健康と安全では、子どもたちは、保護者、保育機関、学校、地域の方々との関わりなど環境にも依存しながら、日々成長しています。核家族化や女性の就労が増えたことから保育園や幼稚園での生活が、今は子どもたちに大きな影響を与えます。子どもの健康保持増進、さらには自分の健康管理についても必要な援助、技術、応用能力を学び、多様性のあることを念頭におき、実践できるようにする。「子どもの保健」で学んだことを生かし、創造力をもって演習ができるようにする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
1. 健康に関する観察力・判断力を学ぶことができる。									○		○	○
2. 日常の養護の具体的な方法について学ぶことができ、実際にやってみることができる。								○	○			○
3. 日常起こりうる症状やケガに対する手当を身につけることができる。									○			○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. 子どもの健康と安全 オリエンテーションと小児保健について						教科書をよく読み何を勉強するか知っておく						
2. 小児の発育を知る						自分の母子手帳を使い、感染について身近に感じる						
3. 身体測定の意義と実施・評価（計測し評価するまで）						教科書から測定のポイントを押さえておく						
4. バイタルサインのチェックとその評価						教科書から測定のポイントを押さえておく						
5. 子供の基本的生活習慣の確保						教科書をよく読み理解しておく						
6. 演習①子どもの養護、日常の世話①抱き方、おむつの交換、スキンケア						見学実習に入ったら、保育士は赤ちゃんや子供をどんなふうに保育しているか観察し、演習でやってみる。						
7. 演習②子どもの養護、日常の世話②歯磨き、調乳、遊び												
8. 演習③沐浴、抱き方、衣類の着脱						演習のまとめとして沐浴を一人ずつテストします						
9. 小児の事故とその予防						教科書をよく読み理解しておく						
10. 子どものよくある症状・病気とその対処法および予防						教科書をよく読み手当てができるようになる						
11. 三角巾・包帯の扱い方、子どもの心肺蘇生法						教科書をよく読み手当てができるようになる						
12. 障害を持つ小児と家族への関わり方						教科書をよく読み対応ができるようになる						
13. 児童虐待、災害の影響から子どもをできるだけ守る						教科書をよく読み理解しておく						
14. 地域との連携・協働						教科書をよく読み理解しておく						
15. まとめ						時間がなく足りなかった部分の補習と質問						
16. 期末試験												
履修上の注意												
授業に積極的に臨むこと、授業中の配布プリントが多いのでファイルにまとめ振り返ること。												
成績評価方法・基準												
●期末試験 50％●課題（レポート）提出 15％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある） 課題は、後日添削しフィードバックする。 ●実技試験 20％（欠席した場合はレポート提出）●受講態度 15％												
教科書〔子どもの健康と安全演習ノート〕〔小林美由紀〕〔診断と治療社〕〔2,000円＋税〕												
参考書 授業前にプリントを配布する。												
備 考												
質問等は 授業終了時に受け付ける。												

授業科目名		障害児保育				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）			
担当者	大瀬戸 美紀		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要													
障害児保育は、保育の内容・方法の理解のための科目である。近年、国民のすべてが障害の有無によって分け隔てられることなく、人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現することの重要性が広く認識されている。それは、保育現場においても同様で、障害の有無に関わらず、すべての子どもが健やかに発達していくことが求められている。そのため、保育者には、障害を持つ子どもの保育について必要な基礎的な知識・技術が必要とされる。そこで、ここでは、障害児保育の実践における基礎的な知識・技術を主にグループワークを通して学ぶとともに、障害を持つ子どもに対する基本的な配慮事項についても理解する。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
障害児保育に関する基礎的知識・技術を身に付ける									○	○		○	
障害児保育の実践に関する基礎的知識・技術を身に付ける										○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1.オリエンテーション.						授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る							
2.「障害児保育」の意義						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
3.「障害」とは何か						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
4.発達と障害						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
5. 障害児保育のあゆみ						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
6. 肢体不自由の理解と援助						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
7. 視覚障害の理解と援助						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
8. 聴覚障害の理解と援助						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
9. 知的障害の理解と援助						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
10. 発達障害の理解と援助：自閉スペクトラム症						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
11. 発達障害の理解と援助：ADHD・LD						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
12. 配慮を必要とする子どもの理解と援助						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
13. 障害児保育の方法と形態						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
14. 基本的生活習慣獲得の援助						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
15. まとめと試験						今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める							
履修上の注意													
グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。													
成績評価方法・基準													
平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。													
教科書〔演習・保育と障害のある子ども〕〔野田敦史・林恵 編〕〔みらい〕〔2,300 円〕													
参考書 授業の中で指示する													
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。													

授業科目名		特別支援教育				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）			
担当者	岡崎 善治		必・選	必	形態	講義	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要													
幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目）の必修科目である。幼稚園・認定こども園に在籍している発達障害や軽度知的障害等の様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児が、保育に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力の基礎を身に付けていくことができるよう、幼児の保育上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について幼稚園、小学校教諭の経験を生かして概説し、また話し合いや発表を通して理解を深める。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達を理解する。									○	○			
特別の支援を必要とする幼児に対する教育課程や支援の方法を理解する。									○	○	○		
障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児の保育上又は生活上の困難とその対応を理解する。										○	○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション						当該科目の授業内容・計画について理解する。							
2. 特別支援教育（インクルーシブ教育）に関する制度の理念や仕組み						特別支援教育について調べてくる。 授業資料をまとめる。							
3. 障害児の理解と支援①（身体障害）						身体障害について調べてくる。授業資料をまとめる。							
4. 障害児の理解と支援②（知的障害）						知的障害について調べてくる。授業資料をまとめる。							
5. 障害児の理解と支援③（発達障害）						発達障害について調べてくる。授業資料をまとめる。							
6. 特別支援教育に関する教育課程の理解						教育課程について調べてくる。授業資料をまとめる。							
7. 個別の指導計画及び個別の教育支援計画作成の意義と方法						指導計画や教育支援計画について調べてくる。 授業資料をまとめる。							
8. 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携による支援						関係機関や家庭との連携について調べてくる。 授業資料をまとめる。							
9. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児の保育上又は生活上の困難とその対応						特別の教育的ニーズについて調べてくる。 授業資料をまとめる。							
10. 期末試験													
履修上の注意													
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。													
授業内容をしっかりとノートに取ること。													
成績評価方法・基準													
授業への取り組みの状況（20％）、提出課題（20％）、及び期末試験（60％）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については授業中に、期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。													
教科書 教科書は使用しない。各授業前に適宜、資料を配布する。													
参考書 必要に応じて適宜紹介する。													
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		社会的養護Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）			
担当者	大瀬戸 美紀、米川 純子		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年			
授業の概要													
社会的養護Ⅱは、保育の内容・方法の理解のための科目である。社会的養護は、子どもの権利擁護を基本とし、子どもの安全・安心な生活を守ることや心のケアあるいは自立支援を目標において展開されている。この中で保育者に期待される社会的役割や必要とされる基礎的知識を理解する。また、施設養護や家庭支援の具体的な内容や実践について学ぶことにより、施設保育士の職務内容が多岐にわたることを理解する。また、要保護児童地域対策協議会での経験を生かして、施設実習のための具体的な基礎的専門知識・技術の習得を目指す。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
社会的養護の実践に関する基礎的知識・技術を身に付ける。										○	○		
社会的養護の中で保育士に求められている社会的な役割を理解する。										○	○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション（大瀬戸・米川）						授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る							
2. 現代の児童問題（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
3. 児童養護の理念と施設養護の原則（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
4. 施設養護の内容と実際（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
5. 乳児院における養護の実際（米川）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
6. 母子生活支援施設における養護の実際（米川）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
7. 児童養護施設における養護の実際（米川）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
8. 児童自立支援施設における養護の実際（米川）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
9. 障害児入所施設における養護の実際（大瀬戸）						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する							
10. まとめと試験（大瀬戸・米川）						今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める							
11.													
12.													
13.													
14.													
15.													
履修上の注意													
グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。													
成績評価方法・基準													
平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。													
教科書 [社会的養護Ⅱ] [喜多 一憲 監修・堀場 純矢 編集] [(株) みらい] [2,100 円]													
参考書 授業の中で指示する													
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。													

授業科目名		子育て支援				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30＋15）		
担当者	大瀬戸 美紀	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要												
近年、日本の子育ての環境は、児童虐待や子育て不安、子どもの貧困などの問題が顕在化し、子育てがしやすい社会ではないことが広く認識されつつある。このような社会状況での子育ては、親にとって大変難しいものとなっており、親だけでなく、社会全体で子育てを支えることが必要であるとされている。それに伴い、保育者にも子育て支援の中核的な役割を担うことが期待されている。そこで、本講義では、保育者として保育現場で子育て支援を行う基礎的な知識・技術の習得を目指す。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
子育て環境の現状や保育者の役割について理解している								○	○	○	○	○
子育て支援のねらい及び内容を理解している								○	○			○
子育て支援の基礎的な知識及び技術を理解している									○		○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション						授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る						
2. 保育実践における子育て支援						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
3. 保育者の専門性と倫理						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
4. 保育者の支援ニーズへの気づきと多面的な理解						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
5. 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会・場の提供						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
6. 子ども・保護者の状況・状態の把握と養育力向上						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
7. 保育所等を利用している保護者への支援						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
8. 地域の保護者への支援						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
9. 障害・発達上の課題のある子どもとその保護者への支援						学習内容を復習し、分からなかったところを把握する						
10. まとめ						今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める						
11.												
12.												
13.												
14.												
15.												
履修上の注意												
ケーススタディが中心となってくるので、関連のあるデータや事例などを事前に調べた上で、授業に臨んでもらいたい。												
成績評価方法・基準												
平常点（50％）、レポート課題（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。レポート課題は添削して返却する。												
教科書 〔保育実践に求められる子育て支援〕 〔小原敏郎/三浦主博 編著〕〔ミネルヴァ書房〕												
参考書 授業の中で適宜紹介する												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。												

授業科目名		音楽Ⅰ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	佐藤 和貴		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年			
授業の概要													
教科書としているワークシート集「音楽事始」を利用し、保育者として必要な基本的な音楽理論を理解し、ピアノ演奏や子どものうたの読譜に必要な知識と技術を身に付けるようにする。特に、音高読譜の仕方について学び、ピアノⅠの授業との連携を計り実践的に読譜力を高める。また、広く幼稚園や保育所で行われている、春、夏の季節のうたや生活のうた等「子どものうた」を取り上げ歌唱方法と指導のあり方を身に付け、更に「弾き歌い」の歌唱法の基礎が身に付くようにする。高等学校教諭としての経験を生かし、総合的な音楽表現の能力を高めていく授業を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
音高読譜や基本的な音楽理論を理解する。										○		○	
春、夏などの季節や日常の歌を正しく歌おうとする。										○	○	○	○
自分に合った弾き歌いを身に付けようとする。										○	○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 読譜に必要な基礎知識①：楽譜の基礎知識／歌唱法・歌唱指導①（春の歌）：楽譜を読みながら歌う						資料により学修し身に付ける。春の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。							
2. 読譜に必要な基礎知識②：音の呼び方／歌唱法・歌唱指導②（春の歌）：歌詞の意味を考えて歌う						資料により学修し身に付ける。春の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。							
3. 読譜に必要な基礎知識③：音符と休符／歌唱法・歌唱指導③（春の歌）：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う						資料により学修し身に付ける。春の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。							
4. 読譜に必要な基礎知識④音階と調：拍子とリズム／歌唱法・歌唱指導④（春の歌）：気持ちを込めて歌う						資料により学修し身に付ける。春の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。							
5. 読譜に必要な基礎知識⑤：和音／歌唱法・歌唱指導⑤（春の歌）：気持ちを込めて暗譜で歌う						資料により学修し身に付ける。夏の歌の音高読譜する。春の歌を楽しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
6. 読譜に必要な基礎知識⑥：簡単な鍵盤ハーモニカとコードネーム／歌唱法・歌唱指導⑥（夏の歌）：楽譜を読みながら歌う						資料により学修し身に付ける。夏の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。伴奏法を身に付ける。							
7. 読譜に必要な基礎知識⑦：反復・省略記号／歌唱法・歌唱指導⑦（夏の歌）：歌詞の意味を考えて歌う						資料により学修し身に付ける。夏の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。伴奏法を身に付ける。							
8. 読譜に必要な基礎知識⑧：反復・省略記号／歌唱法・歌唱指導⑧（夏の歌）：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う						資料により学修し身に付ける。夏の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。伴奏法を身に付ける。							
9. 読譜に必要な基礎知識⑨：速度記号／歌唱法・歌唱指導⑨（夏の歌）：気持ちを込めて歌う						資料により学修し身に付ける。夏の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
10. 読譜に必要な基礎知識⑩：強弱記号／歌唱法・歌唱指導⑩（夏の歌）：気持ちを込めて暗譜で歌う						資料により学修し身に付ける。日常の歌の音高読譜する。春の歌を楽しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
11. 読譜に必要な基礎知識⑪：アーティキュレーション／歌唱法・歌唱指導⑪（日常の歌）：楽譜を読みながら歌う						資料により学修し身に付ける。日常の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。伴奏法を身に付ける。							
12. 読譜に必要な基礎知識⑫：装飾音／歌唱法・歌唱指導⑫（日常の歌）：歌詞の意味を考えて歌う						資料により学修し身に付ける。日常の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。伴奏法を身に付ける。							
13. 読譜に必要な基礎知識⑬：まとめ(1)／歌唱法・歌唱指導⑬（日常の歌）：歌詞と楽譜の関係を考えて歌う						資料により学修し身に付ける。日常の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。伴奏法を身に付ける。							
14. 読譜に必要な基礎知識⑭：まとめ(2)／歌唱法・歌唱指導⑭（日常の歌）：気持ちを込めて歌う						資料により学修し身に付ける。日常の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
15. 読譜に必要な基礎知識⑮：まとめ(3)／歌唱法・歌唱指導⑮（日常の歌）：気持ちを込めて暗譜で歌う／学習のまとめ						資料により学修し身に付ける。日常の歌の伴奏法を身に付ける。							
履修上の注意													
授業に積極的に臨むこと。教科書等資料から学んだことを実技で生かすようにすること。													
成績評価方法・基準													
活動中の参加態度(口形や姿勢、ノートの取り方)、教科書としている「音楽事始」への書込みを後日確認するので、授業毎必ず自身で過不足を補うこと。提出物、毎回の小テストの採点と学年全体の理解度について授業内で発表する。自分の理解度をあげるよう毎回努力すること。小テストへの取り組み方等を総合評価する。概ね、授業受講や活動中の態度(60%)、提出物(20%)、各種試験(20%)													
教科書 〔こどものうた100〕〔小林 美実〕〔チャイルド本社〕〔1,728円〕 〔音楽事始〕〔阿部陽子・大坪 豊〕無料配布													
参考書 なし													
備考													
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		音楽Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1(30+15)			
担当者	佐藤 和貴		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
音楽Ⅰで取得した技術や理論を基に,さらに音高も含め,リズムやコードネーム読譜を取り上げ,ピアノⅡの授業との連携を計り実践的に読譜力を高める。また,よく使用されている様々な楽器の正しい演奏法やアンサンブルのあり方について,楽曲を演奏する中で身に付ける。一方で,乳幼児期の楽器遊びの指導のあり方を学ぶ。保育現場で子どもたちの感性やコミュニケーションツールとしての表現力を培うことができるような音楽活動のあり方を身に付けるようになる。高等学校教諭としての経験を生かし,総合的な音楽表現の能力を高めていく授業を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
音高やリズム読譜やコードネームなど基本的な音楽理論を理解する。										○		○	○
秋,冬などの季節や日常の歌を正しく歌おうとする。										○	○	○	○
基本的な知識と技術を生かし,自分に合った弾き歌いを身に付けようとする。										○	○		○
基本的な打楽器奏法を身に付けアンサンブルを楽しもうとする。										○	○		
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 打楽器の演奏法:正しい奏法を学ぶ／歌唱法・歌唱指導①(秋の歌):楽譜を読みながら歌う						資料により学修し身に付ける。秋の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。伴奏法を身に付ける。							
2. 打楽器の合奏①:第1曲目のパート練習/歌唱法・歌唱指導②(秋の歌):歌詞の意味を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。秋の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。伴奏法を身に付ける。							
3. 打楽器の合奏②:第1曲目のグループ練習/歌唱法・歌唱指導③(秋の歌):歌詞と楽譜の関係を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。秋の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。伴奏法を身に付ける。							
4. 打楽器の合奏③:第1曲目の全体合奏/歌唱法・歌唱指導④(秋の歌):気持ちを込めて歌う						自分のパートの練習を進める。秋の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
5. 打楽器の合奏④:第1曲目のパート練習/歌唱法・歌唱指導⑤(秋の歌):気持ちを込めて暗譜で歌う						自分のパートの練習を進める。秋の歌の音高読譜する。春の歌を楽しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
6. 打楽器の合奏④:第2曲目のパート練習/歌唱法・歌唱指導⑥(冬の歌):歌詞の意味を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。冬の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。伴奏法を身に付ける。							
7. 打楽器の合奏⑤:第2曲目のグループ練習/歌唱法・歌唱指導⑦(冬の歌):歌詞の意味を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。冬の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。伴奏法を身に付ける。							
8. 打楽器の合奏⑥:第2曲目の全体合奏/歌唱法・歌唱指導⑧(冬の歌):気持ちを込めて歌う						自分のパートの練習を進める。冬の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。伴奏法を身に付ける。							
9. 打楽器の合奏⑦:第3曲目のパート練習/歌唱法・歌唱指導⑨(冬の歌):気持ちを込めて暗譜で歌う						自分のパートの練習を進める。冬の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
10. 打楽器の合奏⑧:第3曲目のグループ練習/歌唱法・歌唱指導⑩(生活の歌):楽譜を読みながら歌う						自分のパートの練習を進める。日常の歌の音高読譜する。春の歌を楽しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
11. 打楽器の合奏⑨:第3曲目の全体練習/歌唱法・歌唱指導⑪(生活の歌):歌詞と楽譜の関係を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。日常の歌の音高読譜を進める。歌詞の意味を調べる。伴奏法を身に付ける。							
12. 音楽活動の指導案の書き方/歌唱法・歌唱指導⑫(生活の歌):気持ちを込めて暗譜で歌う						自分のパートの練習を進める。日常の歌の音高読譜する。歌詞を覚える。伴奏法を身に付ける。							
13. ピアノの活用法:劇中音楽など色々な活用法を学ぶ/歌唱法・歌唱指導⑬(生活の歌):楽譜を読みながら歌う						自分のパートの練習を進める。日常の歌の音高読譜する。歌を暗唱で歌える。伴奏法を身に付ける。							
14. 音楽教育用語:取り扱われやすい用語について学ぶ/歌唱法・歌唱指導⑭(生活の歌):歌詞と楽譜の関係を考えて歌う						自分のパートの練習を進める。日常の歌の音高読譜する。歌を正しく歌える。伴奏法を身に付ける。							
15. 歌唱法・歌唱指導⑮(生活の歌):気持ちを込めて暗譜で歌う／学習のまとめ						日常の歌の伴奏法を身に付ける。伴奏法を身に付ける。							
履修上の注意													
授業に積極的に臨むこと。教科書等資料から学んだことを実技で生かすようにすること。													
成績評価方法・基準													
活動中の参加態度(口形や姿勢,ノートの取り方),毎回の小テストの採点と学年全体の理解度について授業内で発表する。自分の理解度をあげるよう毎回努力すること。小テストや実技テストへの取り組み方等を総合評価する。概ね,授業受講や活動中の態度(60%),提出物(20%),各種試験(20%)													
教科書 〔こどものうた100〕〔小林 美実〕〔チャイルド本社〕〔1,728円〕 〔音楽事始〕〔阿部陽子・大坪 豊〕無料配布													
参考書 なし													
備考 質問等については,授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		造形Ⅰ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）		
担当者	横山 美喜子	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年		
授業の概要											
様々な領域の表現活動に取り組むことにより、色や形・バランスなど基礎的な造形要素についての知識や表現技法を身に付ける。また、絵の具や筆、のりやはさみ、カッターナイフ等の基本的な用具や、粘土等の基本的な材料の扱い方について身に付ける。 「造形遊び」等の作りながら発想・構想する表現と、最終的な形を目指して発想・構想する表現の二つの形の創造活動に取り組むとともに、表現と対をなす「鑑賞」の活動を通して、豊かな情操を培う。 この授業においては、小学校教諭としての経験を生かし、保育者として幼児の表現力を高めるための具体的な指導の手立ての工夫を常に念頭に置いて取り組んでいくよう指導する。											
授業の到達目標							学位授与の方針との関連				
							1	2	3	4	5
造形的な創造活動の知識を身に付け、美術の基礎的な能力を伸ばす。									○		
造形的な創造活動の技能を身に付け、美術の基礎的な能力を伸ばす。										○	
造形的な創造活動を通して感性を働かせ、豊かな情操を養う。											○
造形的な創造活動を通して身に付けた知識・技能・態度を総合的に活用し、保育者として主体的に行動できるようにする。											○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）						
1.授業概要の説明 レディネスの確認					学習内容について確認する。						
2.色彩①「暖色と寒色の配色」					色のもつイメージを生かした配色を生活の中で役立たせる。						
3.色彩②「補色と調和色の配色」					色のもつイメージを生かした配色を生活の中で役立たせる。						
4.平面表現①「にじみとぼかし」用具の使い方①（絵の具と筆）					絵の具、筆、筆洗などの扱い方を知り、実践に活かす。						
5.平面表現②「ドリップング」等の抽象表現による共同製作					学んだ技法を実践に活かす。						
6.平面表現③前回の授業でできた作品を使った「コラージュ」					学んだ技法を実践に活かす。						
7.平面表現④「パチック」					学んだ技法を実践に活かす。						
8.平面表現⑤「フロッタージュ」用具の使い方②（はさみとのり）					はさみやのりの扱い方を実践に活かす。						
9.造形遊び①「光」					遊びから生まれる表現を実践に活かす。						
10.立体表現①「タワー」用具の使い方③（カッターナイフ）					カッターナイフの技法を実践に活かす。						
11.立体表現②「立体と展開図」					学んだ技法を実践に活かす。						
12.立体表現③「塑像1」材料を考える①（粘土）					粘土の種類や特色を知り、実践に活かす。						
13.立体表現③「塑像2」					学んだ技法を実践に活かす。						
14.立体表現③「塑像3」					学んだ技法を実践に活かす。						
15.鑑賞①「見ると見える」					主体的に「見る」姿勢を日常化できるようにする。						
履修上の注意											
製作中に服が汚れることがあるので、作業着で授業に臨むこと。準備物は事前に連絡します。											
成績評価方法・基準											
受講態度・授業への参加状況（50％）作品及びレポート（50％） 作品は提出後掲示し鑑賞するとともに、授業終了後にすべてフィードバックする。ルーブリック評価については第1回の授業で説明します。											
教科書 事前に必要なプリントを配布する。											
参考書 なし											
備考											
都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。											

授業科目名		造形Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）			1（30+15）				
担当者	横山 美喜子	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要												
造形Ⅰで身に付けた造形要素についての基礎的な知識や様々な表現技法を応用して表現活動を行う。 平面表現としては版画、立体表現としては木、段ボール、身近材を材料とする工作等に取り組み、表現の幅を広げていく。造形Ⅰと同じく造形遊びや鑑賞など様々な創造活動に取り組み、特に鑑賞では宮城県美術館において美術館の作品を鑑賞するとともに、美術館の役割や生活における美術について考える。 この授業においては、小学校教諭としての経験を生かし、保育者として幼児の表現力を高めるためにいかに指導するかを常に念頭に置いて取り組んでいくよう指導する。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
造形的な創造活動の知識を身に付け、美術の基礎的な能力を伸ばす。									○			
造形的な創造活動の技能を身に付け、美術の基礎的な能力を伸ばす。										○		
造形的な創造活動を通して感性を働かせ、豊かな情操を養う。											○	
造形的な創造活動を通して身に付けた知識・技能・態度を総合的に活用し、保育者として主体的に行動できるようにする。												○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. 授業概要の説明 用具の使い方①（のこぎり）					学習内容の確認。 のこぎりやクランプの扱い方を知る							
2. 表現①「枝や端材で1」材料を考える①（木材）					木材の種類や特色を知り、実践に活かす。							
3. 立体表現①「枝や端材で2」用具の使い方②（かなづち）					かなづちや釘の扱い方を実践に活かす。							
4. 造形遊び「並べて並べて」					遊びから生まれる表現を実践に活かす。							
5. 鑑賞「美術館へ出かけよう」					美術館での鑑賞を行う。							
6. 平面表現①「人物」					人体表現の留意点を知り、実践に活かす。							
7. 平面表現②「静物」					静物表現の留意点を知り、実践に活かす。							
8. 立体表現②「段ボールで1」材料を考える②（段ボール）					段ボール紙の種類や特色を知り、実践に活かす。							
9. 立体表現②「段ボールで2」用具の使い方③（段ボールカッター）					段ボールカッターの扱い方を知り、実践に活かす。							
10. 立体表現③「身近材」用具の使い方④（接着剤）					身近材の特徴とその材料に応じた接着剤の種類とその扱い方を知り、実践に活かす。							
11. 平面表現③「絵巻物」材料を考える③（墨）					墨の表現の特色を知り、実践に活かす。							
12. 平面表現④「版画1」					版画の種類や特色を知り、実践に活かす。							
13. 平面表現④「版画2」					「彫り」の方法を知り、実践に活かす。							
14. 平面表現④「版画3」					「刷り」の方法を知り、実践に活かす。							
15. 授業のまとめ					造形Ⅰ・Ⅱを振り返り、今後の実践に活かす。							
履修上の注意												
製作中に服が汚れることがあるので、作業着で授業に臨むこと。準備物は事前に連絡します。												
成績評価方法・基準												
受講態度・授業への参加状況（50％）作品及びレポート（50％） 作品は提出後掲示し鑑賞するとともに、授業終了後にすべてフィードバックする。ルーブリック評価については第1回の授業で説明します。												
教科書 事前に必要なプリントを配布する。												
参考書 なし												
備考 都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		体育 I			単位（総授業時間＋自習時間）					1(30＋15)			
担当者	土屋 葉子		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
幼児にとって運動は、その発育、発達過程において重要であることは周知の通りである。様々な運動遊びを習得するため、主に小型遊具を使った基本的な運動を理解し、発育、発達段階に即した運動指導を、楽しくすることができるようにしていく。また、模擬授業も取り入れ、より実践的な指導法を演習するとともに、運動遊びを行う中での、安全な生活習慣を身に付け、安全能力を高めるための指導法も含めて考えていく。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
幼児の発育・発達段階に即した運動指導のできる知識・能力を身につける。											○	○	○
運動遊びの中での安全指導を身につける。											○	○	○
自らの健康・体力を維持することのできる知識を身につける。											○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス						本講義の学習内容について確認する。							
2. ラジオ体操						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
3. ラジオ体操（反対動作の練習）						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
4. 竹馬①慣れる①・ボール遊び①（一人遊び・ゲーム）						模擬授業に備え、事前の予習（シミュレーション）を十分に行う。							
5. 竹馬②慣れる②・鬼ごっこ第1グループ・ボール遊び②（二人組・ゲーム）						他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
6. 竹馬③高さを変える・鬼ごっこ第2グループ						他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
7. 鬼ごっこ第3グループ・サーキット遊び（小型遊具）①グループ分け						他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
8. 鬼ごっこ第4グループ・サーキット遊び（小型遊具）②創作(1)						他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
9. 鬼ごっこ第5グループ・サーキット遊び（小型遊具）③創作(2)						他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
10. サーキット遊び（小型遊具）④発表・創作ダンス練習① グループ分け・曲決め						他グループのサーキット内容をまとめ、今後の課題を見つける。							
11. 鬼ごっこ第6グループ・創作ダンス練習②創作(1)						他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
12. 鬼ごっこ第7グループ・創作ダンス練習③創作(2)						他の学生の鬼ごっこについてまとめ、課題を見つける。							
13. 創作ダンス練習④創作(3)						学習内容を確認し、創作につなげる。							
14. 創作ダンス練習⑤創作(4)						学習内容を確認し、日々実践してみる。							
15. 創作ダンス発表・鑑賞						他グループの創作ダンス内容をまとめ、今後の課題を見つける。							
履修上の注意													
初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。													
成績評価方法・基準													
授業への参加状況（70%）、及び受講態度（30%）により総合的に評価する。													
提出課題等については、返却し、解説を行う。													
教科書 授業前にプリントを配布する。													
参考書 その都度、指示する。													
備考 質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。													
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。													

授業科目名		体育Ⅱ			単位（総授業時間＋自習時間）				1(30＋15)			
担当者	土屋 葉子	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	子専２年			
授業の概要												
本講義では、体育Ⅰの演習をふまえ、主に大型遊具を使った基本的な運動を理解し、模擬的に実践しながら、指導者として創意工夫ができる能力を養う。また、様々な運動遊びの特性と幼児の発育・発達に合わせた適切な指導ができる指導力を育成するとともに、子どもの興味・関心を戸外に向けることのできる保育者を目指してもらえよう、自然の中での運動の楽しさ、四季の移り変わりの様子を体感できるようにする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
運動遊びの指導内容、方法を習得する。										○	○	○
保育の現場において、より実践的な指導ができる知識・能力を身につける。										○	○	○
自らの健康・体力を維持する。										○	○	○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
１．ガイダンス					本講義の学習内容について確認する。							
２．自然散策（長命館公園）					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
３．講義（幼児の発達と運動）①運動遊びの必要性					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
４．講義（幼児の発達と運動）②幼児期の運動能力					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
５．バルーン遊び①グループ分け・曲決め					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
６．バルーン遊び②創作(1)					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
７．バルーン遊び③創作(2)					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
８．バルーン遊び④創作(3)					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
９．バルーン遊び⑤発表、まとめ					他グループのバルーン発表内容をまとめ、今後の課題を見つける。							
10. 自然散策（水の森公園）					学習内容を確認し、日々実践してみる。							
11.												
12.												
13.												
14.												
15.												
履修上の注意												
初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。												
成績評価方法・基準												
授業への参加状況（70%）、及び受講態度（30%）により総合的に評価する。												
提出課題等については、返却し、解説を行う。												
教科書 授業前にプリントを配布する。												
参考書 その都度、指示する。												
備考 質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。												
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。												

授業科目名		ピアノⅠ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）				
担当者	佐藤和貴、阿部 玲子、渡邊 恵 大友詠里子、阿部陽子				必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年		
授業の概要														
幼児の音楽的感性を育てるために、保育者として必要なピアノの基礎技能を修得する。「音楽Ⅰ」の授業で学んだ基本的な音楽理論の理解を生かしながら、演奏法を主として、ピアノの演奏能力の向上させる練習方法を身に付ける。授業形態は、一斉指導と個別指導を駆使し、運指、読譜等の初歩的なスキルを獲得しながら、最も基本的なピアノ曲の演奏法を身に付ける。子どものうた（春、夏、季節のうた、生活のうた）の弾き歌い、簡易伴奏法(コードなど)について「音楽Ⅰ」で学んだこと生かし実技で実現できるようにする。高等学校教諭としての経験を生かし、総合的なピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。														
授業の到達目標									学位授与の方針との関連					
									1	2	3	4	5	6
ピアノの演奏の基礎的な技術を身に付ける。(「ピアノテキスト」P.45までの課題)												○		○
子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。(「こどものうた 100」より5～10曲)												○		○
音楽Ⅰで学ぶ(3コード、カデンツなどの)知識を基に、基礎的な簡易伴奏法を身に付ける。												○	○	
授業計画の内容							自習（事前・事後学修の内容）							
1. ガイダンス／ピアノ曲を弾く							前期学修の見通しを立てる。							
2. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.6～22）							空き時間などを利用し日常的に、課題の練習をする。							
3. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.24～34） ハ長調、ト長調のスリーコード							日常的に、課題の練習をすることを身に付ける。 ハ、ヘ長調の3コードを仕組みを考えながら弾く。							
4. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.36～46） ヘ長調、ニ長調のスリーコード							日常的に、課題の練習をすることを身に付ける。 ヘ、ニ長調の3コードを仕組みを考えながら弾く。							
5. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.48～54） スリーコードによる簡易伴奏法①							日常的に、課題の練習をすることを身に付ける。 3コードやカデンツを利用して簡易伴奏に生かす。							
6. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.56～62） スリーコードによる簡易伴奏法②							日常的に、課題の練習をすることを身に付ける。 3コードやカデンツを利用して簡易伴奏に生かす。							
7. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.65～71）簡易伴奏試験							日常的な練習が良い結果を招くことを学ぶ。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
8. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.72～78）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
9. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.80～84）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
10. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.86～94）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
11. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.162～168）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
12. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.170～175）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
13. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.178～184）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
14. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.186～189）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
15. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.192～195）							空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
16. 発表試験							日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
履修上の注意														
課題を毎日充分練習し、課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。														
成績評価方法・基準														
発表試験の内容 40%、平常点 60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。														
教科書														
〔こどものうた 100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600円〕／〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000円〕／「音楽事始」														
参考書 なし														
備考														
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。														

授業科目名		ピアノⅡ			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）				
担当者	佐藤和貴、阿部 玲子、渡邊 恵 大友詠里子、阿部陽子			必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年		
授業の概要													
「ピアノⅠ」や「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、乳幼児教育現場で活用度の高い童謡等を中心に学習する。「音楽Ⅱ」の授業との連携を計り、読譜力や奏法の技能をさらに高め、幼稚園、保育所における生活のうたや秋、冬などの季節のうた、保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが弾き歌い数多くできるようする。また、連弾演奏の機会を設け、友達と共に切磋琢磨する中でピアノ技術を高め、人間関係を深めるようにする。子どもの歌の弾き歌い、ピアノ曲の演奏法、連弾の活動に取り組む中で、知識と技術を習得するようにする。高等学校教諭としての経験を生かし、総合的なピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
ピアノの演奏の基礎的な技術を身に付ける。（「ピアノテキスト」P.70までの課題）											○		○
子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。（「こどものうた 100」より 10 曲以上）											○		○
連弾曲に取り組み、互いの技術を切磋琢磨する中で、アンサンブルの基礎を身に付ける。											○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.96～102）						後期学修の見通しを立てる。							
2. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.104～111）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
3. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.114～120）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
4. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.122～124）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
5. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.126～132）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
6. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.134～138）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
7. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.140～144）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
8. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.146～152）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
9. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.154～160）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
10. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い、生活の歌試験						日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。							
11. 童謡の弾き歌い（p.198～202）、連弾						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 連弾曲に取り組み、自分の技術を向上させる							
12. 童謡の弾き歌い（p.206～211）、連弾						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 連弾曲に取り組み、自分の技術を向上させる。							
13. 童謡の弾き歌い（p.212～216）、連弾						連弾曲練習で、アンサンブルの技術を向上させる。							
14. 童謡の弾き歌い（p.220～223）、連弾						連弾曲練習で、アンサンブルの技術を向上させる。							
15. 童謡の弾き歌い（その他の歌）、連弾、まとめ						連弾曲練習で、アンサンブルの技術を向上させる。							
16. 連弾発表試験						日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。							
履修上の注意													
それぞれの課題を毎日充分練習し、課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
発表試験の内容 40%、平常点 60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。													
教科書													
〔こどものうた 100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600 円〕 〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000 円〕													
参考書 なし													
備考													
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		ピアノⅢ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	佐藤和貴、阿部 玲子、渡邊 恵 大友詠里子、阿部陽子			必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専2年		
授業の概要													
「ピアノⅠ」「ピアノⅡ」や「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」の学習を踏まえ、子どものうたの弾き歌い、伴奏法、歌の指導法、初見演奏について身に付けるようにする。特に子どものうた「ふしぎなポケット」を取り上げ、弾き歌いの演奏方法、子どもへの指導方法を作成した指導案を基に学習する。一人一人の学生が各グループで模擬授業を実施しながら、歌唱や弾き歌いを伴った指導法を学習する。実習に向け、コードやルート音による簡易伴奏による弾き歌いの伴奏法及び指導方法も身に付ける。高等学校教諭としての経験を生かし、総合的なピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
ピアノの演奏の技術を身に付ける。(レパートリーを増やす。)											○		○
子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。(レパートリーを増やす。)											○		○
歌の指導法やピアノ伴奏法を習得する中で音楽的表現を身に付ける。											○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い:「ふしぎなポケット」の弾き歌い						前期学修の見通しを立てる。指導案の検討。							
2. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い:「ふしぎなポケット」の伴奏法						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)							
3. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い:「ふしぎなポケット」の指導法						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)							
4. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: 模擬保育（導入）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)							
5. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: 模擬保育（歌唱指導）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)							
6. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: 模擬保育（発表）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(反省と課題)							
7. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.96～102）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
8. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.104～111）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
9. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.114～116）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
10. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.120～124）						日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。							
11. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: 初見演奏について						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 色々な楽を参考に初見試奏を試みる。							
12. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: 初見演奏を体験する						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 色々な楽を参考に初見試奏を試みる。							
13. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: コードを使用しての初見演奏						コードについて「音楽事始」等で学び直す。							
14. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: ルート伴奏法、その他						様々な伴奏パターンを工夫する。							
15. ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い: まとめ						学習のまとめをする。							
履修上の注意													
それぞれの課題を毎日充分練習し、課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
発表試験の内容 40%、平常点 60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。													
教科書													
〔こどものうた 100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600 円〕 〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000 円〕													
参考書 なし													
備考													
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		ピアノⅣ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	佐藤和貴、阿部 玲子、渡邊 恵 大友詠里子、阿部陽子			必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	子専 2 年		
授業の概要													
「ピアノⅠ」「ピアノⅡ」や「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」の学習を踏まえ、子どもの歌の弾き歌い、初見演奏、コード付け、即興演奏について身に付けるようにする。特に、コードによる（簡易コード読み替えを含む）簡易伴奏や、曲想に合った伴奏型の工夫についてなど、多彩な伴奏法を学習する。また、授業の中で、初見視奏や初見視唱など初見演奏、さらに簡単な即興演奏などの能力を高めるための学習をすすめる、保育現場での対応力を身に付けるようにする。高等学校教諭としての経験を生かし、総合的なピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
ピアノの演奏の技術を身に付ける。											○		○
子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。											○		○
初見演奏、コード付け、即興演奏について身に付ける。											○	○	
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ハ長調・ヘ長調のコードの復習						前期学修の見通しを立てる。							
2. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ト長調・ニ長調のコードの復習						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
3. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ハ長調のメロディにコードを付ける						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
4. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ヘ長調のメロディにコードを付ける						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
5. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ト長調のメロディにコードを付ける						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
6. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ニ長調のメロディにコードを付ける						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
7. 童謡の弾き歌い・初見演奏：曲にふさわしい伴奏型を考える						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。							
8. 童謡の弾き歌い・初見演奏：短調のコードについて						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 長調学習を基に短調について学び、技術を練習する。							
9. 童謡の弾き歌い・初見演奏：その他のコードについて						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 様々なコードを学び、対応した技術を練習する。							
10. 童謡の弾き歌い・初見演奏：初見で伴奏付けをする						日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。							
11. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ピーマーチをアレンジして弾く（様々な伴奏型）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 様々な伴奏型を工夫し演奏する。							
12. 童謡の弾き歌い・初見演奏：ピーマーチをアレンジして弾く（移調）						空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 調性を工夫し、展開を楽しみながら演奏する。							
13. 童謡の弾き歌い・初見演奏：場面に合った演奏①（簡単なメロディを作曲する）						メロディー作曲の楽しみを味わう。							
14. 童謡の弾き歌い・初見演奏：場面に合った演奏②（自作のメロディに即興で伴奏を付ける）						自分で考えたメロディーに伴奏を工夫する。							
15. 童謡の弾き歌い・初見演奏：まとめ						学習のまとめをする。							
16. コード付け試験						コード付けを工夫する楽しさを味わう。							
履修上の注意													
それぞれの課題を毎日充分練習し、課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。													
成績評価方法・基準													
発表試験の内容 40%、平常点 60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進捗状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。													
教科書													
〔こどものうた 100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,600 円〕 〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2,000 円〕													
参考書 なし													
備 考													
質問等については、授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。													

授業科目名		保育実習指導Ⅰ【1年前期】			単位（総授業時間＋自習時間）				2（60+30）			
担当者	佐藤深・佐藤和・高橋・大瀬戸・米川・山沢 他		必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	子専1年		
授業の概要												
保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習Ⅰ」の事前・事後指導に関する科目である。2年次に予定されている「保育実習Ⅰ（保育所・施設実習）」及び「保育実習Ⅱ（保育所実習）」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また、実際に保育所（短大附属ますみ保育園）の見学及び観察・参加実習、児童福祉施設（児童養護施設・障害児入所施設）及び障害者支援施設の見学を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
保育実習の意義・目的を理解する。										○	○	○
実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。										○		○
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。										○	○	○
実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。										○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）						
1. オリエンテーション・2年間の予定【佐藤深・大瀬戸】						2年間の学修の見通しを立てる。課題①に取り組む。						
2. 実習及び実習指導の予定・概略の説明【〃】課題①提出						実習指導の予定を確認する。課題②に取り組む。						
3. 実習先希望調査説明【大瀬戸・佐藤和・佐藤深】課題②提出						希望先を調べ、調査票を提出する。課題③〃。						
4. ボランティア活動について【横山】課題③提出						自分で参加できる活動を調べる。課題④に取り組む。						
5. 実習の意義・目的の理解【佐藤深・大瀬戸】課題④提出						実習の手引きを読み、理解する。課題⑤に取り組む。						
6. 保育所・施設についての理解【高橋・大瀬戸】課題⑤提出						視聴した動画の内容をまとめる。課題⑥に取り組む。						
7. 保育士の仕事についての理解【高橋・大瀬戸】課題⑥提出						視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。						
8. 保育所見学実習・準備・ガイダンス【佐藤深・佐藤和・高橋】						説明プリントをよく読み、見学の準備をする。						
9. 保育所見学実習（附属保育園）【佐藤深・佐藤和・高橋】						見学した内容をしっかりと記録し、提出する。						
10. 保育所見学・事後指導【佐藤深・佐藤和・高橋】						記録を基に見学の振り返りを行う。						
11. 施設見学Ⅰ・準備・ガイダンス【大瀬戸・米川・山沢】						説明プリントをよく読み、見学の準備をする。						
12. 施設見学Ⅰ（児童養護施設）【大瀬戸・米川・山沢】						見学した内容をしっかりと記録し、提出する。						
13. 〃【大瀬戸・米川・山沢】												
14. 施設見学Ⅰ・事後指導【大瀬戸・米川・山沢】						記録を基に見学の振り返りを行う。						
15. 施設見学Ⅱ・準備・ガイダンス【大瀬戸・米川・山沢】						説明プリントをよく読み、見学の準備をする。						
16. 施設見学Ⅱ（障害者支援施設）【大瀬戸・米川・山沢】						見学した内容をしっかりと記録し、提出する。						
17. 〃【大瀬戸・米川・山沢】												
18. 施設見学Ⅱ・事後指導【大瀬戸・米川・山沢】						記録を基に見学の振り返りを行う。						
19. 保育実習報告会（2年生）への参加【全教員】						2年生の実習報告を聴き、1年後の実習までの間に自分で行うべきことを明確にする。						
20. 〃【全教員】												
履修上の注意												
本授業への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては2年次の実習が出来ないことがある。												
成績評価方法・基準 授業への取り組み状況（80％）提出課題（20％）により総合的に評価する。提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書 〔保育者になるために〕〔中田カヨ子他〕〔萌文書林〕〔1,620円〕 〔保育実習の手引き〕〔宮城県保育士養成校連絡協議会〕												
参考書 〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕												
備考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		保育実習指導Ⅰ【1年後期】			単位（総授業時間＋自習時間）				2（60+30）				
担当者	佐藤深・佐藤和・高橋・大瀬戸・米川・山沢 他		必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専1年			
授業の概要													
保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習Ⅰ」の事前・事後指導に関する科目である。2年次に予定されている「保育実習Ⅰ（保育所・施設実習）」及び「保育実習Ⅱ（保育所実習）」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また、実際に保育所（短大附属ますみ保育園）の見学及び観察・参加実習、児童福祉施設（児童養護施設・障害児入所施設）及び障害者支援施設の見学を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
保育実習の意義・目的を理解する。											○	○	○
実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。											○		○
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。											○	○	○
実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。											○		○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
21. 実習記録（実習日誌）の書き方①【高橋・岡崎】						視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。							
22. 実習記録（実習日誌）の書き方②【高橋・岡崎】						視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。							
23. 指導計画（指導案）の作成と指導【高橋・岡崎】						視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。							
24. 保育所基礎実習Ⅰ・準備①【附属保育園主任保育士】						説明プリントをよく読み、実習の準備をする。							
25. 保育所基礎実習Ⅰ・準備②ガイダンス【佐藤深・佐藤和・高橋】						説明プリントをよく読み、実習の準備をする。							
26. 保育所基礎実習Ⅰ（附属保育園）【佐藤深・佐藤和・高橋】						観察・参加実習の内容をしっかりと記録し、提出する。							
27. 〃〃〃													

授業科目名		保育実習指導Ⅱ				単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	佐藤深・佐藤和・高橋・大瀬戸・米川・山沢他		必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	子専2年			
授業の概要													
保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習Ⅱ」の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。「保育士」資格取得のために必修の3回の実習（保育所実習Ⅰ及びⅡ、施設実習：各10日間、）合計約6週間）に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等実習の準備を行う。また、実習終了後は、実習報告会等を通して実習の振り返りを行って課題を明確にし、保育者になるための学習を行う。													
授業の到達目標								学位授与の方針との関連					
								1	2	3	4	5	6
保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。											○	○	○
実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。											○		○
保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。											○		○
保育士の専門性と職業倫理について理解する。											○	○	○
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。											○	○	○
授業計画の内容						自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション【佐藤深・大瀬戸】						2年次前期の実習へ向けた準備の見通しを立てる。							
2. 実習の意義・目的の明確化・実習の心構えの確認【佐藤深】						実習の手引を熟読し、実習の準備を始める。							
3. 保育所保育士による講義【附属保育園長】						講話内容を確認し、実習の準備を行う。							
4. 保育所実習の準備【佐藤深・佐藤和・高橋】						実習関係書類の記入等の準備を行う。							
5. 保育所実習Ⅰ・直前ガイダンス【佐藤深・佐藤和・高橋】						ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。							
6. 保育所実習Ⅰの振り返り【佐藤深・佐藤和・高橋】						実習Ⅰを振り返り、実習Ⅱの課題に取り組む。							
7. 保育所実習Ⅱ・直前ガイダンス【佐藤深・佐藤和・高橋】						ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。							
8. 保育所実習Ⅱの振り返り【佐藤深・佐藤和・高橋】						実習Ⅱを振り返り、施設実習の課題に取り組む。							
9. 施設実習の準備【大瀬戸・米川・山沢】						実習関係書類の記入等の準備を行う。							
10. 施設実習・直前ガイダンス【大瀬戸・米川・山沢】						ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。							
11. 施設実習の振り返り【大瀬戸・米川・山沢】						施設実習を振り返り、今後の課題を明確にする。							
12. 実習報告会準備（資料作成・発表練習）【全教員】						報告会資料、発表準備等を行う。							
13. 実習報告会【全教員】						報告会の振り返りを行い、次の課題を考える。							
14. 実習の反省評価と疑問の解消【佐藤深・大瀬戸】						実習を振り返り、実習中の疑問を整理する。							
15. 今後の課題の明確化【佐藤深・大瀬戸】						実習を振り返り、幼稚園実習の課題を明確にする。							
16. 実習評価等の個別事後指導【全教員】						実習評価を基に、各自の課題を明確にする。							
17. 保育実践報告会の準備（資料作成・発表練習）【全教員】						報告会資料、発表準備等を行う。							
18. 保育実践報告会【全教員】						報告会の振り返りを行い、卒業迄の課題を考える。							
19. 資格登録・免許申請書類の作成【教務課】						申請書類作成のために必要な物を準備する。							
20. まとめ【佐藤深・大瀬戸】						2年間の学修内容の振り返りを行う。							
履修上の注意													
本科目への取り組み状況（出席や各種課題の提出）によっては学外実習の単位も認定が出来ないことがある。													
成績評価方法・基準 授業への取り組み状況（80％）提出課題（20％）により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。													
教科書 〔保育実習の手引き〕〔宮城県保育士養成校連絡協議会〕 〔本当に知りたいことが分かる！保育所・施設実習ハンドブック〕〔小原敏郎他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,750円〕													
参考書 〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕													
備考													
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。													

授業科目名		教育実習指導【1年次】			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	横山・土屋・岡崎 他	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	子専1年			
授業の概要												
「幼稚園教諭二種免許状」取得のために必修の科目であり、教育実習の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。2年次に予定されている「幼稚園実習」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また、実際に幼稚園（短大附属ますみ幼稚園）の見学及び観察・参加実習を行う。実習終了後は、他の授業と連携して、グループワークや発表を通して実習の振り返りを行い、課題を明確にする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
実習の意義、目的を明確にし、実習内容(実習の計画、観察、記録、評価の方法等)について理解を深める。										○		○
実習生として遵守すべき義務等を理解し、教育活動に参画する意識を高める。										○	○	○
実習で得た知識と経験をふりかえり、さらに習得すべき知識や技能等を理解する。										○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション・2年間の予定【横山】					2年間の学修の見通しを立てる。							
2. 実習先の説明・希望調査【土屋・横山・岡崎】					実習の希望先を調べ、調査票を提出する。							
3. 幼稚園見学実習・準備・ガイダンス【横山・岡崎】					説明プリントをよく読み、見学の準備をする。							
4. 幼稚園見学実習（ますみ附属幼稚園）【横山・岡崎他】					見学した内容をしっかりと記録し、提出する。							
5. 幼稚園見学実習・事後指導【横山・岡崎】					記録を基に見学の振り返りを行う。							
6. 基礎実習Ⅰ準備【横山・岡崎】					説明プリントをよく読み、実習の準備をする。							
7. 基礎実習Ⅰガイダンス【附属幼稚園主任】					説明プリントをよく読み、実習の準備をする。							
8. 基礎実習Ⅰ（附属幼稚園・観察実習）【横山・岡崎 他】					観察・参加実習の内容をしっかりと記録し、提出する。							
9. 〃 【横山・岡崎 他】												
10. 〃 【横山・岡崎 他】												
11. 基礎実習Ⅰ事後指導（グループ討議）【横山・岡崎】					記録を基に基礎実習の振り返りを行う。							
12. 認定こども園見学・準備・ガイダンス【横山・佐藤深 他】					説明プリントをよく読み、見学の準備をする。							
13. 認定こども園見学【横山・佐藤深 他】					見学した内容をしっかりと記録し、提出する。							
14. 認定こども園見学・事後指導【横山・佐藤深 他】					記録を基に見学の振り返りを行う。							
15. 実習報告会（2年生発表）参加【全教員】					今後自分で行うべきことを明確にする。							
16. 基礎実習Ⅱ準備・ガイダンス【横山・岡崎】					説明プリントをよく読み、実習の準備をする。							
17. 基礎実習Ⅱ（附属幼稚園・観察・参加実習）【横山・岡崎 他】					観察・参加実習の内容をしっかりと記録し、提出する。							
18. 〃 【横山・岡崎 他】												
19. 〃 【横山・岡崎 他】												
20. 基礎実習Ⅱ事後指導【横山・岡崎】					記録を基に基礎実習の振り返りを行う。							
履修上の注意 本科目への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては実習が出来ないことがある。なお、本科目は、教育実習（学外実習）と合わせて評価される。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み状況（80％）提出課題（20％）により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書【教育実習の手引き】〔宮城県幼稚園教育実習連絡協議会〕												
参考書【幼稚園教育要領解説】〔文部科学省〕〔フレーベル館〕												
備 考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		教育実習指導【2年次】			単位（総授業時間＋自習時間）				1（30+15）			
担当者	横山・岡崎・高橋・三浦 他子ども生活専攻教員	必・選	必	形態	演習	学期	通年	対象	子専2年			
授業の概要												
「幼稚園教諭二種免許状」取得のために必修の科目であり、教育実習の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。2年次後期の「幼稚園実習」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また、実際に幼稚園で約4週間の学外実習（見学・観察・参加・指導実習等）を行う。実習終了後は、「保育・教職実践演習」の授業と連携して、グループワークや発表を通して実習の振り返りを行い、課題を明確にする。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
実習の意義、目的を明確にし、実習内容(実習の計画、観察、記録、評価の方法等)について理解を深める。										○		○
実習生として遵守すべき義務等を理解し、教育活動に参画する意識を高める。										○	○	○
実習で得た知識と経験をふりかえり、さらに習得すべき知識や技能等を理解する。										○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. オリエンテーション（2年次）【横山・岡崎】					2年次後期の実習へ向けた準備の見通しを立てる。							
2. 実習及び実習指導の予定・概略【横山・岡崎】					実習・実習指導の予定を確認する。							
3. 実習の意義・目的の明確化【横山・三浦】					実習の手引を熟読し、実習の準備を始める。							
4. 実習の心構えについての確認【横山・三浦】					実習の手引を熟読し、実習の準備を始める。							
5. 幼稚園についての確認【横山・岡崎・高橋】					視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。							
6. 幼稚園教諭の仕事についての確認【横山・岡崎・高橋】					視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。							
7. 実習関係書類の準備【横山・岡崎・高橋】					実習関係書類の記入等の準備を行う。							
8. 日誌等記録の書き方について【高橋・岡崎】					授業での内容を基に、記録の仕方を確認する。							
9. 指導計画立案及び指導案の作成【高橋・岡崎】					授業での内容を基に、指導計画案を作成する。							
10. 実習先幼稚園との打合せについて【横山・岡崎】					ガイダンス内容を確認し、訪問の準備を行う。							
11. 実習直前ガイダンス【横山・岡崎】					ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。							
12. 実習の振り返りと疑問の解消【横山・三浦】					実習を振り返り、今後の課題を明確にする。							
13. 実習報告会準備【横山・岡崎 他】					報告会資料、発表準備等を行う。							
14. 実習報告会での発表【全教員】					報告会の振り返りを行い、卒業迄の課題を考える。							
15. 実習評価等の個別事後指導【全教員】					実習評価を基に、各自の課題を明確にする。							
履修上の注意												
本科目への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては実習が出来ないことがある。 なお、本科目は、教育実習（学外実習）と合わせて評価される。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み状況（80％）提出課題（20％）により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書【教育実習の手引き】【宮城県幼稚園教育実習連絡協議会】												
参考書【幼稚園教育要領解説】【文部科学省】【フレーベル館】 【本当に知りたいことが分かる！ 保育所・施設実習ハンドブック】【小原敏郎他】【ミネルヴァ書房】【2,750 円】												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												

授業科目名		保育・教職実践演習（幼稚園）			単位（総授業時間＋自習時間）				2（30+60）			
担当者	岡崎善治・高橋恵美 山崎敦子	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	子専2年			
授業の概要												
短大における2年間の学びの総まとめとして、教職課程（幼稚園教諭）および保育士養成課程における学修（授業や教育実習や保育実習等）の振り返りを行い、卒業後に保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）として働くために必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認して、自己の課題を明確にする。その上で、保育者として必要な資質能力や技能を身につけていくため、保育現場での勤務経験のある担当者によるグループ討論、ロールプレイ、模擬保育、事例研究、フィールドワーク等を行う。												
授業の到達目標							学位授与の方針との関連					
							1	2	3	4	5	6
学内での学修および教育・保育実習を通しての学び等を振り返り、自己の課題を明確する。										○		○
保育実践に必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認する。										○		○
保育者としての倫理観と規範意識を持ち、適切に行動できるようになる。										○	○	○
子どもの発達や心身の状況に応じて、適切な指導を行うことができるようになる。										○	○	○
子どもの状況等に応じて、指導計画や保育環境等を工夫できるようになる。										○		○
授業計画の内容					自習（事前・事後学修の内容）							
1. これまでの学修の振り返り（履修カルテの記入）〔岡崎・高橋 他〕					履修カルテを基に、これまでの学修を振り返る。							
2. 保育・教育実習の学びの振り返り〔岡崎・高橋 他〕					これまでの実習での学びについて振り返りを行う。							
3. 子ども理解について：事例検討〔岡崎・高橋 他〕					既習の授業内容（子どもの発達等）を確認する。							
4. 子ども理解とクラス運営〔山崎・高橋 他〕					既習の授業内容（保育内容等）を確認する。							
5. 保育現場の理解（フィールドワーク）〔岡崎・高橋 他〕					保育現場訪問の準備と振り返りを行う。							
6. 保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任〔附幼稚園長〕					講話内容を確認し、就職後の職務を考える。							
7. 模擬保育のための指導計画の作成〔山崎・高橋 他〕					次回以降の模擬保育の指導計画を作成する。							
8. 指導計画に基づく模擬保育（集団遊び・ゲーム）①〔山崎 他〕					模擬保育のための準備を行い、終了後は、振り返りを行って課題を明確にする。							
9. 指導計画に基づく模擬保育（集団遊び・ゲーム）②〔山崎 他〕												
10. 指導計画に基づく模擬保育（集団遊び・ゲーム）③〔高橋 他〕												
11. 指導計画に基づく模擬保育（集団遊び・ゲーム）④〔高橋 他〕												
12. 指導計画に基づく模擬保育（集団遊び・ゲーム）⑤〔高橋 他〕												
13. 危機管理・保育のトラブル対応（ロールプレイ）〔岡崎・高橋 他〕					授業で実践した内容を復習する。							
14. 保護者対応について（ロールプレイ）〔山崎・高橋 他〕					授業で実践した内容を復習する。							
15. 保育者としての資質能力の確認・まとめ〔岡崎・高橋 他〕					保育者に必要な資質能力について再確認する。							
履修上の注意												
保育者になるための総まとめの授業のため、積極的に授業に取り組む。												
成績評価方法・基準												
授業への取り組み状況（50％）提出課題（50％）により総合的に評価する。 提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。												
教科書 〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕 〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕												
参考書 〔本当に知りたいことが分かる！保育所・施設実習ハンドブック〕〔小原敏郎他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,750円〕												
備考												
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。												